

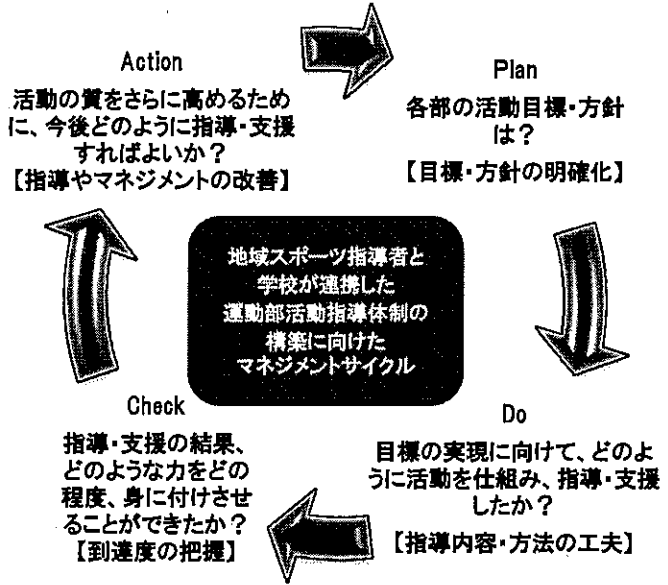
事業報告書(様式5)

ダンスを通じて、地域を元気に！

学校名	福島県立橋高等学校
部活動名	ダンス部
部員数	47人(女子47人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	024-535-3395
学校Eメールアドレス:	



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**  
 (1)地域で開催される発表会(わらじ祭り・福島教育フォーラム・学習センターでのダンスイベント等)や学校行事に積極的に参加し、パフォーマンスを行った。  
 (2)個人のダンススキル向上のために、初歩的な段階から見直し、ステップ・フォーメーション等の基礎練習に時間を多く割いた。  
 (3)「観客の方に喜んでいただけるような発表とは何か」を、各自に考えさせた。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**  
 (1)わらじ祭りでは、3年連続のグランプリを獲得することが出来た。福島教育フォーラムにおいては、「スポーツを通じての復興」をテーマにパフォーマンスを行い、好評を得ることが出来た。  
 (2)毎日の練習の中で、基礎練習を取り入れた結果、ダンススキルは勿論のこと、個々の体幹の機能が向上した。  
 (3)自己満足で終わるのではなく、他者を思いやる心を育てることが出来た。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**  
 (1)基礎練習のマニュアル化:部員が一新しても、高いスキルを維持するため。  
 (2)全国大会への参加:地域のコンテストだけではなく、全国まで続くような大会に参加することで、部員の意欲を向上させるため。上位入賞を果たせば、地域の復興にも寄与できるため。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**  
 (1)生徒自身で健康状態がチェック出来るよう、必ず練習は、大型鏡の前で行う。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**  
 (1)外部指導者による指導(基礎練習・振り付け)は、主に土曜日をお願いした。その都度課題を出してもらい、平日は顧問の指導のもと、課された課題を克服するよう練習に励んだ。  
 (2)生徒個々が取り組む課題については、外部指導者と顧問が土曜日の練習時に話し合った。外部指導者には、気付いた点を書き留めてもらい、平素の練習に活かした。

体幹を鍛えるトレーニング  
体幹を鍛えるため、片足で立った状態でリズムに合わせる。

福島教育フォーラムにて発表

部活動の様子がわかる写真①



部活動の様子がわかる写真②



大型鏡で自分をチェック  
練習時は、常に自分の様子を鏡でチェック。

大型鏡の使用  
タテ1.8m×ヨコ1.2mの特注の大型鏡3枚を使用。

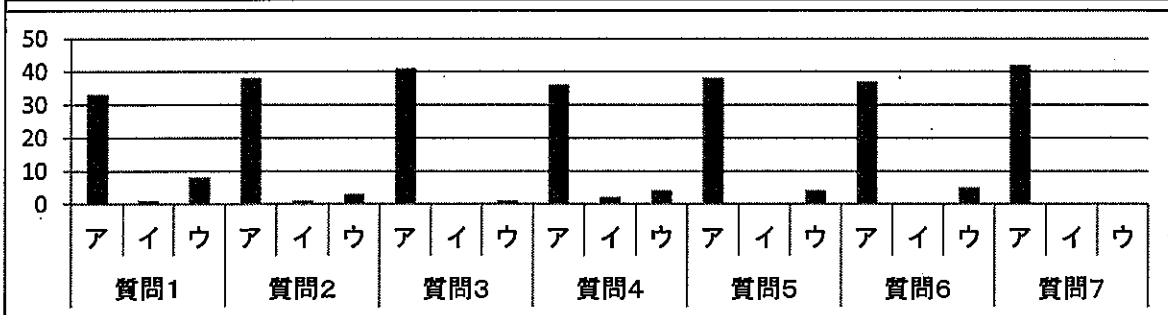
安全確保のために配慮している場面の写真等



工夫した用具や資料の写真等



【生徒アンケート結果】  
今年度の部活動についての質問の結果について



【質問1】指導者は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたか？	【質問2】指導者は、活動にあたって安全に配慮して指導していたか？	【質問3】部活動をおして、あなたの専門的な技能は高まったか？	【質問4】部活動をおして、あなたの体力や運動能力は高まったか？	【質問5】部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか？	【質問6】外部指導者の言葉づかい、態度は、指導者として適切か？	【質問7】部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたか？	ア はい イ いいえ ウ どちらとも
---	----------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------

今後の活動  
橋高ダンス部のこれから

外部指導者＝ダンスのインストラクター(専門家)に指導していただいたことで、個々の基本的な運動能力から向上させることが出来た。最後には、部員同士で互いをチェックをし、自分達で課題を見つけることが出来るようになった。  
3月には定期発表も予定しており、ここでも「地域への貢献」「復興」をテーマにした発表を行いたい。  
また、次年度はぜひダンスの全国大会(ダンススタジアム)に参加し、自分達の実力を試したい。そして更なる向上を目指したい。

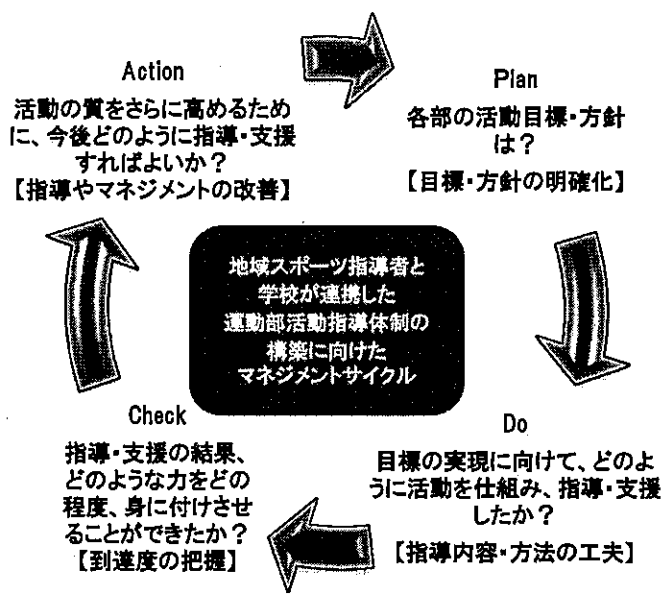
**事業報告書(様式5)**

「自主・自立・自律」という校風の元、競技についての専門の顧問がいなくても、外部コーチを活用して生徒が主体となって行う部活動の実践例

学校名	橘高等学校
部活動名	サッカー部
部員数	14人(男子12人、女子2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-535-3395  
 学校Eメールアドレス: school@tachibana-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1) 技術指導により、生徒の基礎技術向上に取り組む。
- (2) トレーニング指導により、戦術やプレーを組み立てる力を付けさせる。
- (3) 集団行動への指導により、集団行動における規範を身に付けさせる。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1) 外部コーチがいない時でも、一人一人の基礎練習時の取り組む姿勢に変化があった。
- (2) 基礎練習から発展して、複雑な連携からゴールを狙えるようになった。
- (3) 集合時間を意識して行動できるようになり、挨拶等もはっきりと行えるようになった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1) 意識向上のために練習後に自己評価表を書かせる。
- (2) 遠征等を増やし、より緊張感を持たせる。
- (3) 試合後のミーティングで改善点を明確化させ、練習に還元させる。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1) ゴール保管時に木材を敷き、雨天時の劣化防止を行った。
- (2) ゴール使用時のおもりを置き、強風時のゴール転倒を防止した。
- (3) ウェイトトレーニング時の補助器具を用いて安全確保に努めた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1) 日頃からメール等での情報交換を欠かさず行った。
- (2) 外部コーチが来る日と来ない日でのメニュー等の役割分担を行った。

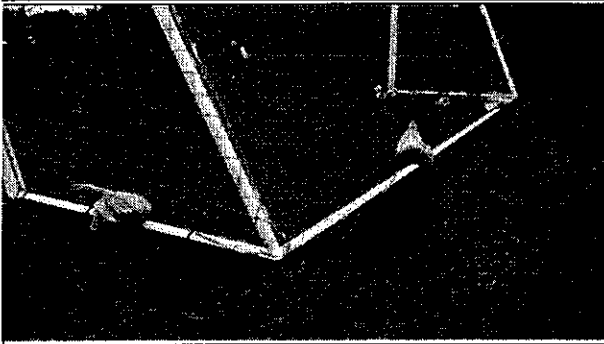
【指導】  
場面練習前の動きの確認



【指導】  
パスの基礎指導



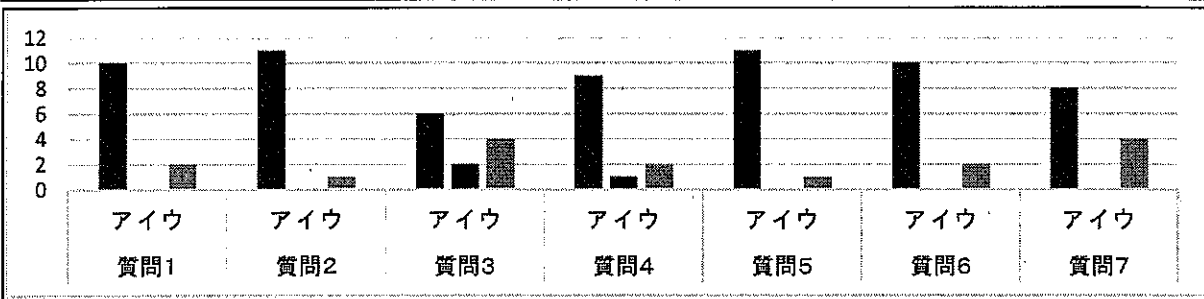
【安全確保の工夫】  
指導者による自作の重り



【教材の工夫】  
基礎向上のためのコーン



【生徒アンケート結果】  
今年度の部活動についての質問の結果について



【質問1】指導者は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたか？	【質問2】指導者は、活動にあたって安全に配慮して指導していたか？	【質問3】部活動をおして、あなたの専門的な技能は高まったか？	【質問4】部活動をおして、あなたの体力や運動能力は高まったか？	【質問5】部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか？	【質問6】外部指導者の言葉づかい、態度は、指導者として適切か？	【質問7】部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたか？	ア はい イ いいえ ウ どちらとも
---	----------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------

【外部指導者と本校の指導目標】

本校の部活動における指導目標と外部指導者との関係について

学校の取組としては、本校の校是である「自主・自立・自律」を今後とも進めていく。サッカー部としては、グラウンド状況が特殊なので、そういった状況において目標・テーマの達成ができるような練習内容を外部コーチから提供していただいている。元プロの選手ということもあり、練習にはいつも以上に緊張感が漂う良い刺激になる雰囲気ができあがっている。選手からの人望も厚く、時に厳しく、時に優しくとサッカーという集団的なスポーツにおける人間関係の形成も十分にできている。

アンケートの結果は、質問3、4ではイの「そう思わない」を選んだ生徒がいたが、これは外部指導者に関係なく、日々の自分たちの練習に対して、まだまだ満足でない点があるということであり、逆に意欲や向上心の高さを表しているとも受け取れる。

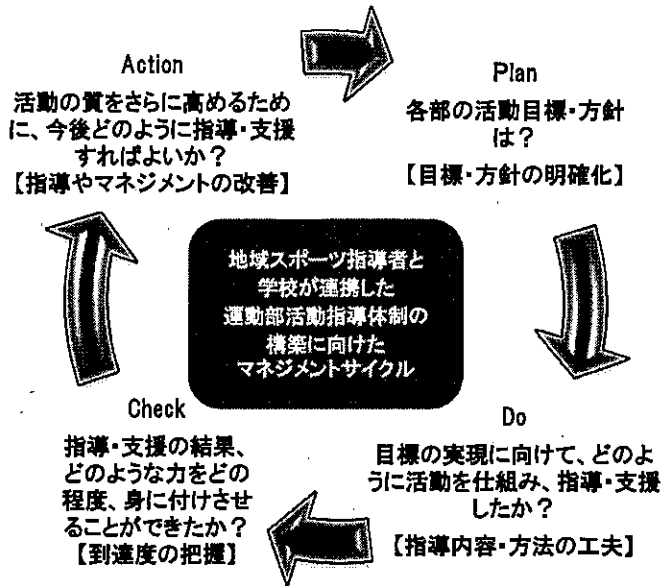
A1 事業報告書(様式5)

学校組織を挙げて生徒が輝く運動部活動を  
目指した実践例

学校名	福島県立福島明成高等学校
部活動名	ボクシング部
部員数	4人(男子4人、女子0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-546-3381.  
学校Eメールアドレス:assist@fukushimameisei-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1)ロードワークやショートダッシュなど基礎体力の向上を図った。
- (2)サイドステップ、縄跳びなどを取り入れリズムや筋力の強化を図った。
- (3)マスボクシングやスパーリングなど、実践に近づけた練習を行った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1)ショートダッシュの効果で、パンチのスピードがアップした。
- (2)サイドステップの効果でパンチをサイドにはずせるようになったり、サイドからの攻撃が出来るようになった。
- (3)ロードワークの効果でスタミナがアップし、筋力強化と心肺機能の強化を図ることが出来た。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1)ロードワークや腹筋・背筋・首筋など継続的なトレーニングをする。
- (2)スピードを意識してトレーニングをする。
- (3)実際に動く相手をイメージしてトレーニングをする。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)指導者がいない場合のマスボクシングやスパーリングをしないこと。
- (2)無理な減量を強制しない。(本人の体重の5%以内程度の減量を認める)
- (3)雨や雪で道路の状態がよくない場合は、ロードワークを強制しない。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)基礎技術(攻撃・防御)を習得させる。
- (2)試合での間合いを習得させる。
- (3)攻防のタイミングを身に付けさせる。

【シャドウ・ボクシング】  
 説明文：仮想の相手を想定して攻防の練習をする。



【ミット打ち】  
 説明文：的確なタイミングでの攻撃・防御を習得する。



【マスボクシング・スパーリング】  
 説明文：ヘッドガードをして実践練習をする。

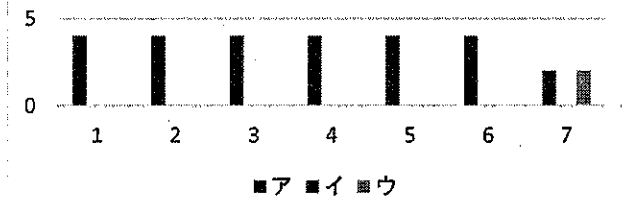


【ワンダーコア】  
 説明文：腕と下半身の筋力アップを図る道具。



【タイトル：アンケートの集計】  
 説明文：部活動の目標や方針が具体的に示されていますかの設問が半々だった。

### アンケート集計



【質問1】指導者は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたか？	【質問2】指導者は、活動にあたって安全に配慮して指導していたか？	【質問3】部活動をおこなって、あなたの専門的な技能は高まったか？	【質問4】部活動をおこなって、あなたの体力や運動能力は高まったか？	【質問5】部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか？	【質問6】外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切か？	【質問7】部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたか？	ア はい イ いいえ ウ どちらとも
---	----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------

【タイトル：部活動の活性化】  
 説明文：運動部・文化部を問わず活性化を推進している。

ボクシング部の他、馬術部、ウエイトリフティング部などの特殊競技をはじめ、その他バレーボール部やサッカー部なども活発に活動をしている。文化部でも、合唱部や写真部なども活発に活動している。生徒数が減少している中で、部活動に取り組む生徒は非常に貴重である。活動している生徒はこれまで通りもしくはそれ以上の活動をしてもらいたい。また、部活動に取り組んでいない生徒への対応が求められているが、解決策がなかなか見いだせずにいるのが現状です。

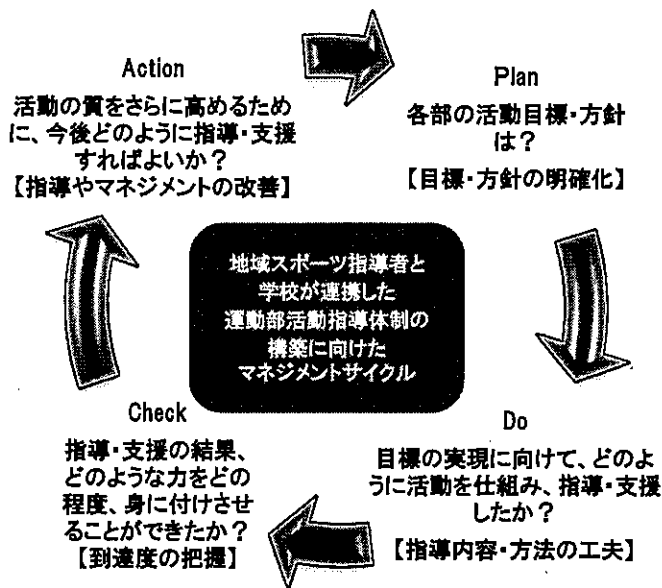
事業報告書(様式5)

地域指導者の活用による部活動の活性化と競技力の向上について

学校名	福島立福島西高等学校
部活動名	弓道部
部員数	37名(男子18名 女子19名)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-546-3391
学校Eメールアドレス:



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

(1)顧問の指導で不足する技術的・精神的指導を、外部の指導者を招聘することにより補い、生徒の競技力の向上を図る。  
(2)選手であり、指導経験が豊富な指導者と顧問が連携・協力し、弓道場の環境整備や生徒に弓道独特の礼法など日常生活の規範を正しく身に付けられるように努める。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

(1)競技上の特性上、新入部員は全員初心者であるが、当該指導者の協力により、基礎から射法まで、一貫した指導計画を立てることが出来た。  
(2)昇段審査の練習を通して、部員全員が競技上の礼法を習得することが出来るようにした。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

(1)審査の前の丁寧な体配指導により、秋の昇段審査において、中間審査中であつたが1年生壱級5名、2年生初段2名、弐段1名と受験者全員が合格できた。2年生は春の昇段審査で参段を目指し練習に励んでいる。  
(2)射法・礼法等に細かい点で自己流の癖が残る生徒がおり、その改善が今後の課題である。  
(3)あいさつがきちんとできるようになってきた。また、毎日の掃除も丁寧にを行うようになり、施設を大事に扱う姿勢が身に付いてくるとともに用具の手入れについても意識が高まった。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)束中していない生徒は、危険なため、両端の的前には立たせない。  
(2)部員全員で7月に、講師の先生指導の下、安土整備を行った。矢の跳ね返りもなく安全が確保できた。  
(3)防矢ネットが破損し、役目を果たしておらず、購入が厳しいため、用務員さんに手縫いで修理して頂いた。  
(4)冬場の寒さ対策として、防寒幕の整備(穴あきビニールシートの設置)を行った。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)顧問は必要物品の確保や練習を行う道場の安全確保など、主に練習環境の整備を担当した。その際には、地域の指導者の意見も参考とした。  
(2)地域の指導者には主に、技術面・礼法面での指導を担当していただいた。

【射体配指導】  
基本体(基本の姿勢・動作)と入退室の仕方について



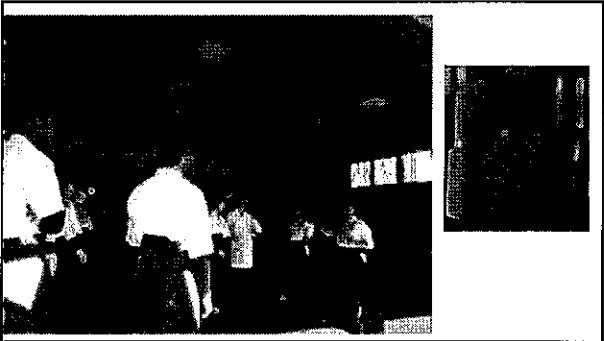
【射法指導】  
1年生への射法指導



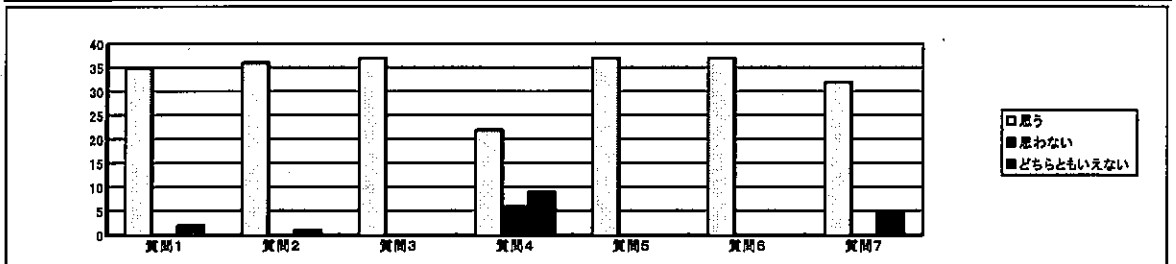
【安全確保の工夫】  
安土整備・防寒シート



【指導の工夫】  
アイパッドを利用した射形指導



【本事業に関する部員のアンケート結果】  
11月に健康教育課から依頼のあったアンケート調査の結果をグラフにした。



【質問1】指導者は、あなたの部活動に対する思いや真意を理解して指導していたか？	【質問2】指導者は、活動にあたって安全に配慮して指導していたか？	【質問3】部活動をとおして、あなたの専門的な技能は高まったか？	【質問4】部活動をおして、あなたの体力や運動能力は高まったか？	【質問5】部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れているか？	【質問6】外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切か？	【質問7】部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されていたか？	ア はい イ いいえ ウ どちらとも
---	----------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--------------------------

【客観的な成果・分析】  
実践校としての成果・感想と今後の取り組み

大会結果(新人大会男女とも団体県大会出場、女子個人は優勝し、東北大会・全国選抜大会(準決勝まで)に出場できた。)や昇段審査結果から、競技力の向上が同え、本事業の効果である。また、アンケートの結果からも、指導者に対する部員の評価も概ね良好である。

日々の練習も、全体的にメリハリのある練習となった。弓道は個人指導が中心となりがちだが、アイパッドを利用し、一人一人への指導を全体へと広げてくださり多くを学ぶ機会となった。今後、体配が正しくでき、息合いに合わせて安定した行射ができるよう協力し



## 事業報告書(様式5)

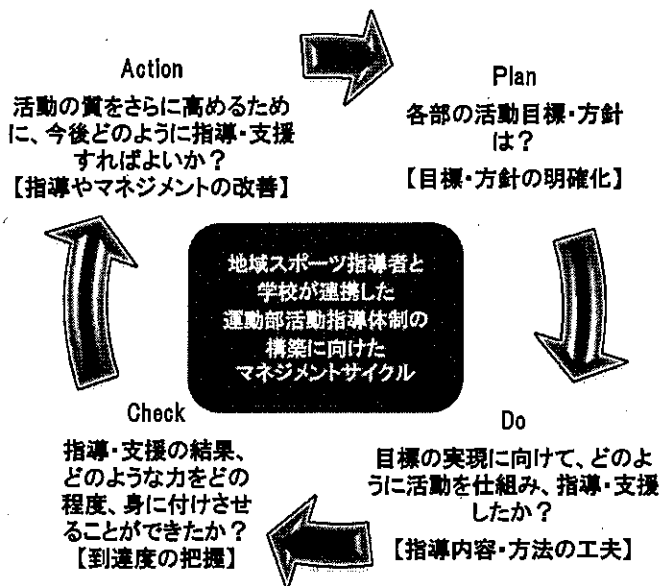
3年間指導計画を基に、3つの視点から競技力向上を目指した実践例

学校名	福島県立川俣高等学校
部活動名	フェンシング部
部員数	14人(男子8人、女子6人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-566-2121

学校Eメールアドレス:school@kawamata-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

- (1)体力の増強【ランニング・サーキットトレーニング・ウエイトトレーニング・リズム体操】
- (2)技術の向上【全般・攻撃・防御】技の習得・複合攻撃の習得・4つのポジションのディフェンスの習得
- (3)戦術【4サイクルの理解・さまざまな戦術の理解・習得】

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

- (1)トーナメント戦終盤でのパフォーマンス力・夏季大会におけるパフォーマンス力の確認
- (2)正しいフットワーク・アームワークができているか確認
- (3)試合後の分析・戦術が正しかったのかを確認

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

- (1)専門トレーナー助言による体力の増強計画を実施
- (2)到達レベルに応じたトレーニング計画の構築
- (3)自己分析・ディスカッションによる戦術の理解・確認

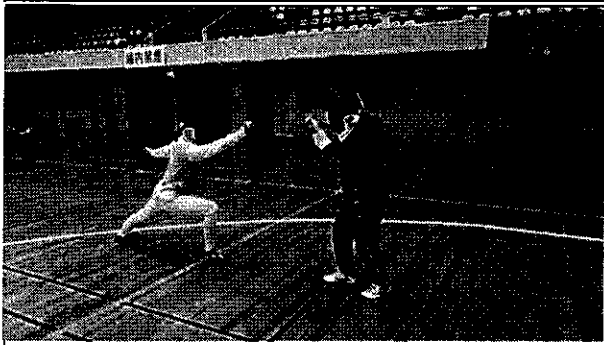
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)練習前の健康状態の確認
- (2)夏場における熱中症対策
- (3)試合用具の劣化の確認

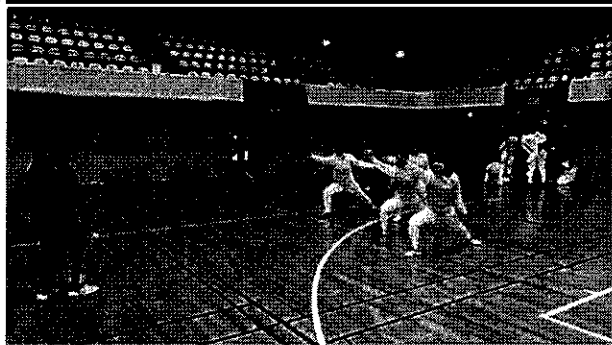
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)大会前・大会後の今後の指導方法の修正についてディスカッションを行った。
- (2)年度初めに年間指導計画について共通理解を図った。
- (3)適宜電子メールにて、連絡を密にした。

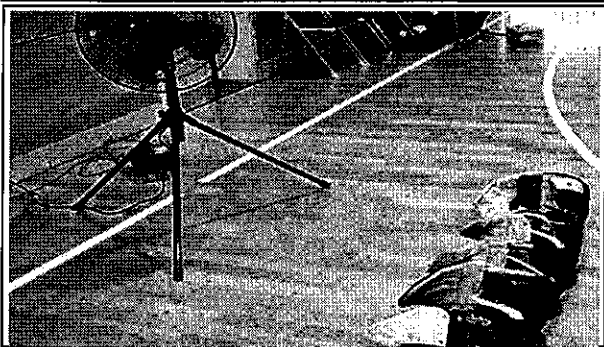
【剣の操作の確認】  
スムーズな指の操作からの突き練習を行う。



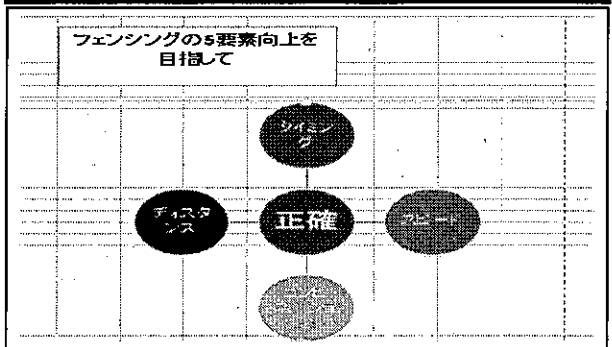
【視覚によるフェンシング動作の確認】  
コーチのわずかな、仕草を見逃さずに与えられた動作を行う。



【安全管理の確認】  
扇風機の設置と防具（マスク）の確認

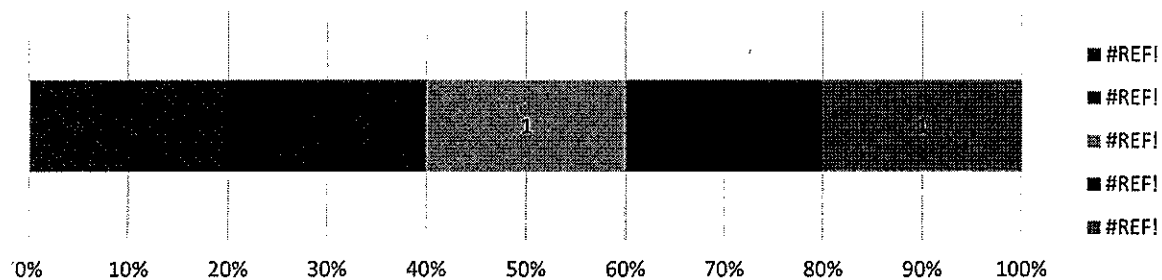


【フェンシングに必要な5つの要素】  
ディスカッション資料



【3つの視点からの自己分析】  
体力・技術・戦術についてのアンケート

### 3つの能力に関するアンケート



【一貫指導マニュアルの継続的な活用について】  
フェンシングの基本動作から応用動作までの技能習得について

地域指導員の助言のもと、前年度修正作成された一貫指導マニュアルを活用しながら、生徒の個々の実態に応じたコーチングを継続していきたいと考える。また、個々人の目標を明確に設定し、その達成にあたり支援していきたいと考える。

今後も一貫指導マニュアルの修正点等、地域指導員との連携を図りながら、全国で活躍できる選手の育成に努めていきたいと考える。

【参考】今年度実績 全国高校総体個人サーブル3位 国民体育大会少年男子8位

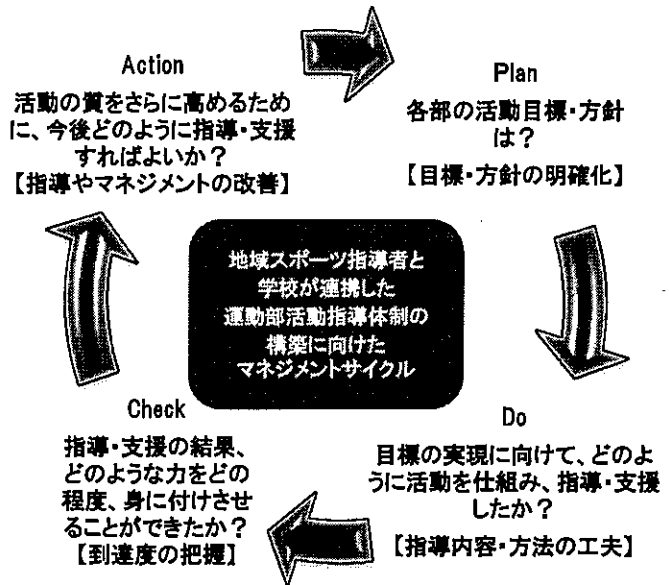
事業報告書(様式5)

指導者の役割分担を明確にしてチーム運営を行った実践例

学校名	福島県立安達高等学校
部活動名	サッカー部
部員数	17人(男子17人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-22-0016  
 学校Eメールアドレス: adachi.h@pref.fukushima.lg.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

(1)筋力を高めるために正しいウエイトトレーニングの方法を指導した。  
 (2)選手が心身ともに良い状態でゲームに入れるように、心身両面の試合前のウォーミングアップを工夫した。  
 (3)試合や練習をするだけでなく、食事や睡眠、体のケアなど普段から自分の体の調子を意識するよう心がけさせた。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

(1)正しいウエイトトレーニングを実践することにより、徐々にであるが筋力がアップしてきた。  
 (2)全体でウォーミングアップを行うだけでなく、個人的に必要なことを意識して行えるようになってきた。  
 (3)自分の体の調子をみながらトレーニングや試合に臨めるようになってきた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

(1)指導者同士の連絡を密にし、個人やチームの状態にあったトレーニングを実施していく。  
 (2)時期にあったさらに綿密な計画を立てて活動していく。  
 (3)生徒ひとりひとりにあったトレーニングメニューを作成し、計画的にトレーニングを実践させる。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)練習をする際は、可能な限りグラウンドで指導にあたった。  
 (2)夏季休業の練習の際は、比較的気温の低い時間帯に練習を行った。  
 (3)疲労の蓄積や心身のリフレッシュを考慮し、週に1日は休みを、月に1~2日は土、日に休みを取り入れ

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)公式戦や外部指導者の仕事に合わせた年間のスケジュールを立てて指導にあたった。  
 (2)連絡を密に取り、選手やチームの状態を確認しながら指導にあたった。  
 (3)顧問は技術、戦術に関して、外部指導者には体カトレーニング、試合の際のチームドクター活動と役割分担をし

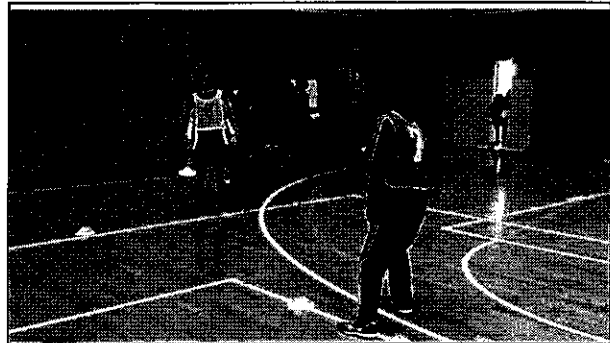
**ウエイトトレーニング**

ベンチプレスのやり方の指導を受ける。



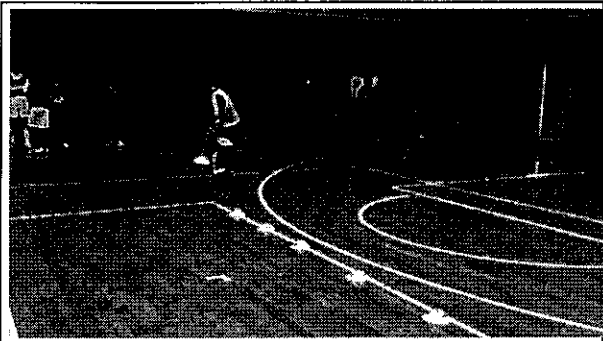
**ステップワーク**

サッカーに必要なステップワークの指導を受ける。



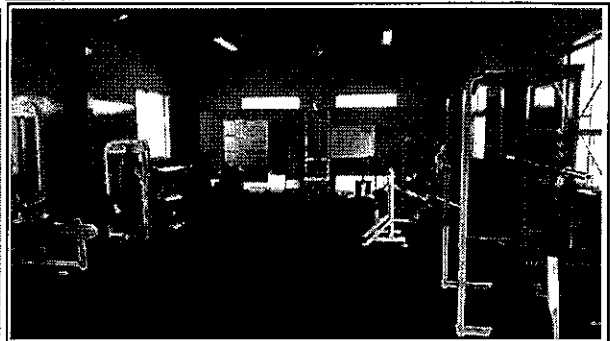
**トレーニングの準備**

トレーニングをするためにマーカーを置いている様子。



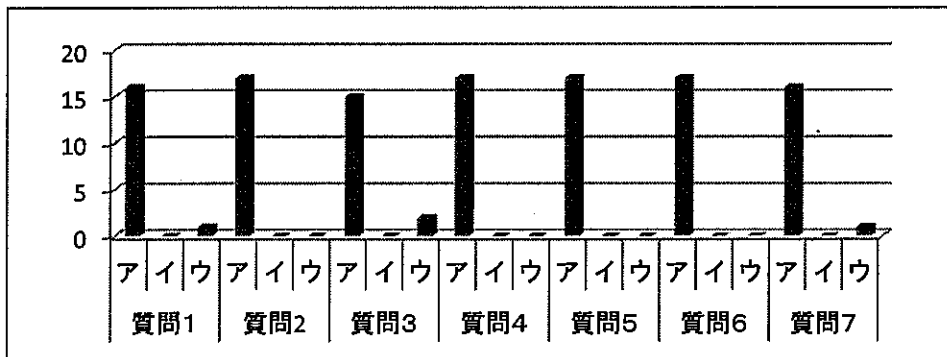
**安達高校トレーニング室**

整理整頓されたトレーニング室。



**本事業終了後アンケート調査の結果**

説明文：本事業終了後、生徒にアンケート調査を実施した結果。概ね、高評価だった。



**本事業の成果と課題**

1年間を振り返って、本事業の成果と課題を考える。

平成27年8月から平成28年1月までの6ヶ月間に渡り本事業を実施してきたが、非常に有意義なものであった。安達高校サッカー部では、今年度の活動目標として、①インターハイ県大会で上位進出、②全国高校サッカー選手権県大会ベスト8、③U-18福島県リーグ2部残留、④新人戦県大会出場を掲げたが、残念ながら目標を達成できなかったとはいえない結果となった。本校にはサッカー専門の顧問がいるが、県高体連サッカー専門部委員長、施設厚生部長をしており多忙となっている。そのような状況で、外部指導者が加わると顧問の負担が軽減するだけでなく、生徒ひとりひとりにあった指導をすることができた。特に、外部指導者は専門性を生かした指導をすることにより、生徒が自己の基礎体力の向上やコンディショニングの重要性を意識しながらトレーニングや試合に臨めたことは大きな成果につながったと考える。課題としては、顧問と外部指導者の連絡をさらに緊密にとり、生徒やチームの状態に応じたトレーニングを計画的に行っていくことが挙げられる。また、外部指導者に仕事上の負担をかけないことも必要である。

次年度も本事業を活用させていただき、生徒のパフォーマンス向上を果たしていきたいと思う。

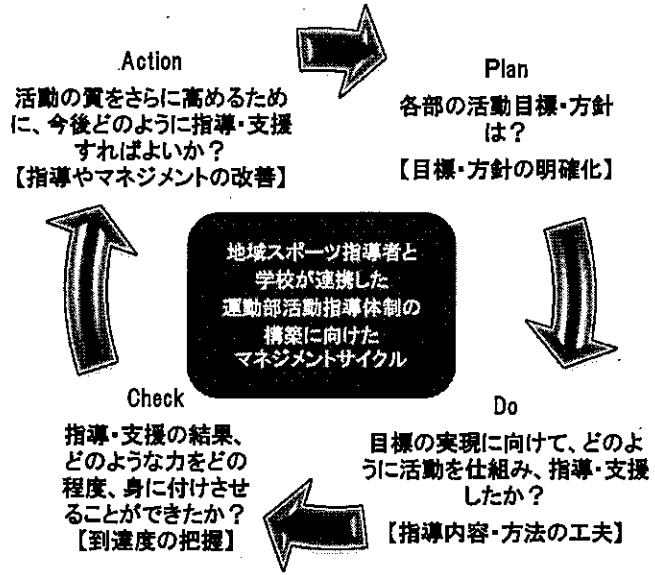
**事業報告書(様式5)**

本校サッカー部が地域と連携し、JFAの提唱する一貫指導体制のもと、強化を図った実践例

学校名	福島県立安積高等学校
部活動名	サッカー部
部員数	38人(男子34人、女子MG4人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-922-4310
学校Eメールアドレス: school@asaka-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

週1回(水曜日)にGKコーチの指導を受ける。(GK:3名 各学年1名ずつ)

(1) GK個別指導 ①基礎基本スキルの反復練習 ②シュートストップとハイボールキャッチの技術指導  
 (2) 全選手に対する指導 ①DFとGKの組織的守備 ②攻守におけるセットプレー

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

(1) GKに特化した個別指導を受けることで、欠点であったキャッチ技術や判断が向上し、ミスプレーが激減した。  
 (2) インカレ・国体等高いレベルでプレーした競技経験からの助言指導は適切であり、安定した組織的守備により、目標であったF2リーグ残留のために効果的であった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

(1) 指導者の指導力向上を図るために、さらに上級の指導資格取得のための支援をする。  
 (2) 人工芝グラウンド(ピッチ)を整備するなど、活動の安全性、効率性を向上させる。  
 (3) 本校サッカー部へ入学・入部を希望する質の高い中学生が多くなるよう地域と連携した活動を図る。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1) 天然芝ピッチを整備した。(基礎・基本のプレーの習得)  
 (2) 熱中症対策としてマネージャーに氷を含む飲料水を常備させ、選手の体調に応じた適切な水分補給を可能にした。  
 (3) 強風時に、ゴールが倒壊しないよう、活動時には固定した。(杭打ち・おもり設置)

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1) 大会スケジュールに応じたトレーニング内容になるよう協議して、活動目標や活動計画を作成した。  
 (2) 活動開始時と終了時に、チーム状況やトレーニング内容について、情報交換を必ずする。  
 (3) 外部指導者と共通の指導者講習会を受講する。

【 GKコーチ中川氏と部員 】

安高サッカー部は中川氏に継続的に指導を受けている。  
今年で、7年目になる。



【冬期間中のトレーニング】

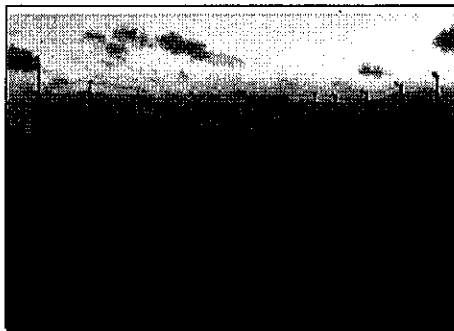
芝生ピッチを準備し、安全面に配慮して、  
基礎技能の向上に努めた。



【安全面に配慮したピッチ001】  
天然芝ピッチで基礎技術の習得に努めた。



【工夫したトレーニング】  
GKのみならずDF指導など、工夫してチーム力向上を図る。



【 外部コーチに関するアンケート 】  
部員 3年9名 2年6名 1年19名 女子マネージャ 4名 計38名  
回答 29名（早期引退した3年生とマネージャを除く）

1. 外部コーチの指導は、チーム力向上に役立ったと思いますか。 とても思う28 思う0 あまり思わない1 思わない0
2. 外部コーチの指導は、来年も必要と思いますか。 とても思う29 思う0 あまり思わない0 思わない0
3. 外部コーチの活用について、意見・要望はありますか？  
回答抜粋  
  - 指導上の目的目標を今以上に明確に示してほしい。
  - 指導回数を増やしてほしい。（年間15回週1回を年間25回で、長期休業中には、集中して指導受ける。）
  - GK指導中心だけでなく、セットプレーなどのアドバイスを今以上にしてほしい。
  - GKコーチだけでなく、フィジカルトレーナーやアシスタントコーチなど、他の私立高校チームのスタッフのようにほしいです。

【安積高校サッカー部の外部コーチ活用の方向性】

中川正樹氏（ピアノコーネ福島）の、所属先の活動の一環に「GKトレセンU15郡山」がある。本校に進学してくるサッカー部員のうち数人は、中学校時代からその指導を受けている。地域内での組織的、継続的な取り組みが浸透し、このような全県的、または県中地区における一貫指導体制の確立が競技力向上に、大いに役立っている。今後も、本校サッカー部が、中川氏をはじめとする地域社会におけるサッカーに対する取組に対し、積極的にかかわる体制を継続していくことが更なる発展につながる。

年間の定期活動(週1回・年間15回)をベースに、長期休業中にGK強化週間を設け、短期集中的に指導を受ける。

外部コーチを起点として、情報発信・収集することによって、他世代チーム等の交流など幅広い活動を計画的に実施する。

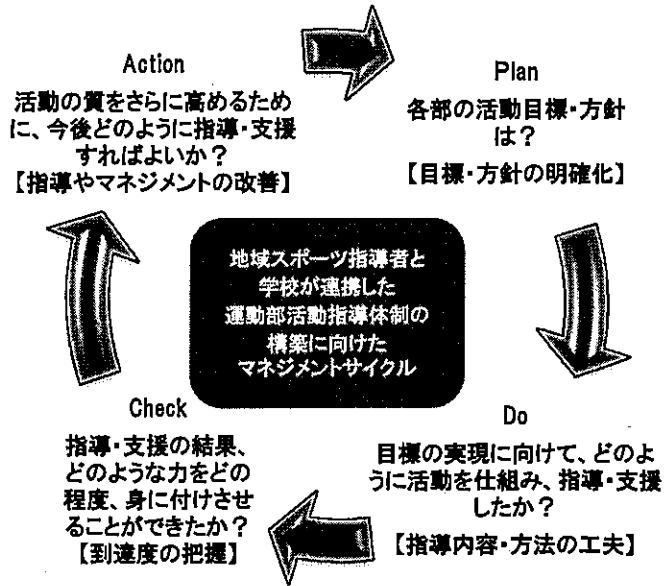
**事業報告書(様式5)**

進学校における効率的な部活動の実践

学校名	福島県立安積高等学校
部活動名	ソフトテニス部
部員数	24人(男子17人、女子7人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-922-4310  
 学校Eメールアドレス:school@asaka-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

(1)戦略を支える基礎作り(ストローク(特にバック)の技術、前衛のポレー、サービス、レシーブ)  
 (2)3球目、4球目攻撃の反復練習  
 (3)練習試合におけるチェックと試合運びのアドバイス

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

(1)基本に忠実な安定したストローク、ポレー、確率の高いコースをついたサービス  
 (2)前後左右に振られてもしのげる粘り強さ  
 (3)トレーニングによるテニスにつながる基礎体力の向上と怪我の予防

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

(1)上位校との練習試合を設定し、現在の本校とのギャップを確認する。  
 (2)常に最新の指導法を指導に取り入れるため、積極的に講習会などへ参加する。  
 (3)部員が減少傾向にあるため、継続してソフトテニス部で活動できるよう中学校との連携を深める。

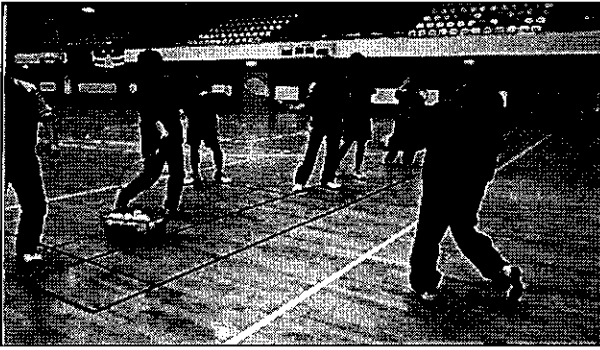
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)トレーニング中の怪我の予防と最高の能力の発揮のためウォームアップ、ウォームダウンとしてストレッチングを取り入れた。  
 (2)熱中症対策として大型ジャグジーを購入し、水分補給をこまめに行った。  
 (3)特にインドアの練習においての怪我に備え、キネシオテープや筋肉消炎剤等を準備した。

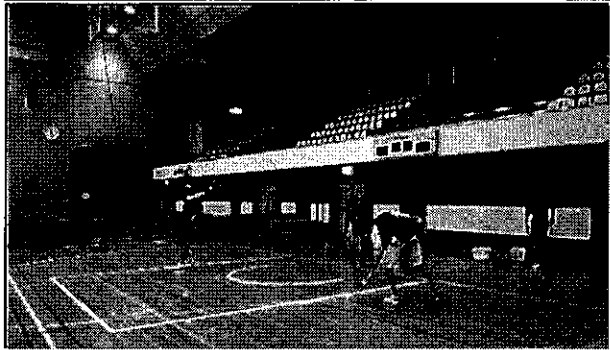
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)新チームとなってからは、部員の現状に合わせ、徹底して基礎、基本の技術の指導をお願いした。  
 (2)外部指導者には、気がついたことは指導していただき、指導内容にずれが生じた場合は、顧問が生徒に説明した。  
 (3)練習の開始前、終了後には意見交換を行い、今後の指導方針について話し合いを行った。

【外部指導者渡辺氏に指導を受ける部員】  
渡辺氏は長年本校顧問として上位大会に導いた。



【インドアにおけるトレーニング】  
インドアにおける基礎・基本を重視したトレーニング



【練習前後におけるストレッチ】  
反動をつけず、呼吸を止めず、筋肉を意識したストレッチ



【トレーニングの充実】  
ラダー、コーディネーション、サーキット等トレーニングの実践



【外部コーチアンケート結果】  
今回安積高校の外部コーチとして指導していただいた渡辺氏は4年前にも外部コーチとして指導していただいた。

- ・外部コーチの指導は、専門的スキルは高まったと思いますか。  
思う 20 思わない 0 どちらともいえない 1
- ・部活動の専門的スキルについて、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。  
思う 20 思わない 1 どちらともいえない 0
- ・部活動をとおして、体力や運動能力は高まったか。  
思う 17 思わない 1 どちらともいえない 3

外部コーチの指導により、練習の目的をはっきりさせた効果的な練習が行われた。  
選手の実状にあった基礎・基本を重視し、その中でも緊張感をもって練習する姿が見られた。

【安積高校ソフトテニス部の外部コーチ活用後】  
外部コーチ招聘事業で得た経験を新たな安積高校ソフトテニス部の財産に加え、1年生だけの新チームになるが、目標に向け進んでいきたい。

- ・今回の取り組みで感じたこと
- 1、部員は外部指導者の指導により、より一層真剣に緊張感をもってソフトテニスに取り組むようになった。
- 2、顧問自身指導に迷う場面などで、直に意見を聞くことができるので自信をもって部員に指導できた。
- 3、外部指導者との意見の交換の中から、新たな指導法や効果的な実践例について知ることができ指導に生かされた。
- 4、人数が多いときなどは、指導分野を分けることで、限られた時間で効果的な練習が可能になった。



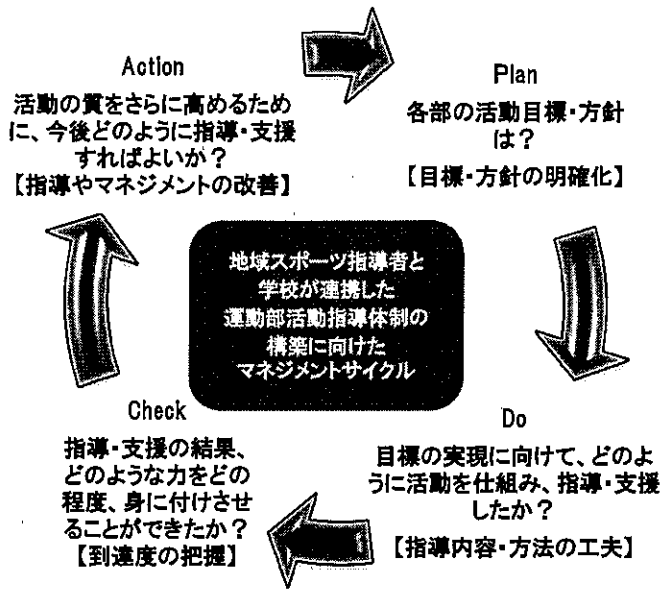
**事業報告書(様式5)**

本校テニス部が地域と連携し、日本テニス協会が推奨する一貫指導に合わせて、強いメンタリティと競技力の向上を図った実践例

学校名	福島県立安積高等学校
部活動名	テニス部(男子)
部員数	17人(男子17人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-922-4310  
 学校Eメールアドレス: school@asaka-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

担当コーチの都合がつく日時、月2~3回程度指導を受ける。  
 (1)ストロークの強さ・深さ・確率を高める指導。  
 (2)ボレーの基礎基本の指導。  
 (3)動き方と相手に応じた返球のコースの指導。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

(1)基礎レベルはどのようなもので、どの程度出来なければいけないかを生徒が理解できるようになった。  
 (2)試合で使えるショットの選択肢を増やすことができた。  
 (3)試合に勝つ戦術を考えられるようになった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

(1)本校テニス部へ入学を希望する、硬式テニス経験者が多くなるように地域と連携を図る。  
 (2)入学時より、指導体制を確立し、効果的に向上を図れるような指導をする。  
 (3)指導者と顧問が連携を密にし、現状を把握し、改善点について話し合えるような関係を作る。

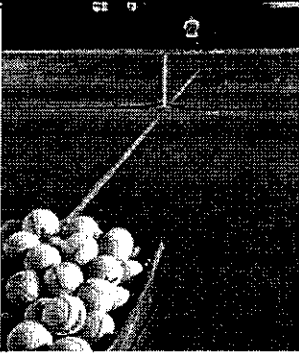
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)ウォームアップ・クールダウン・適度な給水等、気候や気温等を踏まえ、生徒の状況に合わせて行った。特に熱中症には注意した。  
 (2)給水については、特にこまめに取れるよう各自の給水用具を身近において、給水を促した。  
 (3)体調が思わしくない生徒は、活動を自粛させた。

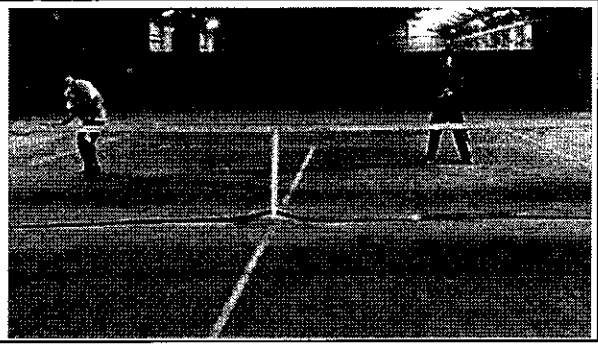
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)指導時間の前後に、要望を伝えたり、指導を通して感じたことなどを話し合ったりする機会を必ず設けた。  
 (2)外部指導者と顧問の指導が若干異なる場合など、生徒に意見を求めつつ、より良い指導につながるよう心掛けた。  
 (3)外部指導者が大会等を視察した場合には、本校の生徒について試合を見てもらおうなどして状況観察を共有した。

【基礎練習】  
球出しによるドリル練習



【個別指導】  
選手の技術に応じた個別指導



【衝突を避ける配慮】  
球出し練習において、他者との衝突を避ける配慮をした。



【健康面への配慮】  
給水用具を、すぐ近くの安全な場所に置いた。



【外部コーチに関するアンケート】  
部員 2年生13名、1年生4名 計17名

- 1、外部コーチの指導によって、競技力は向上しましたか。 とても思う 14名 ・ 思う 3名 ・ あまり思わない 0名 ・ 思わない 0名
- 2、外部コーチの指導は、来年も必要と思いますか。 とても思う 17名 ・ 思う 0名 ・ あまり思わない 0名 ・ 思わない 0名
- 3、外部コーチの活用について、意見・要望はありますか？  
自由記述・抜粋  
 回数を増やしてほしい。(複数回答)  
 フィジカルトレーニングも取り入れてほしい。  
 メンタルの鍛え方を教えてほしい。(複数回答)

【安積高校テニス部の外部コーチ活用について】

渡邊翔氏は、郡山市にある郡山テニスクラブでジュニア担当コーチをしており、現在の小中学生にも指導をしている。氏自身が、選手として大会に出ながらコーチングの力量をつける団体に所属し、関東での指導経験が豊富ことから、全日本で戦うにはどの程度の力が必要かを熟知され、そこから逆算して選手のコーチングをしている。それでいて、部活動のような、全日本とは無縁であるがテニス頑張るという生徒に対しても、穏やかかつ向上心が持てるよう指導している。氏が指導した選手が本校進学を希望し入学すれば、継続した指導ができ、本校テニス部としての強化になり、文武両道を実践できる一つのケースになると思われる。生徒達の評価も高く、継続して指導いただければと考えている。

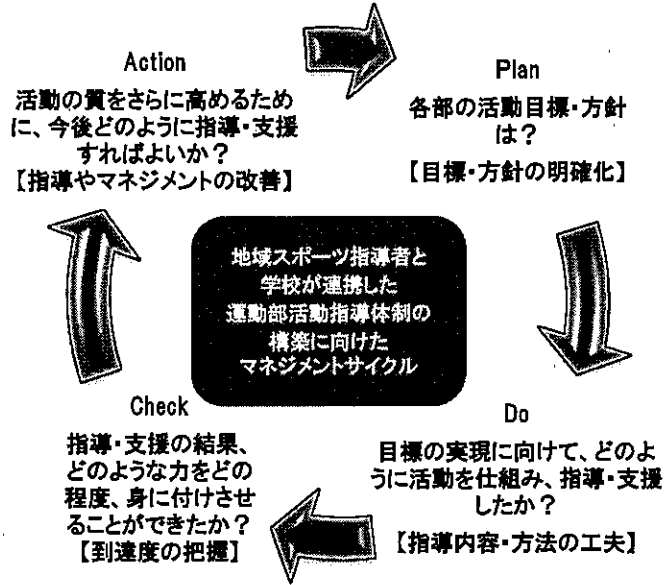
**事業報告書(様式5)**

部活動を通して、社会で活躍できる生徒の育成を目指した実践例

学校名	福島県立郡山高等学校
部活動名	サッカー部
部員数	48人(男子48人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-951-0215
学校Eメールアドレス:school@koriyama-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1) 高校サッカー選手権福島県大会・高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ上位進出を目標に個々の基本技術のレベルアップを図り、グループ戦術・チーム戦術を確立させるために部員が積極的に活動に取り組めるようにした。
- (2) サッカー部の柱である「サッカーを通して社会で通用する人間になる」、そのために、日常生活においても日頃からコミュニケーションを密に図った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1) 高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ1部で前半戦の結果がひびき5位、選手権は不本意であるが決勝に駒を進めた学法石川に敗れたがベスト8の結果を残した。
- (2) サッカーの試合に限らず日常生活でも、「我慢・何事にも一生懸命・思いやりある言動」が身に付いた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1) 継続して基本技術・グループ戦術・チーム戦術の向上を図るために、外部コーチと顧問そして部員と連携をさらに強化する。
- (2) 日常生活(授業を含む)がサッカーと密接に関係していることを理解させるために、部員とのコミュニケーションを密にする。
- (3) 外部コーチと顧問の打ち合わせ・情報交換を密にする。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1) 練習前・練習後の怪我・病気等のチェックを毎日実施した。
- (2) 外部コーチがスポーツジム勤務であるためウエイト・ストレッチ等で筋力アップ・怪我の防止に努めた。
- (3) 感染症等予防のためにマイボトルを準備させた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1) 選手に適切な指導・助言をするために、常に情報交換をした。
- (2) 外部指導者がトレーニングの知識が豊富なことから、技術指導に限らず、怪我の防止・復帰のためのトレーニングを行い、適切に復帰することができた。

【練習開始時】

モチベーションを上げさせ練習に臨む



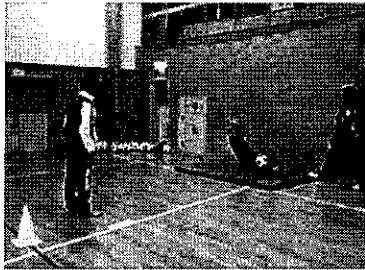
【5VS3の指導】

OPがいつ入るかいつ出来るかを全体に指導



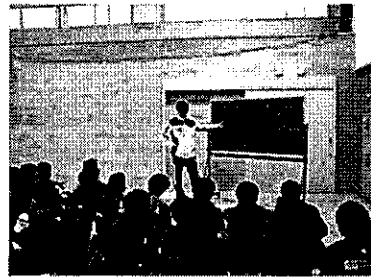
【安全面への配慮】

セフティーマットを利用したGKトレーニングを実施



【ボードを利用して】

練習の目的等の徹底



【外部コーチ導入による成果】

F1復帰・F2チャレンジの獲得

【平成26年度】

高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ1部5位復帰

高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ3部3位 2部チャレンジ獲得

【平成27年度】

高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ1部 5位

高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ3部 2位 2部チャレンジ獲得

高校サッカー選手権大会福島県大会 ベスト8

【次年度の目標】

各種大会の目標設定

外部コーチと連携を強化した平成28年度の活動目標

- (1) 高円宮杯U-18福島県サッカーリーグ1部に残留する。
- (2) 高校大会・高校サッカー選手権・新人戦の大会でベスト8以上を目標に活動する。
- (3) 大会で成績を残すために、技術・メンタル面を鍛える。
- (4) 学習・日常生活面を充実させる。

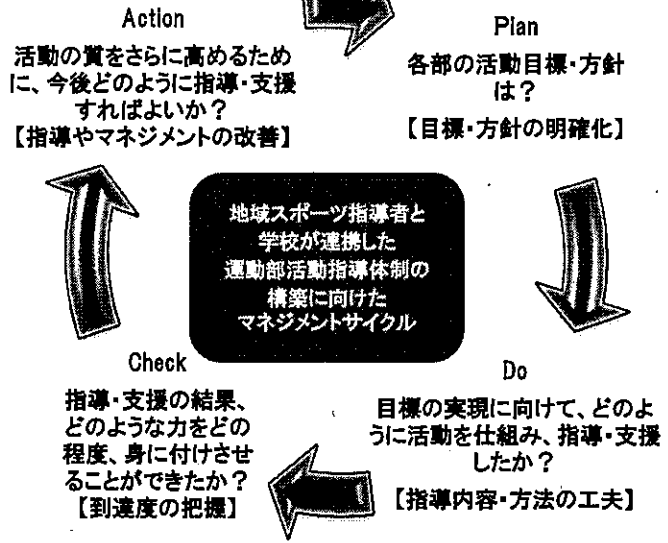
**事業報告書(様式5)**

部活動を通して、社会で活躍できる生徒の育成を目指した実践例

学校名	福島県立郡山高等学校
部活動名	バスケットボール部女子
部員数	女子 23人

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 024-951-0215
学校Eメールアドレス: school@koriyama-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? [指導内容・方法の工夫]**

(1)チーム目標である「限界への挑戦」を一人一人が具現化する個人目標を設定させた上で、県大会ベスト4をチームの達成目標として示すことで、部員が中長期の見通しをもって活動に取り組めるようにした。  
 (2)部員とのコミュニケーションを密に図りながら、一人一人に考えさせる指導を行い、「文武両道」の実践による心身の成長を促して、社会で活躍できる生徒の育成を目指した。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? [到達度の把握]**

(1)部員全員について、体力を向上させ、パス、ドリブル、シュートなど、バスケットボールを楽しむための基本的な技能を身に付けさせることができた。  
 (2)思考力・判断力・表現力を向上させ、他者との関わりの中で精神面でも成長させることができた。  
 (3)「文武両道」の実践による心身の成長を促して、社会で活躍するための土台を築かせることができた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? [指導やマネジメントの改善]**

(1)バスケットボールの枠にとらわれず、精神面での指導も行っている現在の体制を継続し、外部指導者と顧問の連携をさらに強化していく。  
 (2)部活動と授業がつながっていることを自覚させ、真の「文武両道」を目指すことができるよう、指導中及びミーティングにおける言葉かけを工夫する。  
 (3)保護者との連携を強化して生徒に感謝の心をもたせ、健全な成長を促す。

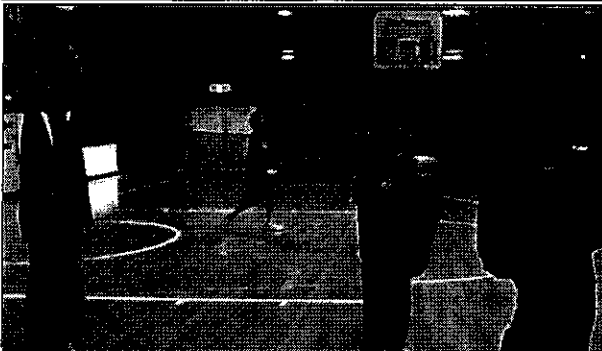
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)怪我や病気の症状を訴える部員に対しては、通院や休養を指示し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めた。  
 (2)ヨーガを取り入れるなど、ストレッチの時間を増やして怪我の発生を防止した。  
 (3)十分な水分補給ができるよう、常にスポーツドリンクのボトルを準備し、練習中はいつでも飲めるようにした。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)生徒の状況について互いの情報を提供し、最適な指導法を繰り返し検討し合った。  
 (2)外部指導者から、科学的根拠に基づく練習についての情報を入手した。  
 (3)平日における指導でも、外部指導者と同じ理念、戦術で指導できるように顧問が学習し、一貫性のある指導を目指した。

【外部指導者による指導風景】  
全員が理解できるよう、丁寧にわかりやすく指導している。



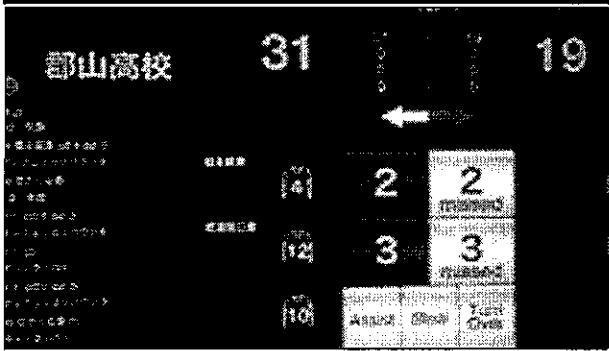
【練習風景】  
位置取りや体の使い方なども詳しく指導している。



【安全面での配慮】  
ストレッチを徹底させ、屋外でのコンディショニングづくりなども行っている。柔道整復師からのアドバイスも取り入れている。



【ICT機器の活用によるデータの共有】  
タブレット型パソコンを活用し、指導者間でデータを共有した。



【外部指導者導入前後の大会成績比較】  
地区大会で1勝することが目標だったチームが、県大会の上位を狙えるチームに成長した。

【主な大会成績】

外部コーチ導入前

2008年 全大会で地区予選敗退

外部コーチ導入後

2009年 新人戦で県大会に出場

2010年 新人戦で県大会に出場

2011年 高校体育大会・県大会出場 新人戦・県ベスト16

2012年 高校体育大会・県ベスト8 新人戦・県ベスト8

2013年 高校体育大会・県ベスト16

2014年 高校体育大会・県ベスト16 新人戦・県ベスト16

2015年 高校体育大会・県ベスト16 新人戦・県ベスト16

【外部指導者との連携強化のために】

外部指導者との連携を強化し、真の「文武両道」を目指していく。

外部指導者には年間を通して指導をお願いしているが、10月～3月までは無償のボランティアとなっている。年間を通して、県の授業が活用できることを要望する。また、保護者との連携を強化し、真の「文武両道」が実践できる生徒の育成を目指す。

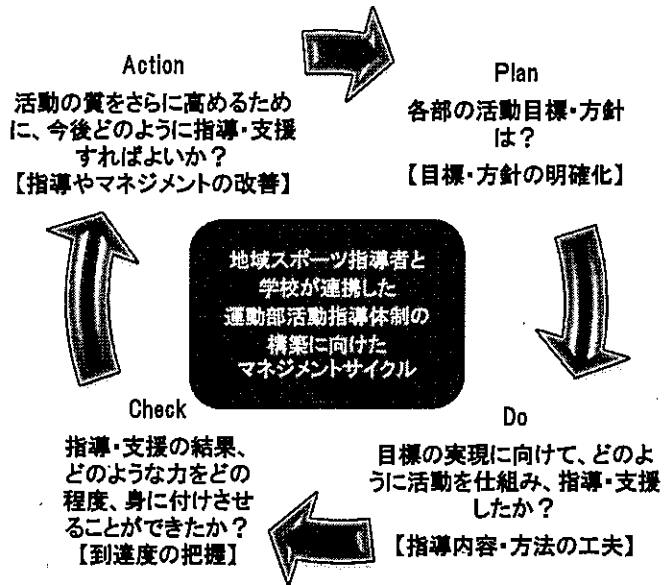
**事業報告書(様式5)**

武道の精神に則った運動部活動を目指した実践例

学校名	福島県立郡山高等学校
部活動名	空手道
部員数	7人(男子4人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:024-951-0215  
 学校Eメールアドレス:school@koriyama-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1) 武道を行う心構えを大切にし、全体的な向上を目指して基礎・基本練習の充実に務めた。
- (2) 練習をただ行うのではなく、「この練習は何のためにやっているのか」を考えさせる意識付けを図った。
- (3) 部員たちにお互いの意見を出し合える環境作りに務めた。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1) 県大会で好成績を収め、個人女子は東北大会への出場を果たした。
- (2) 毎日の練習を大切にする心構えが身についた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1) 県外の強豪校と対戦すると、体力面、技術面の差を痛感させられる。さらなる向上が必要である。
- (2) 部員数が少ないため、練習にいわゆる「マンネリ感」が生じることがある。毎日の練習を大切にする心構えをさらに高めていきたい。
- (3) 一日一日の練習を大切に、さらなるメンタル面の強化に努めたい。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1) 練習前のストレッチを徹底させ、怪我の防止に努めた。
- (2) 本校には武道練習用マットがなく、体育館の床もしくは畳の上で練習を行っているのが現状である。安全面は常に配慮して行っている。予算措置がつけばマットの手配を要望したい。

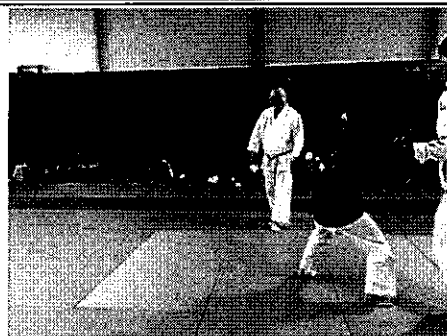
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1) 顧問と指導者間での意思疎通を常に図り、問題や認識の共有に努めた。
- (2) 学校行事(定期考査や模擬試験)について事前に説明して協議し、計画的な練習をしていただけるように工夫した。
- (3) 練習前後のコミュニケーションも大切に、部員たちとの交流を深めた。

【外部指導者による指導風景】  
礼に始まり、礼に終わる。武道の基本を大切にした指導。



【外部指導者による指導風景】  
組手練習について、実践的な指導。



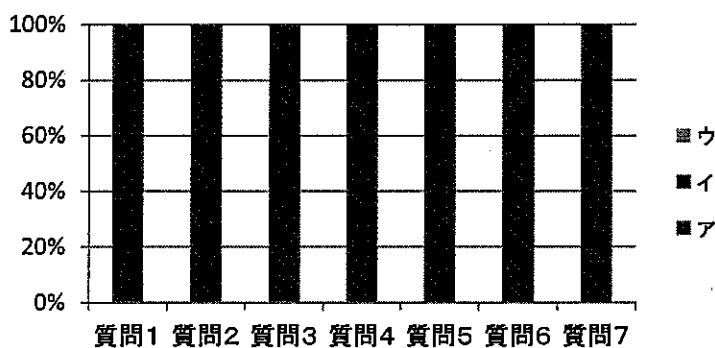
【外部指導者による指導風景】  
形練習について、実践的な指導。



【外部指導者による指導風景】  
ストレッチを入念に行い、怪我の防止に努めている。



【部員と顧問の成果分析】  
アンケートの結果、部員と顧問を総計して100%の満足度であった。



【外部指導者との連携強化のために】  
武道を行う心構えから指導を心がけることで、さらなる向上を目指していく。

外部指導者には年間を通しての指導をお願いしているが、予算措置上、どうしても無償でお願いする場面が出てきてしまう。年間を通しての予算措置を要望したい。武道を行う心構えは一朝一夕で身につくものではなく、長期的な指導により定着するものだからだ。こうした改善が、さらなる技術面・メンタル面の向上へとつながっていくものと確信する。



## 事業報告書(様式5)

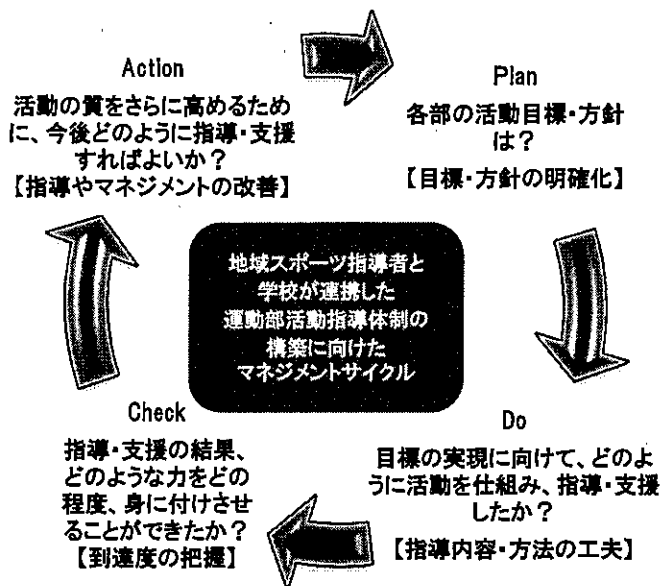
生徒主体の活動を通して、競技力・人間力の向上を目指した実践例

学校名	須賀川高校
部活動名	テニス部
部員数	24人(男子15人、女子9人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0248-75-3325

学校Eメールアドレス: school@sukagawa-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

- (1)部全体の目標である県大会上位進出を念頭に、長期目標と短期目標を設定して定期的に振り返り、全体練習に反映させる。
- (2)外部講師と顧問が、設定した目標と生徒の実際の活動について練習試合などを通して助言する。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

- (1)年間を見通した練習計画をたて、それを意識しながら大会に参加する生徒が増加した。
- (2)部活動だけでなく、ふだんの学校生活等にも目標達成のポイントがあることに気づき、行動に変化がみられるようになった。
- (3)競技力向上に関わる情報交換を活発に行いやすい雰囲気が形成されてきた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

- (1)競技の未経験者に対するアプローチを更に工夫したい。
- (2)視聴覚機材を活用して、生徒がより体感しやすいフィードバック方法を実践できるように、学校の環境整備を行いたい。
- (3)大会結果等を校内・校外に効果的に伝える方法を工夫したい。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)練習場所になっている公共施設の装備を使用する際に、生徒の過失でない形で怪我の予想される状態があったので、定期的に装備の使用方法について注意を喚起した。
- (2)怪我や故障を防ぐために外部講師と相談して、定期的に体力増進方法や効果的なストレッチなどの機会を増やして、生徒の怪我・故障防止に関する意識を高めるよう努めた。
- (3)練習場所が学校から離れた公共施設となるため、移動などの際に十分に注意するように伝えた。

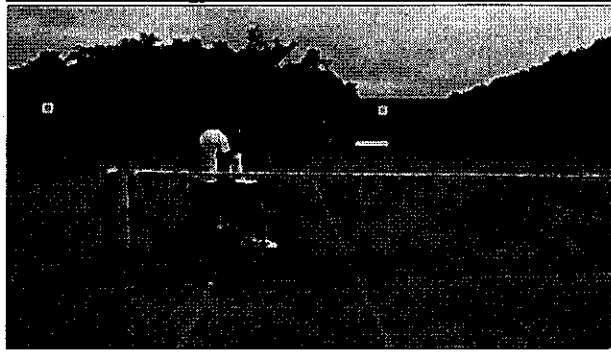
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)生徒のプライバシーに配慮しつつも、一人一人の個性・状態を共有しながら、適切と思われる声掛け・支援などを行ってきた。
- (2)学校の教育活動の一環であることを外部講師の方に理解していただいた上で、必要な指導を頂けるように密に外部講師と顧問で連絡を取り合うよう努めた。
- (3)外部講師と顧問の役割分担を明確にし、生徒の支援にあたった。

【実戦力を高めるために】  
ダブルスで大事なペアとの連携についてのアドバイス



【競技力を高めるために①】  
相手に先行してポイントを取るためのコツ



【競技力を高めるために②】  
ストロークの精度を上げるために大事なポイントを説明



【効果的なボレー練習について】  
苦手なボレーを習得するための練習法の例



【外部指導者の指導についてのアンケートから】  
平成27年10月上旬に実施

- Q1 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたと思いますか。  
[ 思う 100% ] 昨年度[ 思う 90.1% 思わない4.5% どちらともいえない4.5% ]
- Q2 外部指導者や顧問は、活動に当たって安全に配慮して指導していたと思いますか。  
[ 思う 95.8% どちらともいえない 4.2% ] 昨年度[ 思う 90.1% 思わない4.5% どちらともいえない4.5% ]
- Q3 部活動を通して、専門的な技能は高まったと思いますか。  
[ 思う 87.5% どちらともいえない 12.54% ] 昨年度[ 思う 95% 思わない 5% ]
- Q4 部活動を通して、体力や運動能力は高まったと思いますか。  
[ 思う 91.6% どちらともいえない8.3% ] 昨年度[ 思う 86.3% どちらともいえない 13.7% ]
- Q5 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。  
[ 思う 95.8% どちらともいえない 4.2% ] 昨年度[ 思う 90.1% 思わない4.5% どちらともいえない4.5% ]
- Q6 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。  
[ 思う 100% ] 昨年度[ 思う 95% 思わない 5% ]

【 今後の課題 】  
今年度の実践を通して出てきた課題などについて

・県大会出場者が一昨年度はシングルス3人、ダブルス4ペア、昨年度はシングルス7人、ダブルス9ペア、今年度はシングルス8人、ダブルス10ペア(すべて延べ数)と、少しずつではあるが出場者は増加しており、一定の成果を上げていると思われる。今後は目標である上位進出を果たせるような活動の実践が課題となる。

・部活動に対する生徒並びに保護者の思いと、外部講師・顧問の狙いが合致しているとは言い難く、部活動の在り方については学校や地域社会の実態を踏まえ環境を整える必要があると感じた。

・外部講師が今年度から変わり、支援の仕方や生徒との向き合い方も講師の方によって異なるため、この事業を効果的に実践するには、ふだんの活動にかかわる顧問の意識・取り組みが実は大変重要であることを認識した。

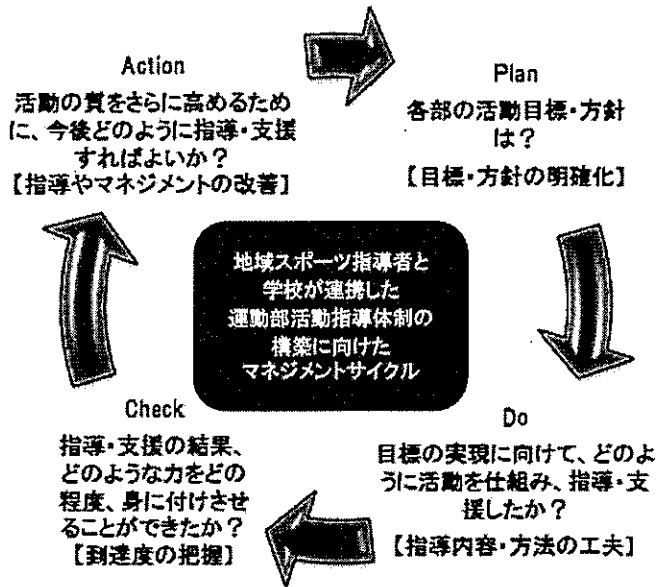
**事業報告書(様式5)**

自他を大切にする健康な心の育成をはかる部活動運営に関する報告

学校名	須賀川桐陽高等学校
部活動名	バスケットボール
部員数	21人(男子9人、女子12人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:	0248-75-2151
学校Eメールアドレス:	school@sukagawatoyo-h.fks



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

- プレーヤー、マネージャー、男子部、女子部にそれぞれの役割と個々の目標や要求を互いに理解させながら活動をすすめた。
- 大会の反省と次の大会への目標達成を踏まえた活動計画を明確に示し、日々の練習内容の充実を図った。
- メニューの流れ、時間配分を工夫し練習の効率化に努め、体力、能力に合った指導を行った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

- チームの課題を各々の部員が理解し、目標を持って大会に挑み県大会出場を果たすことができた。
- 怪我の防止や体調管理への意識が高まり、傷病等による休みや別メニューによる練習が少なくなった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

- 心身の健康の維持に留まらず体力と学力の向上に意欲的に取り組ませる。
- 目標達成に向けて計画、行動、反省・改善の流れに沿って各自が競技力とチーム力の向上が行えるようにする。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- 運動が可能な軽微の負傷、故障についてもテーピングの箇所等の記録をさせ、悪化させないための対処の材料とした。
- 計画的に休養日を設けるだけでなく選手の要望を入れながら客観的な判断に基づいて追加の休養日を設け、疲労による故障の防止に努めた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- 施設や用具等の他の校内部活動と共有して使用している物の管理運用に関して発生した問題について互いに情報を共有し協力して対処し、練習環境の保全に努めた。
- 日々の練習活動の場において情報交換するだけでなく、行事、練習計画、大会、保護者会関係等互いに資料を用意し、顧問と指導者が適切な判断の元に部活動運営が進められるよう配慮した。

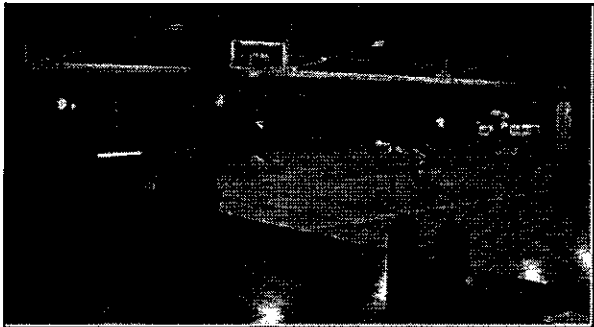
新入体育大会県大会前日練習  
選手、コーチ、マネージャーが一体となって大会に臨む



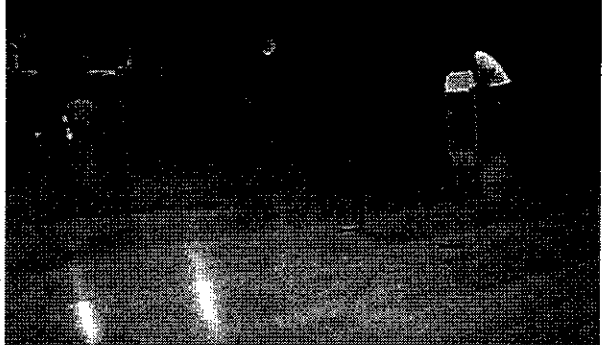
大会ゲーム中におけるコーチング  
状況を分析し対策と修正をはかりねらいをはっきりと示す



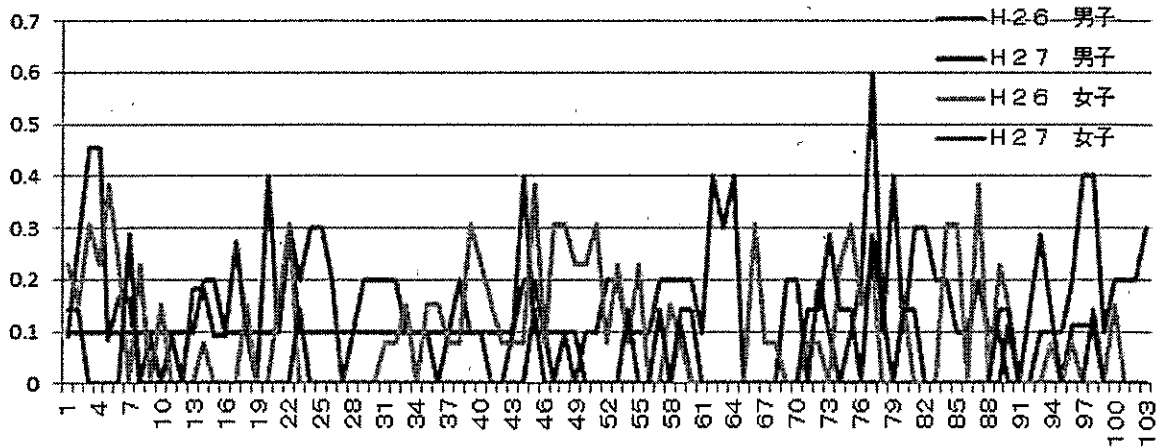
練習中のコンディショニング  
水分・塩分補給やアイシングを常備し疲労回復をはかる



マーカーコーンを利用したドリブルドリル  
細かいボディワーク、ボールコントロールを身につける



怪我等により全体練習に参加できなかった生徒[x]の割合 (x/M H26とH27 7月~12月 男女 横軸活動日数: M)  
部員の入れ替わりがあるが個々に関してもけが等の休みが少なくなっている。全員が安定して活動した期間が長くなった



自他を大切にす健康な心身の育成を目指して  
本校運営ビジョン「自他の命を大切にす心の育成」のために心と体、個人とチームが互いに高め合う

多くの人に期待される事例報告は「今までにない新しい方法で大きな成果をあげた」というものであろう。1年を振り返ってチームが変わり男女共に県大会に出場できたことは専門の指導者の力によるものである。しかしそれを太字のタイトルや大見出しを付けて書き表すことは地道に時間をかけて生徒やチームに対して深い考察を廻らし、工夫を重ねて取り組んできた指導者の実践を伝えることを妨げるように思われる。仮に「誰もがやっている、皆が知っている方法」で取り組んだとしてもそれが成果として現るかどうかは文字や数字に書き表すことにあるとは限らない。本校の生徒の伸ばしたい力は指導者が自ら示した無形の力、自他を結ぶ力である。これを、桐陽高生の持っている資質を生かして本校教育の発展をはかる方途を探る取組につなげていきたい。

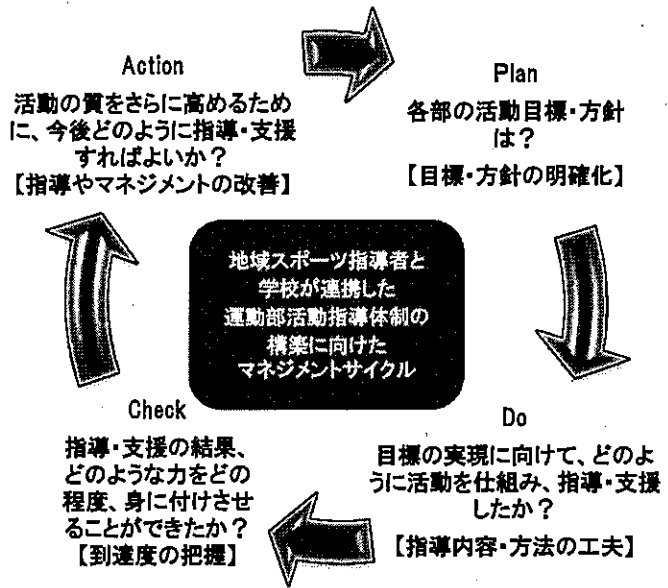
**事業報告書(様式5)**

地域スポーツ人材(外部指導者)の活用の在り方

学校名	福島県立岩瀬農業高等学校
部活動名	ゴルフ部
部員数	5人(男子5人、女子0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-62-3145  
 学校Eメールアドレス:



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1)指導して頂く心構え(きちんと挨拶をする・ジュニアゴルファーとしてのマナー向上)
- (2)練習時間の確保(指導者の都合、学校行事も含め時間配分の調整など)
- (3)練習内容の精選(レベルに合わせて練習器具の準備など)

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1)基本的な生活習慣を含め、さまざまな場面での挨拶、マナーの向上が見られた。
- (2)指導して頂いた内容について、メモを取る姿が見られた。
- (3)指導して頂いた内容を思い出し、各自考えながら日々の練習に励んでいた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1)部活動顧問では気が付かないスイングの基本的事項から応用技術
- (2)実際にコースに出るからのコースマネジメント(状況に応じた成功法など)
- (3)練習場では、なかなか練習できないパター指導

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)日々の生活で基本的な生活習慣を確立させるとともに、練習において体調が悪いときは無理に練習させない。
- (2)練習場では、普段からスイングプレーンに近づかないよう徹底して指導している。
- (3)練習が始まってからは集中力を持続させ、練習後は従業員に挨拶させ気持ちの切り替えをさせている。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)指導して頂いた部分の情報を共有をすることで、次の日からの練習につながるよう配慮した。
- (2)自らもゴルフに取り組むことによって、正しいスイングを知識として身に付けようと取り組んだ。
- (3)ジュニアゴルファーが抱える問題点を話し合い、生徒のレベルに合った指導を心掛けるよう工夫した。

【タイトル：スイングホームチェック】  
説明文：初心者に対するフォームチェックを指導していただ

部活動の様子がわかる写真①



【タイトル：パター練習の充実】  
説明文：普段なかなかできないパターの練習に力を入れた。

部活動の様子がわかる写真②



【タイトル：スイングプレーンの範囲】  
説明文：スイングプレーンの範囲と危険範囲について教えてい

安全確保のために配慮している場面の写真等



【タイトル：メディシンボールの活用】  
説明文：冬期間の有効的なトレーニングとして体幹作りをお

工夫した用具や資料の写真等



【タイトル：着実なスコアの更新】

説明文：日々の指導の成果が大会結果にあらわれた。

	春季高等学校ゴルフ大会 の成績	秋季高等学校ゴルフ大会 の成績
生徒A	スコア 123	スコア 104
生徒B	スコア 142	スコア 98
生徒C	スコア 160	スコア 152

【タイトル：初心者ジュニアゴルファーの育成】

説明文：個々に応じた継続的な指導の成果があらわれた。

数多くのジュニアゴルファーを指導されているので、現在の生徒の実態に応じた、個に応じた指導技術を得ている。指導回数を重ねるごとにきれいなフォームになるのが見て分かり、少しずつではあるが上達している。大会においてはベストスコアを大きく更新することができた。今後は、一人一人の更なるレベルアップを目標に日々の部活動に取り組んでいきたい。

レッスンプロである一方、自身の大会に出場されるなど、指導日を調整確保するのに苦労した。今後は、より連携を取り合い生徒の支援を行っていききたい。

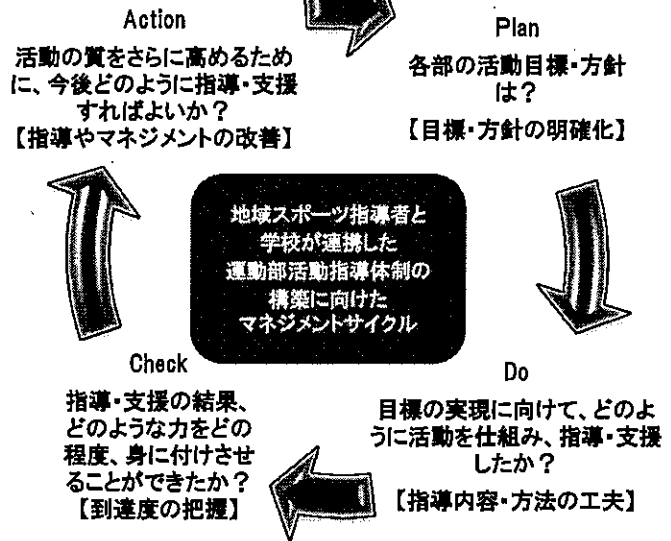
## 事業報告書(様式5)

リーディングについて学び人馬の安全・安心第一を目指した運動部活動の実践例

学校名	岩瀬農業高等学校
部活動名	馬術競技部
部員数	9人(男子8人、女子1人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0248-62-3145
学校Eメールアドレス:



### Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】

- (1) 練習場、および部室や周辺の整理・整頓の徹底を実行した。
- (2) 練習時間の設定については日の出、日の入りや、シーズンに応じ、事故防止に努めた。
- (3) 練習内容の精選は、部班指導、個人指導などを段階的に行い、馬の健康や感情の状態にも最大限の注意を払い指導した。

### Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】

- (1) 引き馬、手入れ、馬房掃除、馬装など馬の世話等の基本事項は、全員ができるようになった。
- (2) 勝負勘など、練習と競技会における心構えなどについての気づきが多くあった。
- (3) 騎乗姿勢については、一部の生徒で正しく行えていないが、運動の質の向上を目標に生徒自身が考えるようになった。

### Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】

- (1) 騎乗姿勢をビデオで撮影し、客観的に自己を研究する姿勢を習慣化する。振り返りの日を設定してみる。
- (2) 馬の習性をよく理解した行動や接し方が、馬に与える影響を理解させる。担当馬制度を採用してみる。
- (3) リーディングの知識を与え、人馬ともに安全・安心して活動できる環境を整える。

### 生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

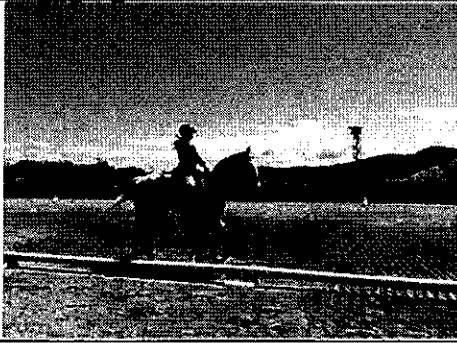
- (1) 体調の申告をさせ、無理な練習はさせないように配慮する。
- (2) 馬の習性について、とことん理解させる。
- (3) 騎乗前に、その日の馬の状況を確認し、生徒にあった馬を配当する。

### 顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 練習メニューの共同作成、顧問と指導員による乗用馬の調教
- (2) 外部指導者の補助に付き、指導を行うことで顧問のスキルアップを同時に図った。

【タイトル：馬場運動】

説明文：実際に騎乗しての調教（馬場運動）



【タイトル：男子総合優勝】

説明文：県大会、新人戦ともに男子総合優勝した



【タイトル：停止の状態】

説明文：ルールを統一しリーディングの意味を理解させる



【タイトル：鞍】

説明文：馬場蔵、障害鞍、総合鞍など練習科目の用途に選択する

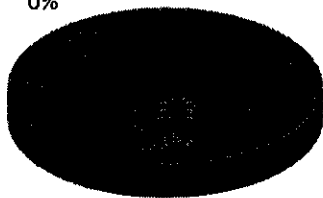


【タイトル：アンケート結果】

説明文：部活動に対する意欲・技術知識の向上について

部活動への意欲向上

NO  
0%



技術・知識の向上

NO  
0%



【タイトル：支援事業の感想】

説明文：支援事業に対し顧問・生徒の感想

顧問感想

- ・支援事業の実施により、専門知識を高めることができた。
- ・生徒の個々の成長に合わせ、モチベーションの向上にも配慮した指導法は大変参考になった。
- ・顧問の部活動運営に合わせた指導方針を大切にしてくれたので、生徒たちに一貫性のある態度と指導法にて接することができた。
- ・ハウンスやキャハレット練習の目的や活用法が明確に理解できた。

生徒感想

- ・全国大会で適用する技術や知識を得るために、コーチの存在は大きいと思います。
- ・自分の騎乗技術における長所を見つけ出すことの重要性を知りました。また、自分の考え方を行動に結び付けていけるようになりました。
- ・馬の手入れや扱いなどの基礎的なことも学びなおすことが出来ました。乗馬初心者の私たちですが、どんどん上達していることを感じるの  
で、やりがいがあります。
- ・来年は「全国大会優勝」という大きな目標があり、それに向けチーム一丸となって毎日の練習に取り組んでいます。その中で、今後もコーチの指導による技術向上は必要不可欠です。私たちはこれから誰よりも強くなってみせるので、応援よろしくお願いします。



事業報告書(様式5)

技術的指導者不在の弓道部に正しい技術指導を施した実践例

学校名	福島県立石川高等学校
部活動名	弓道部
部員数	7人(男子4人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

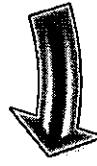
電話番号: 0247-26-1656
学校Eメールアドレス: <a href="http://www.ishikawa-h.fks.ed.jp/">http://www.ishikawa-h.fks.ed.jp/</a>

**Action**  
活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？  
【指導やマネジメントの改善】

**Plan**  
各部の活動目標・方針は？  
【目標・方針の明確化】



地域スポーツ指導者と学校が連携した運動部活動指導体制の構築に向けたマネジメントサイクル



**Check**  
指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？  
【到達度の把握】

**Do**  
目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？  
【指導内容・方法の工夫】

**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

(1)以前は矢羽を濡らしたくないという理由で雨天時は練習を中止していたが、天気に関係なく活動するようになった。  
(2)以前は制服姿で練習していたが、ジャージで行うよう指導した。  
(3)道場内を整理整頓し、整然とした雰囲気にした。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

(1)昇級審査に1年生が全員合格できた。  
(2)1年生ながら地区大会ベスト16に入り、県大会に出場した者がいた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

(1)地域スポーツ人材活用を続けることにより技術力を高める。  
(2)少人数の部活なので欠席者を少なくするよう指導する。

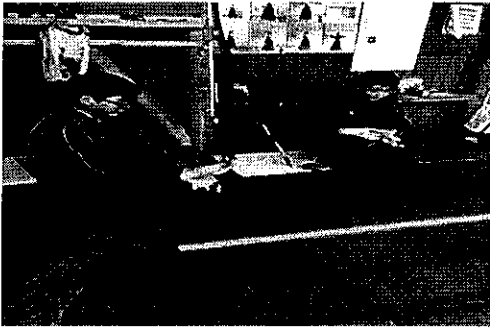
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)暴発を防ぐために防矢ネットを取り付けた。  
(2)危険防止のためにストレッチをしてから弓を持つようにした。

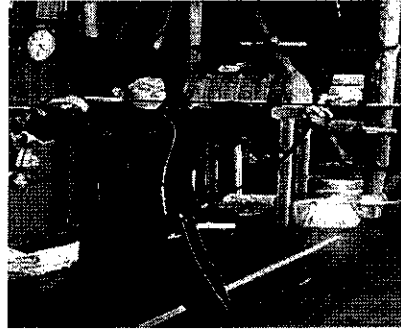
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)外部指導者のアドバイスにより、弓具の整備、活用ができるようになった。

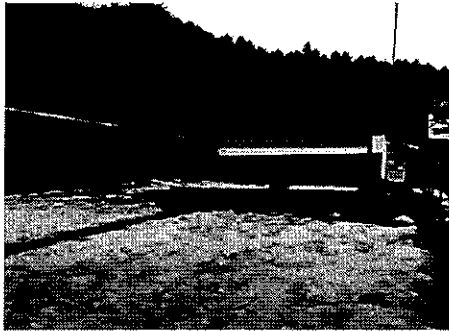
【ユガケをつける部員】  
指導によりユガケをつける作法が身に付いた。



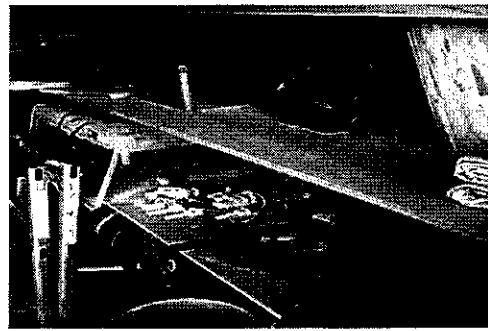
【行射中の部員】  
指導により正しい射法が身に付いた。



【防矢ネット】  
暴発防止のために防矢ネットを取り付けた。



【整理するための棚】  
道場の整理整頓のために棚を取り付けた。



【今年度の成果】  
昇級審査、新人戦県南地区予選での活躍

昇級審査一級合格率 昨年度 4名受験 一級合格 0名 合格率0%  
今年度 6名受験 一級合格 4名 合格率67%

新人戦県南地区大会での成績 個人戦ベスト16 県大会出場 県大会では準決勝に進出。

【本年度を振り返って】  
本事業でよかった点

弓道は専門性が高く、一般の人間が触れることの少ない競技である。また顧問はまったくの素人で部員に指導することが極めて困難であり、その点で部員は恵まれていない状況であった。このままでは名ばかりの弓道部になってしまう恐れがあるため、本事業に申し込んだ。幸い良き指導者を得ることができ、今年度の成果も残せた。来年度も緑川さんに引き続き指導をお願いしたい。

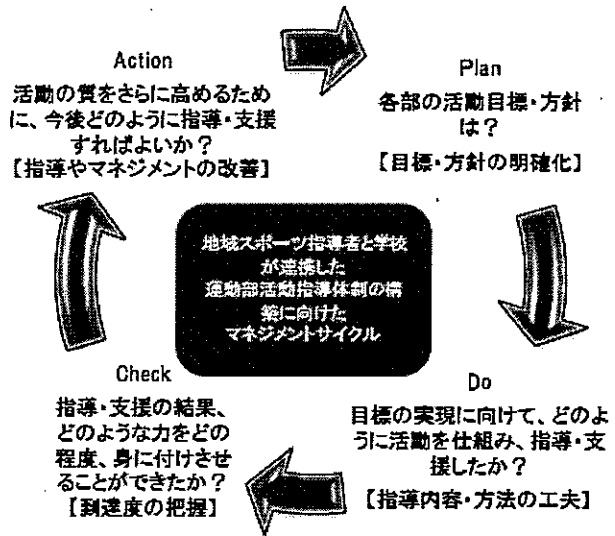
**事業報告書(様式5)**

生徒が輝く運動部活動を目指した実践

学校名	福島県立田村高等学校
部活動名	卓球部
部員数	15人(男子6人、女子9人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-62-2185
学校Eメールアドレス:tamura.h@pref.fukushima.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

(1)今回がはじめてということもあり、新人戦に向けての目標を設定し、基礎練習を行った。  
 (2)その後、個人レベル別に指導を行い、初心者から中級者レベルの指導を段階的に行った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

(1)練習メニューを変更し、基礎やフットワーク強化を行った。その結果、大会において緊張している時もスムーズに動けるようになってきた。  
 (2)各々の課題を発見し、それぞれに課題に向けて取り組むことにより大会において結果をのばすことができた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

(1)生徒の要望を聞きつつそれぞれの目標を意識させ、指導者が来る時だけでなく、日々の練習でも切磋琢磨し合えるような環境を整えていく。  
 (2)指導者に来てもらうことにより、技術面での指導だけではなく、試合におけるメンタルスキルを伸ばしていけるように話を聞く機会をもつようにする。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)水分補給をさせ、適度に休憩を取りながら行った。  
 (2)個人能力差により練習を行い、体力の弱い子に負担にならないように行った。  
 (3)練習開始時には準備体操をしっかりと行い、練習終了後にはストレッチを行った。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)外部指導者と一緒に生徒の個人、団体の目標をそれぞれ共有し、目標に向けた技術指導を外部指導者が、気持ちや態度に関することに関しては顧問が行い、目標に向けて練習できるようにした。  
 (2)はじめはコミュニケーションを積極的に取ることが出来なかったため、顧問が間に入り、練習中に声をかけながら行った。

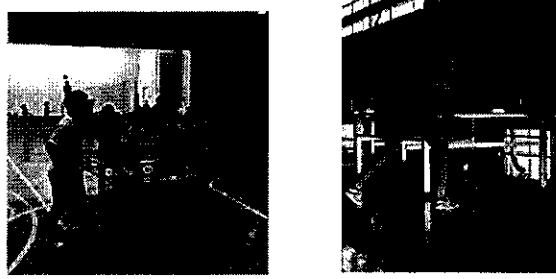
【タイトル：練習風景①】  
 説明文：新練習メニューをこなす生徒たち

部活動の様子がわかる写真①



【タイトル：練習風景②】  
 説明文：練習に真剣に取り組む生徒たち

部活動の様子がわかる写真②



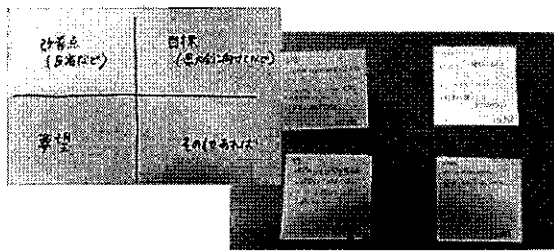
【タイトル：安全管理チェック表】  
 説明文：安全管理チェック表を使って、日々の確認をする

安全確保のために配慮している場面の写真等

安全管理チェック表	点検項目	点検日時	実施者名	印
練習に使う道具、必要な確認事項にチェックしているか。				
練習方法が科学的に指導しているか。				
練習内容は安全管理等での事故の発生に留意しているか。				
怪我のみならず、熱中症、脱水、窒息に留意して指導しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				
練習の安全管理が徹底しているか。				

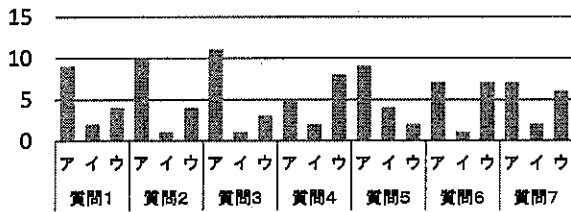
【タイトル：PDCAへの取り組み】  
 説明文：色違いの付箋に書いた後、黒板に貼り、目標などの共有までを行った。（資料のみ）

工夫した用具や資料の写真等

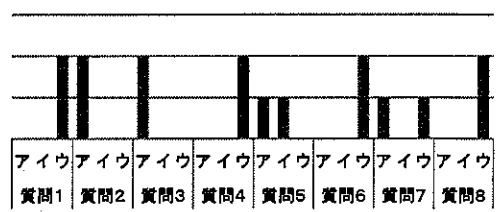


【タイトル：地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道等指導推進事業アンケート結果】  
 説明文：実施時にアンケートを行った結果をグラフ化しました。

部活動への指導者派遣について



部活動への指導者派遣について



【タイトル：来年度に向けて】  
 説明文：以下ご参照ください。

指導者を派遣していただいたことにより、生徒の意欲が高まり、試合に向けて練習メニューを自分たちで考えるようになった。しかし、指導者の仕事の都合により3回となってしまう、直接的な試合結果としてよい成果を出すことは叶わなかった。来年度は派遣回数の確保をし、生徒に指導する機会を増やし、結果を残せるようにしていきたいと考える。

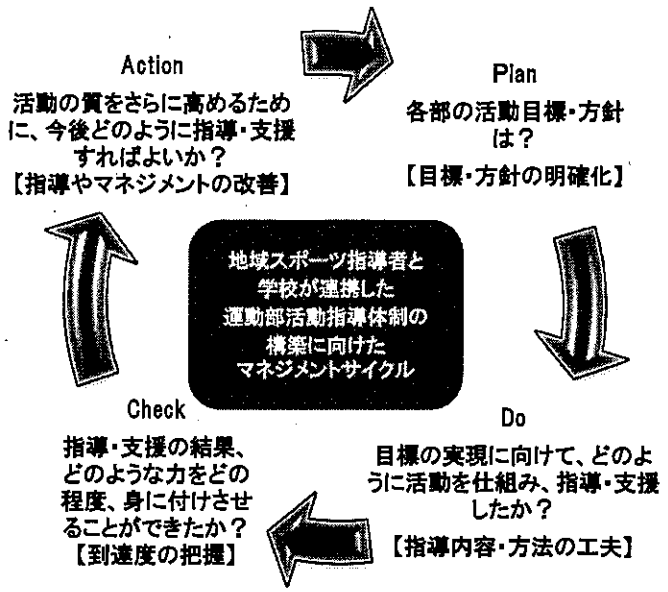
**事業報告書(様式5)**

学校組織を挙げて生徒が輝く運動部活動を目指した実践例

学校名	小野高校
部活動名	弓道部
部員数	男子10人 女子2人

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-72-3171
学校Eメールアドレス:school@ono-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

(1)団体で県大会出場を目標に、夏休み中、特に夏合宿に集中し技術指導を行った。  
 (2)射形をビデオ等で録画し、自己の射形を客観的に理解させた。  
 (3)一人ひとりの体配の見直し、修正をするために練習方法の改善点を挙げ練習の効率化を図った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

(1)4射2中以上を出せるようになり、全体的中率を上昇させることができた。  
 (2)体配のバラツキを改善できた。  
 (3)県大会の出場という目標を達成できた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

(1)今後も体配や射形をビデオに録画し、目標とする体配や射形を視覚的に確認する。  
 (2)生徒を指導するときのポイントなどを顧問の先生に伝える。  
 (3)改善した練習方法を維持し、効率的な練習を続ける。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)弓道は武道かつ危険を伴うスポーツということを改めて理解させ、安全面の向上を図った。  
 (2)天候の悪い時や体調が思わしくないときに無理をしてはいけないことなどの安全面に关わる意識の向上を図った。  
 (3)道具の確認や設備について専門的な事を教える事で安全に対する認識を向上させた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)生徒一人ひとりの個性などを理解し、個人に合った指導を行った。  
 (2)指導・支援終了後に練習方法の改善点や効率化などについて打ち合わせを行い、目標達成について確認を行った。

【初心者の生徒への指導】  
弓を引いたばかりの生徒へ  
細かい動作について指導した。



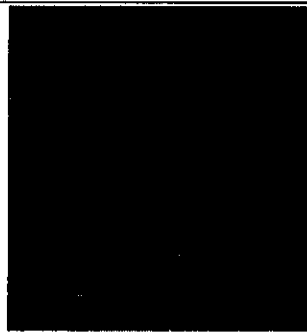
【初心者の生徒への指導】  
矢の見方や引き分けなどの指導を行った。



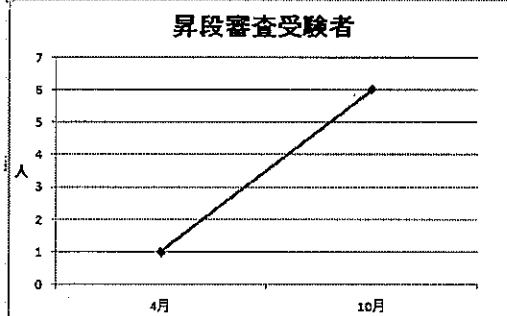
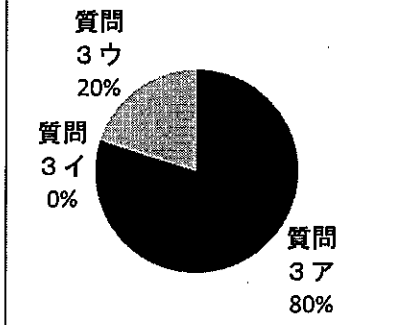
【枠へ矢が刺さり、矢尻が突き出ている。】  
枠に矢尻が突き刺さり、抜き取るのが危険である。  
安全面への声かけを行った。



【弓具の確認】  
弓具の名前の由来・歴史などを知り  
道具に対する意識を高めた。



弓道への意識向上  
技術力向上のアンケート結果より、向上を感じている。  
また、段位を希望する受験者が増えた。



今後の弓道部指導にあたって  
全国大会出場を目標に、県大会上位を目指す。

生徒一人ひとりの体調に配慮し、安全意識を向上させる。安全意識の向上に伴い、体調管理、自己管理能力を高めて、卒業後につなげていきたい。

また、段位を習得する意味や生涯スポーツとしての弓道という意識を指導を通して高めていた。

その結果、4月は初段を希望する生徒が1人しかいなかったが、10月の審査には6人と希望者が増えた。さらに、卒業までに武段か参段まで取りたいという生徒も出てきた。

段位習得などを通して、弓道を行う意味をもう一度考えることで、上位大会への意欲を高め、最終的な目標である全国大会出場を目指させたいと考えている。

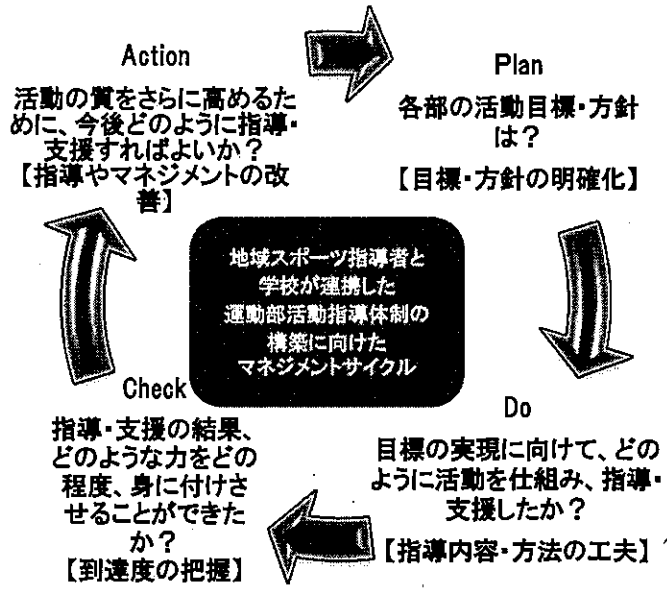
**事業報告書(様式5)**

目標に向かって努力する経験を通して、自己を高める部活動の実践

学校名	福島県立光南高等学校
部活動名	応援団チアリーダー部
部員数	23人(男子0人、女子23人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-42-2205
学校Eメールアドレス:nagao.keiko@sa71.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

(1)個別面談や部長・副部長とのコミュニケーションを密にとり、またミーティングの場を設定するなどして、部員のニーズを十分に踏まえ、外部指導者と細かい打ち合わせをし、計画的に練習メニューを設定し取り組ませた。  
 (2)外部指導者を迎え、技術や表現力を身に付け、練習課題を設定し課題達成のために、日々の練習に励んだ。また、目標達成のために今何をすべきかを部員たちで考えられるように、練習計画表を毎月配布した。  
 (3)日々の部活動のはじめに、本日の目標を一人一人宣言し、終了時にはその目標を達成できたかを確認した。部員同士、全員で声を掛け合いながら目標達成のために努力した。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

(1)ダンスの技術力や表現力を向上させ、全日本チアダンス選手権大会への出場を果たした。  
 (2)先輩後輩の関係なく、声を掛け合うなど、コミュニケーション能力を高めることにより、各場面ごとの目標を達成することができた。  
 (3)外部指導者から科学的根拠に基づく練習方法を身につけさせることができた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

(1)全日本チアダンス選手権大会への出場は果たしたものの、全国大会出場ということに満足してしまい大会前は集中力が途切れてしまった。ミーティングや個別面談等を実施し、もう一度目標を確認しあうなどして精神的に高め合えるような場を作ればよかったというのが改善点である。  
 (2)通常は、外にある中庭のコンクリ床での練習になる。夏の猛暑時や冬の積雪や強風時の練習場所の確保が課題であり、検討が必要である。  
 (3)3年生が引退し1・2年生への引き継ぎ、代替わり後も継続して部活動での雰囲気作りが課題である。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)部活中のけがを防ぐために、十分に柔軟やストレッチの時間をとった。  
 (2)練習場の床の落下物等からけがをしないように、こまめにモップ掛けを行った。  
 (3)怪我や病気の症状を訴える部員に対しては通院や休養を支持し、スポーツ障害や疲労蓄積の排除に努めた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)電話等を利用し、練習内容や練習の雰囲気等の情報交換をこまめに行った。ミーティングを持った。  
 (2)顧問は精神的な支えとして、外部指導者は技術の指導者として支援指導にあたり、顧問と外部指導者で生徒の情報を共有し今後の練習課題等について密に打ち合わせの機会を持った。

【タイトル：全国出場決定！！】  
 説明文：東北代表として、全日本アゲル選手権大会出場決定！！



【タイトル：意見交換の場（ミーティング）】  
 説明文：先輩・後輩関係なく心をつなぐために、練習目標・メニューについて確認中！



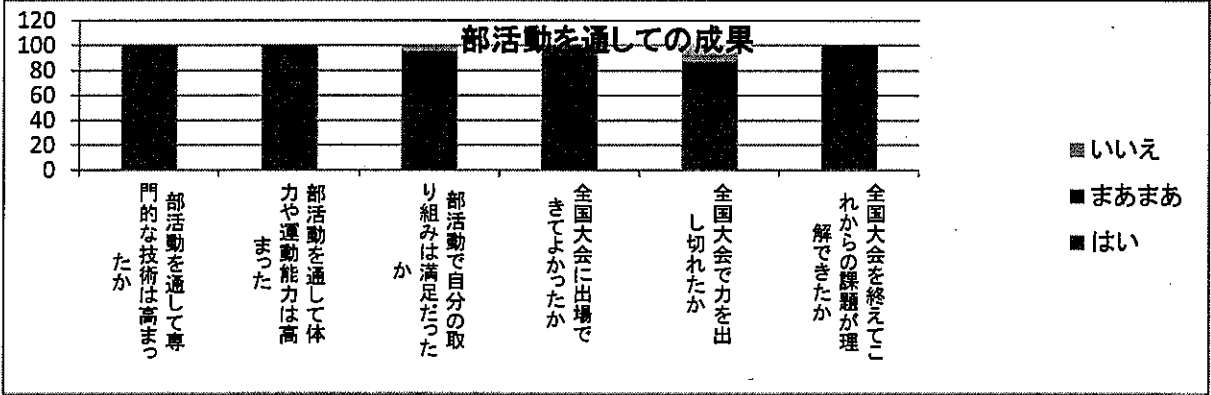
【タイトル：柔軟運動とモップ掛け】  
 説明文：けがを防止するために、からだをあたたためてからの柔軟運動と事故防止のための細かなモップ掛けを行った。



【タイトル：音楽設備とタイマー】  
 説明文：部活時間を有効に活用するため、練習項目に沿ってタイマーを利用した。



【タイトル：部活動を通しての成果】  
 説明文：全国大会終了後のミーティングから



【タイトル：今年度の反省と次年度への課題】  
 説明文：今年度の反省を明確化し来年度へいかしていくためにどうすべきか。

生徒は、部活のはじめに本日の目標を発表して、終了後に達成できたかを確認し、その目標達成のために一人一人声を掛け合いながら部活動に取り組んだ。各自が技術を高め精神的にも高め合うことができたようだ。

今年度は、地域人材活用事業を活用させていただき、外部指導者から昨年度よりも多く指導時間を得ることができた。バレエやダンスの専門的な技術を習得することができた。また、練習中に疑問に思ったことや不安なことを質問することができたと、生徒の練習にとってもプラスになった。

技術面で向上できたが、上のグラフから、全国大会出場を目標にして練習に取り組んできたが、全国大会出場が決定した安心感からか、全国大会までの練習でのモチベーションが上がらなかつたなどの意見もみられた。精神面や目標の設定、部活動の雰囲気作りなどについて課題が残った。来年度もこの地域人材活用事業を継続を希望したい。



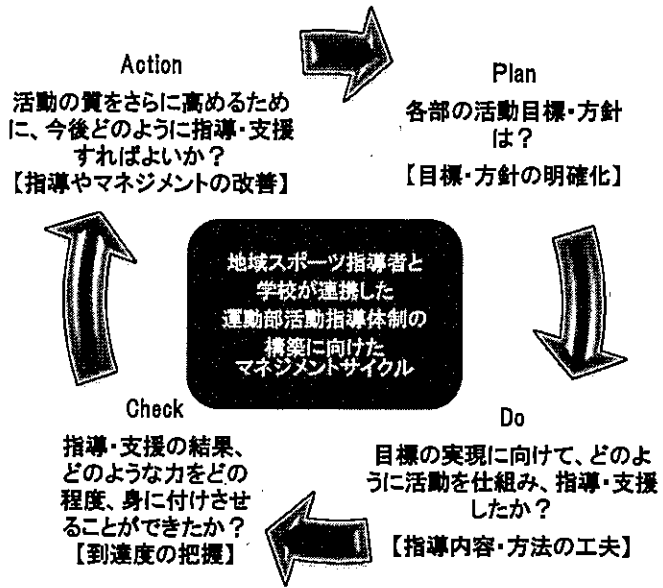
事業報告書(様式5)

地域の指導者との関わりを持ちながら、生徒が人として成長できる運動部活動を目指した実践例

学校名	白河旭高等学校
部活動名	弓道部
部員数	48人(男子16人、女子32人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0248-22-2535
学校Eメールアドレス:shirakawaasahi.h@pref.fukushima.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

- (1)夏休み中、地区の記録会に際し、細かな技術の指導を頂いた。
- (2)顧問が生徒と個人面談を行い、部活動・学業の両方において個々の目標や課題を明確化した。
- (3)外部指導者や地域の弓道会の例会への参加を通じ、弓道の技術及び社会性を身につけさせるようにした。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

- (1)2年生が遠的競技(的まで60m)を行ったが、できるようになった。
- (2)顧問と生徒の信頼関係を築くとともに、個々がそれぞれの課題や目標を自覚し、目標達成に向けて努力をすることができた。
- (3)地域の弓道会の方々との指導により、個々の技術面の課題を改善するとともに、礼儀を学び弓道に対する理解を深めることができた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

- (1)特に結果のほしい、大会直前等、又は新入生入部後等、効果的にご指導いただきたい。
- (2)人数が多く、部活動内での時間の使い方、各生徒の自覚・自主的、積極的な関わりを育てる必要がある。

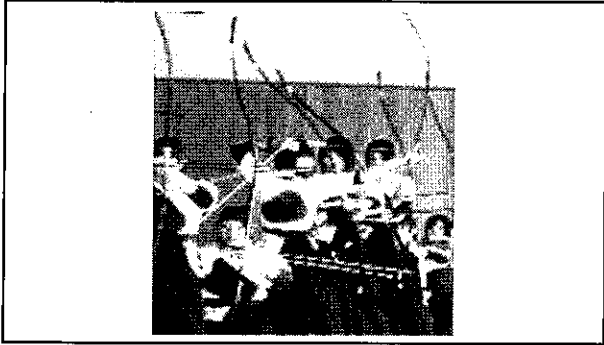
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)矢道を通る際は必ず大きな声で練習を一旦停止する掛け声をかけてから通ることを徹底した。
- (2)市の設備をお借りして、安全に留意した練習を行った。
- (3)冬季練習中に身体が冷えすぎないように、ストーブ・カーペット等で防寒対策を行った。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)顧問と外部指導者が指導を行う時間が重なるようにし、適宜生徒についての情報を交換できるようにした。
- (2)連絡を定期的に取り、来て頂けない時でも生徒指導へのアドバイスを頂いた。地元の弓道会の行事に参加した。

【夏季県南地区大会】  
地区大会での女子団体予選の様子です。



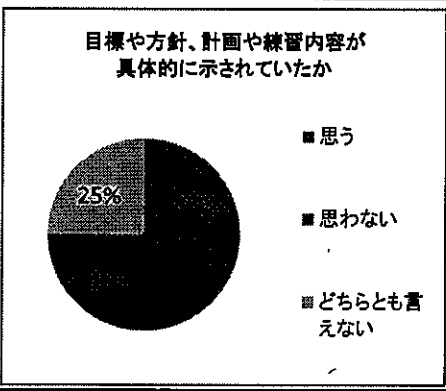
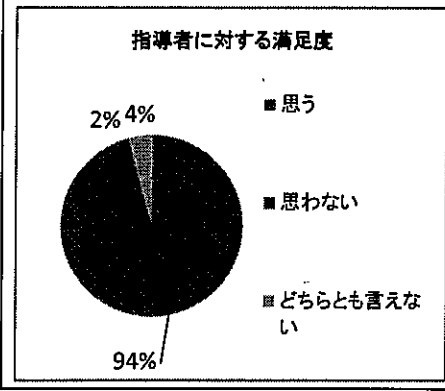
【夏季県南地区大会終了後】  
地区大会で全員の集合写真です。



【安全確認について】

矢取りをする時など、きちんと安全確認をしてからの指導、赤旗を立てるなどの指導をしています。

【アンケート結果】  
説明文：指導者に対する満足度は非常に高いです。



アンケートの結果、外部指導者・顧問に対する満足度は、満足している者が45名、何らかの不满がある者が1名、その他の者が2名であった。改善の必要があると思われる項目は、「部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか」という項目である。次年度以降、部活動を通した体力や運動能力の向上について、部員と意見を交えながら改善していきたい

【弓道人を育てる】

弓の技術だけではなく、礼儀作法など、生徒が弓を引く「人」としての成長をめざし、ご指導頂く地域の方と連携して行きたい。

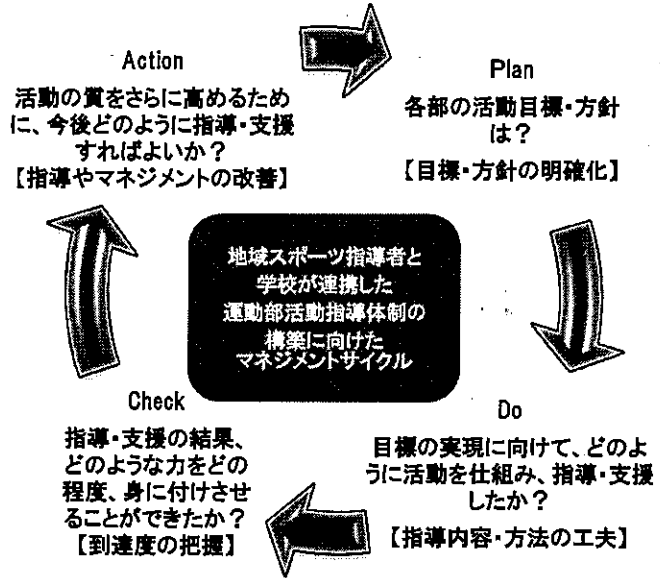
事業報告書(様式5)

仲間とともに自己を高めあう部活動の実践

学校名	福島県立埴工業高等学校
部活動名	柔道部
部員数	4人(男子4人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-43-2131
学校Eメールアドレス:ishida.manabu@jw74.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

(1)新入部員歓迎会や食事会、合宿などを通して、部員同士がコミュニケーションを密にとりやすい環境を提供した。  
 (2)一人ひとり考え方や感じ方は違うのでその生徒に見合った、個の性格や要望に応じた指導を展開した。  
 (3)ロードワークやベンチプレスを行うにあたり、必ず記録表に記録をとることにした。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

(1)チームワークがよくなり、試合中の仲間を応援するなど仲間意識が高まった。  
 (2)指導者と生徒との間に信頼関係が生まれ、言われた内容を素直に聞き入れるため、生徒に力が付いてきた。  
 (3)自分がどれだけ成長しているか記録表で確認でき、生徒の意欲向上につながった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

(1)メンタルトレーニングを取り入れ、生徒の内面を改善し、さらに心体ともに成長させていきたい。  
 (2)少人数で活動しているため生徒のモチベーションを維持させることが今後の課題であり検討が必要である。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)定期的に施設用具の安全点検を行うとともに運動の直前直後の心身の状態を把握した。  
 (2)準備運動を入念に行い、寝技の乱取りや立ち技の乱取り、段階に合わせて投げ技や関節技の攻防を展開していった。  
 (3)筋肉トレーニングを行う場合には、補助として2人必ず立ち会った。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)練習の内容についてや練習時間の変更がある場合は電話でこまめにやり取りをした。  
 (2)生徒の体調や怪我の状況、また精神状態など外部指導者と顧問で情報交換を密にし、生徒にとって何が最善か考えながら指導にあたった。

**【寝技の乱取り】**  
 説明文：お互いに身の入った寝技の稽古中。



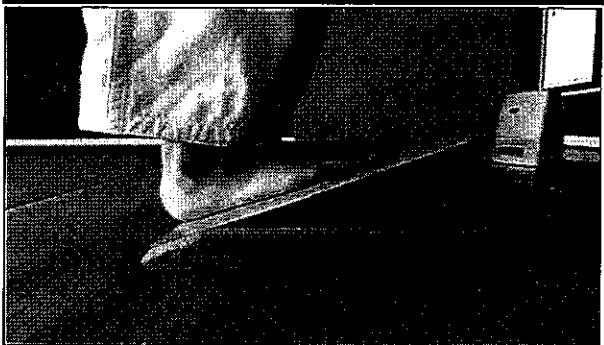
**【筋トレ①】**  
 説明文：稽古の合間の筋トレ。



**【筋トレ②】**  
 説明文：仲間の筋トレ中は、安全対策を欠かしません。必ず両脇にサポートが入ります。



**【足首のストレッチ】**  
 説明文：足首が固い生徒が柔軟を行い、事故や怪我を未然に防ぐ。



**【今年度の反省と来年度の抱負】**  
 説明文：今年度の反省を生かして今後どのように取り組んでいくか。

アンケート対象者部員4名

入部前に比べて基礎体力は向上したか

■ はい



■ いいえ

■ どちらともいえない

自分の目標に向けて頑張っているか

■ はい



■ いいえ

■ どちらともいえない

来年度は自分の課題に向けて取り組めるか

■ はい



■ いいえ

■ どちらともいえない

外部指導者を来年度も継続してほしいか

■ はい



■ いいえ

■ どちらともいえない

**【今年度の反省と今後の課題】**  
 説明文：今年度の反省を生かして今後どのように取り組んでいくか。

部活動を通して、基礎体力の向上と柔道の楽しさを実感できた。また武道家として礼儀作法を徹底し、脱いだ靴を揃えたり、脱いだ服を畳んだり、当たり前のことでも当たり前に取り組めた。  
 今年度は地域スポーツ人材の活用実践支援事業を活用させていただき、外部指導者から多くのことを学んだ。特に技術面では、口頭ではなかなか伝わりづらい握り手や立ち位置、投げ方や押さえ方など、専門的な内容を身体を張って指導していただいたことに深く感謝している。生徒にとっても自分の疑問に感じた内容はすぐに質問できる状況にあったため、とても安心して練習に取り組めた。  
 今後の取り組みとしては、これまで外部指導者に教わったことを継続することはもちろんだが、体力や技術力、精神力を高め、対外試合などを多く経験することで試合慣れし、上位大会進出を目指したい。また、以上の理由から来年度も地域スポーツ人材の活用実践支援事業を活用させていただきたい。

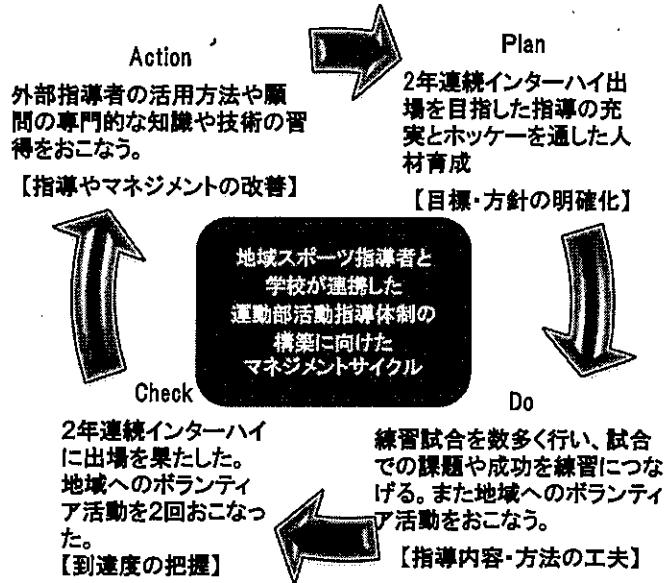
## 事業報告書(様式5)

外部指導者を活用したホッケー部の1年間の成果と反省

学校名	福島県立修明高等学校
部活動名	男子ホッケー部
部員数	12人(男子12人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0247-33-3214
学校Eメールアドレス:assist@shumei-h.fks.ed.jp



Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- (1)試合に勝利するために、技術力・体力の向上に努めた。その際、部員の集中力や怪我防止のために、特に声かけを頻繁におこなった。
- (2)精神面の向上の為に、練習前に毎回部活動を通じた目標を確認させた。
- (3)練習試合を多く設定し、試合でしか学ぶことのできない状況判断などを学ばせた。

Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- (1)技術力向上の為に、特にレシーブに力を入れて指導した。レシーブが確実にできることで、個々のプレーの幅が広がった。
- (2)体力向上の為に、ウエイトトレーニングとラントレーニングを行った。部員数が少ないこともあり、ラントレーニングを重点的におこない、人数で不利になることが無いよう努めた。
- (3)精神面では、腹式呼吸やメンタルトレーニングにより、どんな状況でもあきらめずに努力することができるようになった。
- (4)部活動の場面だけでなく、学校生活や日常生活でも「修明高校ホッケー部」として自覚を持ち行動できるようになった。
- (5)目標としていた2年連続インターハイ出場を果たすことができた。

Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- (1)3年生引退後は部員数が少なく、そのため練習試合数も少なくなっている。部員数を確保し、また次年度に向けてモチベーションを高くする必要がある。
- (2)部としての共通意識や戦術を浸透させ、試合での判断の一助とする。
- (3)顧問が専門指導者資格を有していないため、専門的な指導者である外部指導者と顧問の連携を綿密にする必要がある。

生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)生徒の怪我を把握し、生徒からの様々な状況的報告を顧問及び外部指導者と連携した。
- (2)ホッケーボールは硬く怪我をしやすいため、防球ネットや声掛けなどで、ボールが当たったことが原因の怪我防止に努めた。
- (3)ホッケー場は各ホッケー場の人工芝の状態により異なり慣れていない場合怪我を誘発する恐れもあるため、練習試合も含めて試合の際には事前にホッケー場の人工芝の様子を確認した。
- (4)集中力の欠如や環境変化の際に怪我をしやすいことを生徒に伝え、練習の内容を工夫するなど集中力を高めるとともに、環境に対応し練習の中止などの判断を迅速におこなった。

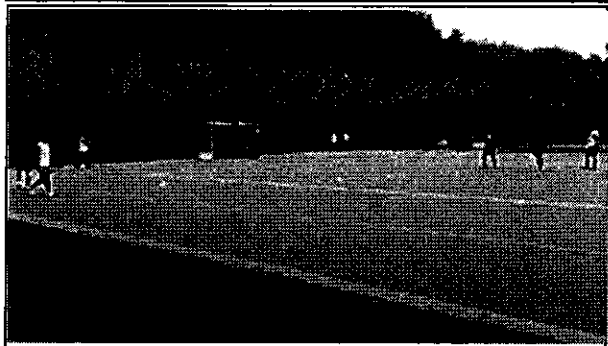
顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)日々の練習内容などを外部指導者とほぼ毎日電話にて連絡をおこなった。
- (2)2ヶ月分の練習予定を出し、練習の有無や内容などを外部指導者と相談し、連携を図った。
- (3)部内で起こった問題等に対応するために、外部指導者と直接話す機会を最低1ヶ月に1度設けた。
- (4)生徒の日々のことで部活動に関わる情報を、外部指導者と連絡しあった。
- (5)新人戦大会後には1年生が多いことから顧問と外部指導者で相談の上、外部指導者によるメンタルトレーニングの講話を聴く機会を設けた。

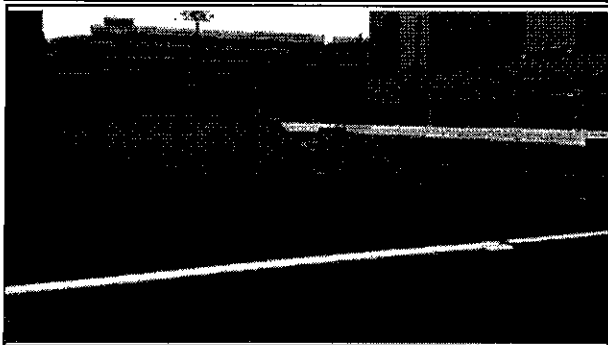
外部指導者による戦術の確認  
外部指導者を中心に戦術の確認を行った。



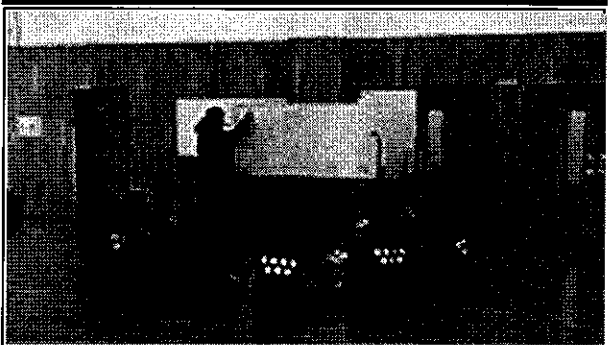
専門的な技術指導  
特に得点が期待できるPC（ペナルティコーナー）の練習風景。



事前に確認した人工芝  
インターハイ会場の人工芝を確認した際のホッケー場の様子。



メンタルトレーニング講話  
外部指導者によるメンタルトレーニング講話の様子。



今年度の成績  
外部指導者を活用した、今年度の成績

○平成27年6月19日～22日 全国高等学校総合体育大会東北地区予選会兼東北ホッケー選手権大会（岩手県岩手町）  
予選Bブロック 修明高校 2-0 三沢高校、修明 3-2 築館高校 予選ブロック1位通過  
インターハイ第1代表決定戦 修明高校 2-3 沼宮内高校  
インターハイ第2代表決定戦 修明高校 2-2(SO戦 2-0) 築館高校 インターハイ出場権獲得  
東北選手権大会決勝 修明高校 0-6 沼宮内高校 東北選手権大会2位

○平成27年7月31日～8月5日 全国高等学校総合体育大会 男子第78回全国高等学校ホッケー選手権大会（京都府京丹波町・大阪府茨木市他）

1回戦 修明高校 5-2 羽衣学園高校(大阪)  
2回戦 修明高校 1-7 伊吹高校(滋賀) ベスト16

○平成27年10月30日～11月2日 平成27年度全国高等学校選抜ホッケー大会東北地区予選会(青森県六ヶ所村)

決勝リーグ 修明高校 2-2 三沢高校  
修明高校 5-0 置賜農業高校

今後の目標  
今後の目標は、3年連続インターハイ出場である。

次年度もホッケー指導の為に、外部指導者事業を活用したい。そして、次年度もインターハイ大会出場と岩手国体出場に向けて生徒を指導していきたい。

## 事業報告書(様式5)

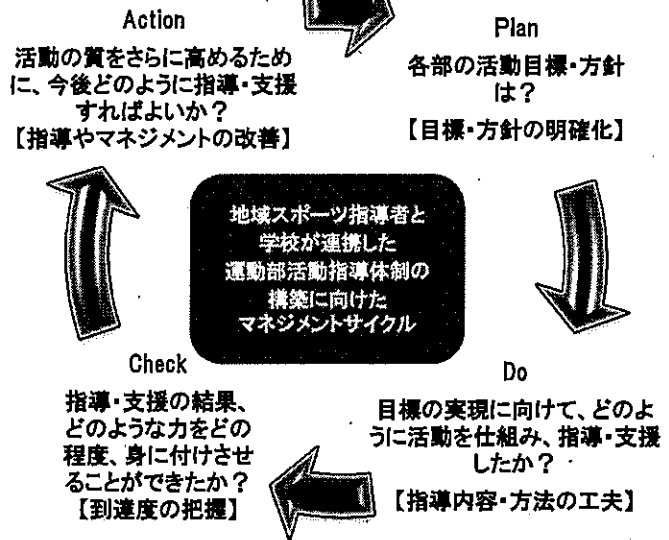
地域スポーツ少年団での活動と高校部活動を連動させた指導の実践

学校名	福島県立葵高等学校
部活動名	なぎなた部
部員数	17人(女子17人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242(27)5461

学校Eメールアドレス:assist@aoi-h.fks.ed.jp



### Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- (1)地域の児童・生徒になぎなたを指導している外部指導者に部活動指導に参画してもらうことで、部活動とスポーツ少年団活動に一貫性を持たせる。
- (2)力量に大きな差がある生徒の実力に応じた段階的な指導を実践し、生徒の競技力向上を図るようにする。

### Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- (1)専門性の高い指導により、生徒個々が技能と体力・運動能力を向上させることができた。
- (2)競技に関しての生徒状況に大きな差があるにもかかわらず、生徒個々の性格や競技力を踏まえた指導が行われ、部活動の充実を図ることができた。
- (3)なぎなたへの関心が高まり、競技での勝負のみでなく、対戦相手への配慮、日常生活での礼儀作法を重んじる姿勢が身についてきた。

### Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- (1)外部指導者による指導を継続するとともに、今まで以上に生徒自身が自分で考え、課題を克服するために練習に取り組むこと。
- (2)指導経験が豊富な外部指導者と部活動顧問が一層連携を深め、生徒一人一人の経験の差、体力、性格、行動特性に応じた望ましい指導を行う。
- (3)体幹トレーニングの継続により正しい姿勢の保持、バランスの維持、競技力の向上を目指させる。

### 生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1)毎月初めに安全点検を実施するとともに、部活動開始前に道場や用具の安全点検を実施し、生徒個々の健康状態も確認した。
- (2)年間活動予定に基づき外部指導者と顧問が、事前に活動内容を確認するとともに、個々の生徒状況に応じた段階的指導を実施した。
- (3)活動の最後に柔軟性の向上と筋肉の疲労を解消するためのストレッチを行い、体力の維持とけがを防止した。

### 顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1)学校での部活動とスポーツ少年団での活動が連動するように年間計画を立案し、実施するようにした。
- (2)顧問と外部指導者が把握している生徒の様子(学校生活・スポーツ少年団活動)について情報を交換する場と時間を設けた。
- (3)顧問は、外部指導者からの生徒個々の課題や指導ポイント等のアドバイスを日常指導に役立てた。生徒は、外部指導者からのアドバイスを記録し、自己の練習課題として改善に取り組むようにさせた。

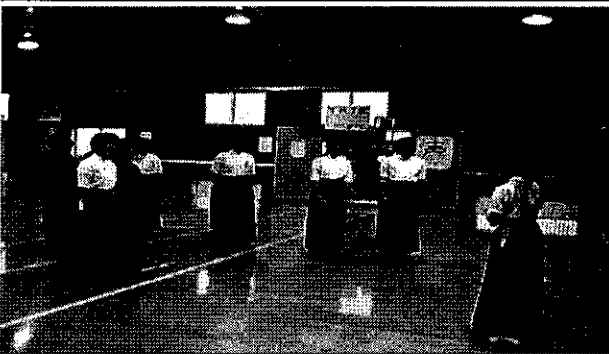
**稽古前の全体指導**  
稽古前・終了後にあいさつ。礼儀作法の指導も重要である。



**実技指導**  
生徒の技術レベル・実態に応じた具体的指示が与えられる。



**安全に関する全体指導**  
本日の練習目標・生徒の体調の確認を毎回実施している。



**試合競技の指導**  
基礎基本の重要性の全体的な指導、競技力向上を目指した各々の欠点に応じた修正のため個別指導がなされている。



### ○部員へのアンケート結果

- |   |               |
|---|---------------|
| ① 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する想いや要望を理解して指導していたとおもいますか。 | 思う 14名 ( 82%) |
| ② 外部指導者や顧問は、活動にあたって安全に配慮して指導していたと思いますか。         | 思う 16名 ( 94%) |
| ③ 部活動をとおして、専門的な技能は高まったと思いますか。                   | 思う 13名 ( 76%) |
| ④ 部活動をとおして、体力や運動能力は高まったと思いますか。                  | 思う 13名 ( 76%) |
| ⑤ 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。         | 思う 17名 (100%) |
| ⑥ 外部指導者の言葉づかいや態度は、指導者として適切だと思いませんか。             | 思う 17名 (100%) |
| ⑦ 部活動の目標や方針、計画や練習内容等が具体的に示されたと思いませんか。           | 思う 15名 ( 88%) |

### 地域スポーツ少年団での活動と高校部活動を連動させる指導の在り方について

外部指導者は、本校OGで、地域スポーツ少年団の指導者でもある。そのため、本校の実態を踏まえた上での地域スポーツ少年団と顧問との連携・協力を図ることが容易であり、両者の活動に一貫性を持たせることで生徒個々の特性や競技力を踏まえた連続した指導をすることができた。こうしたことが可能になったことで生徒の部活動に対する意欲が一層高まったと考えられる。高い専門的技術を持った外部指導者の各個人に応じた具体的な指導やスポーツ少年団での活動は、一校のみの部活動で得られる以上の様々な体験として競技力の向上だけでなく、外部の人との触れ合いの中でのコミュニケーション力の向上や社会的な礼節ある言動にもつながったと思える。

本校のなぎなた部には、高校からなぎなたを始めた生徒が多く、外部指導者やスポーツ少年団での基礎基本を重視する専門的指導は、競技力の向上には不可欠であると思われる。また、なぎなた経験のある生徒にとっても地域指導者による指導の継続性は、個性を把握した上での指導による高校生としての競技力向上という点で目標達成には利点があり、今後もこのような取組を学校としても継続していきたいと考えている。



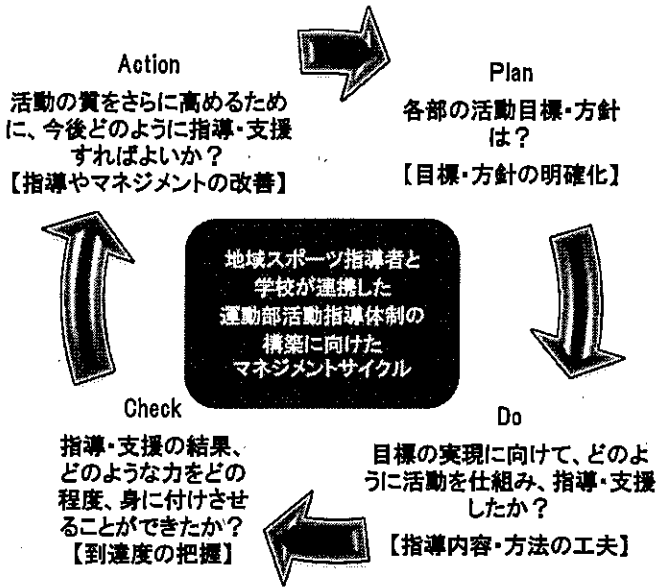
**事業報告書(様式5)**

本校の目標である文武両道について、外部コーチを活用することで、その推進を目指した実践例

学校名	福島県立若松商業高等学校
部活動名	ソフトテニス部
部員数	21人(男子0人、女子21人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0242-27-0753
学校Eメールアドレス:school@wakamatsu-ch.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

- (1) 課題を決め、その解決と常に実践を想定した練習ができるように指導した。
- (2) ことばや動作を選び、選手に分かり易いていねいな指導を心がけた。
- (3) 選手の個々を尊重し、良いところを伸ばせる指導と練習を心がけた。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

- (1) 個々の能力を活かした活動ができるようになった。
- (2) 基本的な動作を定着させることができた。
- (3) チームワークの取れた生き生きとした活動ができるようになった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

- (1) ルール、技術、戦術を理解し、新しい戦術を習得させる。
- (2) 挨拶やマナーを重視し感謝の気持ちを育む。
- (3) 基本練習を反復し、基本動作を確実に身につけさせる。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1) 練習前後のウォームアップ、ストレッチなどをしっかり行った。
- (2) 練習の際は選手間の距離を確認し、衝突等事故防止に努めた。
- (3) 活動の前後においては、選手の健康状態を確認した。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1) 高校生としての健全な成長を最重点とし、結果ではなく経過を重視した指導を互いに目指した。
- (2) 集団や個々の課題については常に意見を交換し、その克服に努めた。
- (3) 自主性とコミュニケーション能力の育成を図るため、生徒自らが判断する機会を持てるよう互いに配慮した。

**【基本練習の徹底】**  
打ち方・ステップの基本動作の確立



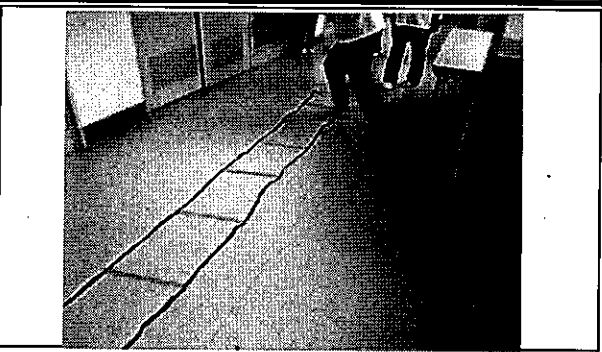
**【基本連続動作の習得】**  
前衛・後衛の攻撃から防御へと続く基本的循環動作の習得



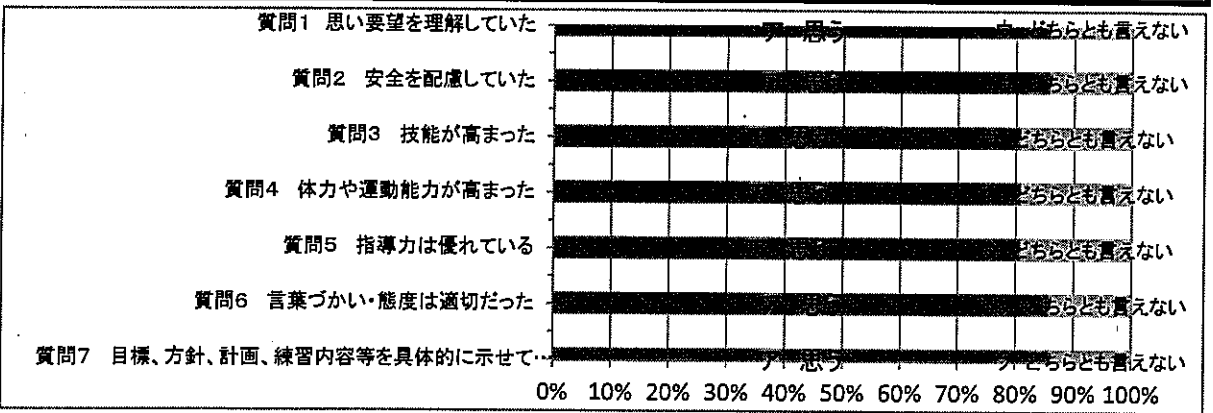
**【安全対策】**  
練習前後の十分なウォームアップとストレッチでケガを防止



**【用具の活用】**  
室内練習ではラダー、ロープを活用し敏捷性、瞬発力を育成



**【部活動アンケート生徒用の結果につて】**  
安全面、技能面、コミュニケーションの面等の項目について、生徒が満足していることが伺える。また、当部は文武両道を目指しており、練習量等においても学習との両立を図ることができるよう配慮され適切であった。



**【1年間の成果と今後の方針】**  
外部コーチ活用の成果と学校としての今後の取組に関する方向性等について

本校生の部活動への興味関心は高く、本校も文武両道を目指して部活動に力を入れ、ほとんどの部で当該部を専門とする顧問が指導に当たっている。その中で、ソフトテニス部においては専門の指導者がなく、生徒の専門的技術の向上が課題であった。今回この事業を通して外部コーチを活用することにより、アンケートにあるように、生徒も多くの成果を実感している。今後も、本校に専門の指導者がいない場合は、本事業による外部コーチの活用が、生徒の技術向上と本校の目標でもある文武両道の推進につながっていくことが期待される。

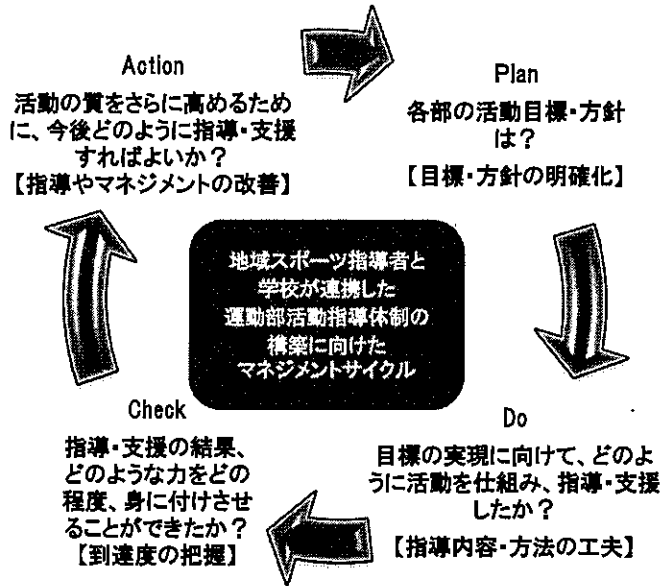
**事業報告書(様式5)**

地域スポーツ人材を活用した部員、顧問の技術向上に向けた取り組みの実践例

学校名	福島県立会津工業高等学校
部活動名	空手部
部員数	6人(男子 6人、女子 0人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0242-27-7456
学校Eメールアドレス:



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

(1)基本練習の徹底を図った。また、継続的な練習による定着を図った。  
 (2)安全に考慮し、組手の練習を行った。  
 (3)新入部員をはじめ部員に基本的な体力向上が必要であると考えた。そのため、継続的に筋力、体幹トレーニング、有酸素運動など体力づくりを行った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

(1)鏡の前で練習を行わせた。自己の動きを常に確認させることができ、美しい態勢の定着を図ることができた。  
 (2)6月に開催された福島県体育大会にて初心者を含わせ計部員7名が出場し、経験者と戦った。高校から空手を始めた3年生の部員1名が1回戦を突破した。団体戦にて部員何名かが勝ち星をあげた。  
 (3)体力向上に力を入れ、メニュー開始時にはメニューを完了させることができなかった生徒も、最終的にはメニューを難なく完了できるまでに成長した。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

(1)3年生が引退し高校から空手を始めた部員のみとなったため、日々の反復練習に力をいれ技術の定着を行う必要がある。基本的な練習メニューは変更せず、継続していく。また、練習中に的確な助言を行い、技術向上を図る。  
 (2)現状以上の成果をあげるために、実戦的な練習に取り組んでいく必要がある。  
 (3)体力強化はできたが、まだまだ足腰のパネなどの強化必要である。指導者ともにメニューの改善等を行う。

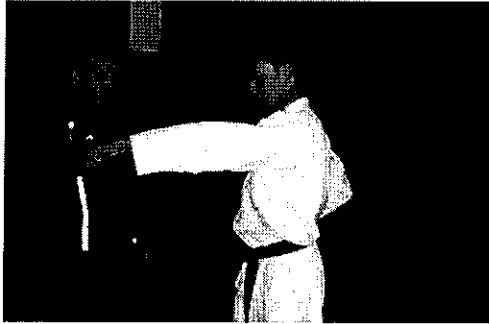
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)公式戦では怪我防止のため、空手用マットを敷いて競技を行っている。本校でも武道用マットを導入していたが、空手用公式マットを導入し、より安全に練習が行えるようになった。  
 (2)生徒の体調管理をこまめに行った。部員の体調が優れない場合、練習に無理に参加させることなく復調に努めさせた。  
 (3)準備体操を入念に行うこと、組手練習時は安全具を装着するなど、基本的な怪我防止策を徹底した。

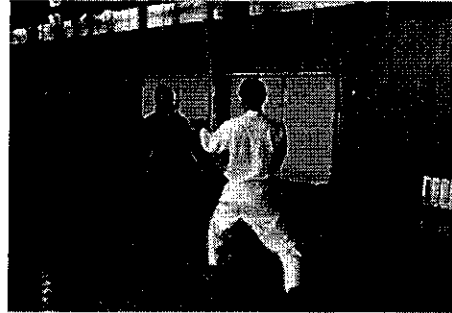
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)練習終了後、指導者と顧問にて部員ひとりひとりに何が足りないのか、何ができようになっているかを確認し合った。確認した結果を練習メニューに反映した。  
 (2)指導者が指導時に行っている練習の意図について確認し、意図を生徒、顧問ともに把握し練習効率を向上させた。  
 (3)個別指導や、顧問のノウハウも織り交ぜ、より指導者同士の指導力が上がるように配慮した。

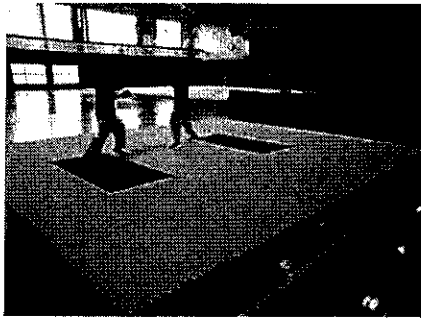
【基本練習の様子】  
基本練習にて欠点を指摘し指導を行っている様子



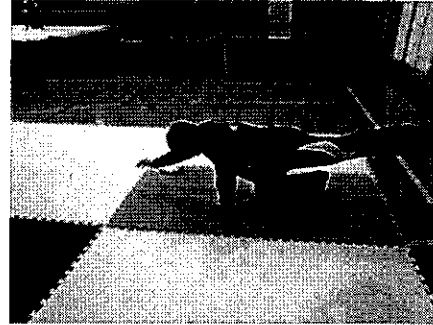
【組手練習の様子】  
組手練習を実戦的に指導している様子



【空手用公式マットの設置】  
安全のために空手用公式マットを設置した練習場



【基礎体力向上のための練習】  
毎日基礎体力作りのためのメニューを行っている様子



【取組の結果分析】  
活動中の生徒3人に聞き取りを実施した。また、実践結果を下記に示す。

○生徒聞き取り結果

Q1. 指導者の指導についての意見があれば教えてください。

- ・指導者は、練習に対する心構えを話していただけることでメンタル面についても参考となっている。
- ・実際に組手稽古の相手をしていただき、非常によい練習を行うことができています。
- ・高校から空手を始めたため、うまくできないところがあるが的確に指導を行ってくれている。

Q2. 指導者の指導によって練習の成果は上がりましたか？

- ・高校3年間をかけて空手を1から教えていただき、県大会など高校以前に空手を始めていた選手とも戦えるようになった。
- ・基本的な動きや、形、組手などを3年間指導いただき、空手らしい動き、姿勢がとれるようになった。
- ・初めて空手を始めて、はじめは突きを打つのもぎこちなかったが、指導の成果で問題なく突きが打てるようになった。

○県大会の出場結果(抜粋)

- ・県高校体育大会 個人形出場 個人組手2回戦進出

【これまでの取組と今後】  
これまでの取り組みと今後の取り組みについて下記に示す。

地域スポーツ人材活用実践事業を利用させていただいた。本校は本年度で事業継続4年目となる。外部指導者、顧問が一丸となり指導にあたった。特に本年度の3年生は高校から空手を始めて1年生から3年生まで本事業を利用し実力の向上を図ってきた。3年生は県大会でも萎縮せずに堂々とした態度で出場できるまで成長した。1年次と比較して技術だけではなく礼儀作法も成長したことが見受けられる。外部指導者とともに指導に当たった成果が結果だけではなく、態度や空手に対する意欲の向上から感じられる。また、本部活動は2年生部員が所属しておらず、本年度入部の1年生部員のみが現在活動を行っている。引退した3年生でできなかった反省点を活かし外部指導者と指導を行っていきたいと考えている。しかし、本年は外部指導者、顧問ともに部活動外業務が多忙であった。また、事業後半に外部指導者の腰痛が悪化するなど、思うように指導の日程をマッチングできなかったことが本年度の課題である。来年度も継続の場合は、予定のマッチングを綿密に行い、生徒への指導がより効果的に行えるよう留意していきたい。

**事業報告書(様式5)**

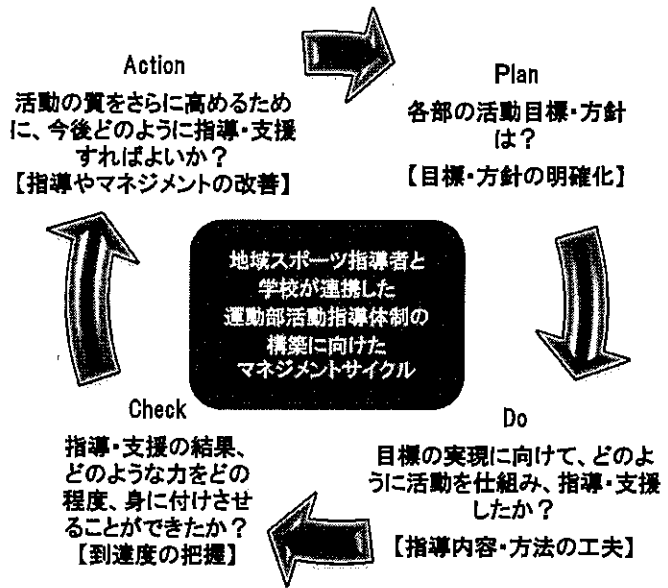
地域スポーツ人材の活用により、安全な部活動の実践と、生徒の自主性の向上を図った事例(ボクシング競技)

学校名	福島県立相馬農業高等学校
部活動名	ボクシング部
部員数	3人(男子1人、女子2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0244-23-5175

学校Eメールアドレス:school@soma-ah.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】**

- (1)練習日誌に練習メニューや反省等を書くよう生徒に指導し、初心者である新入部員が自己管理を行えるよう指導した。
- (2)部活動顧問と外部指導者が協力し、平日に、生徒が自主的に取り組める練習メニューを考案した。
- (3)部活動顧問と外部指導者がともに生徒の健康状態を把握し、情報を共有するように努めた。
- (4)定期的にリングやサンドバッグ、その他練習器具の点検・調整を行い、事故防止に努めた。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】**

- (1)外部指導者との協働により、生徒が自主的に練習に取り組めるようになり、技能・運動能力を大きく向上させることができた。
- (2)生徒の技術が向上し、平成27年度県高等学校新人体育大会、第27回東北高等学校ボクシング新人大会等の試合で好成績を収めることができた。
- (3)外部指導者と部活動顧問が連携・協力し、生徒の状況に合わせた練習メニューを実施できるようになった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】**

- (1)生徒が自分自身のコンディションに合わせて練習メニューを組めるよう、記録や連絡、報告を密に行いたい。
- (2)例年部員数が減少傾向にあり、試合形式での練習が実施しにくくなってきているため、新入生に対してボクシング競技の魅力を広く知らせるための工夫が必要である。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)毎日の練習時に記録する練習日誌をもとに、部活動顧問と外部指導者がともに生徒の状態を把握し、情報を共有するように努めている。
- (2)定期的にリングやサンドバッグ、その他練習器具の点検・調整を行い、事故防止に努めている。
- (3)スパーリング(試合形式の練習)など危険を伴う練習は、顧問や外部指導者の立ち会いのもとで行うようにしている。

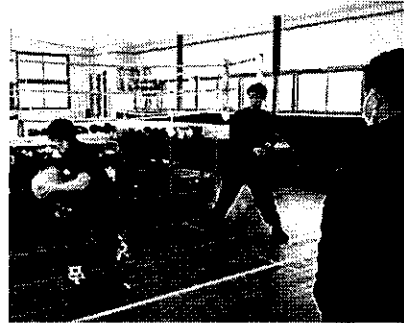
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)外部指導者を招いた土日の練習時に、顧問と外部指導者の打ち合わせを行い、平日の練習メニューなどについて話し合う時間を設けている。
- (2)指導者本人の指導経験に基づいて、生徒だけでなく部活動顧問に対しても技術面の助言を頂いた。このことにより、平日に行える練習のバリエーションが増えた。

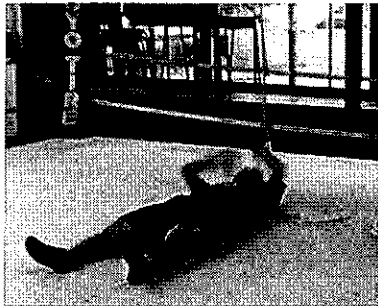
【ミット打ち等の練習指導】  
様々なコンビネーションを身につけるための練習



【生徒の特性に応じた練習法の考案】  
選手の特性に応じて指導者の助言のもと導入した練習メニュー  
(体のひねりを意識し、メディシンボールを投げ合う様子)



【平日の練習メニューの考案】  
平日の練習でも行える筋力トレーニングのメニュー等の考案



【新しいサンドバッグの使い方の考案】  
ボディやアッパーを組み合わせたコンビネーションの練習用

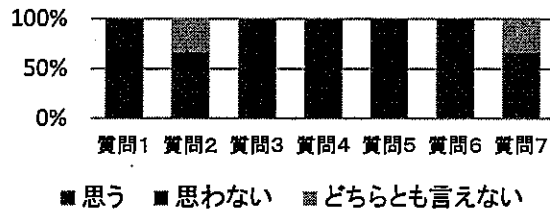


【生徒のアンケート集計結果】  
地域スポーツ人材の活用支援事業の生徒用アンケート分析

以下のアンケートの結果から、外部指導者により専門的な技能や体力、運動能力が高まったと考えていることがわかった。

- 質問1 外部指導者や顧問は、あなたの部活動に対する思いや要望を理解して指導していたと思いますか。
- 質問2 外部指導者は、活動にあたって安全性に配慮して指導していたと思いますか。
- 質問3 部活動をおとして、専門的な技能は高まったと思いますか。
- 質問4 部活動をおとして、体力や運動能力は高まったと思いますか。
- 質問5 部活動の専門的な技能について、外部指導者の指導力は優れていると思いますか。
- 質問6 外部指導者の言葉づかい・態度は、指導者として適切だと思いますか。
- 質問7 部活動の目標や方針、計画練習内容等が具体的に示されていたと思いますか。

地域スポーツ人材の活用実践支援事業  
生徒アンケート



【今後の活動展開・取り組みの方向性】  
活動実績の周知と部活動の活性化に向けて

- (1)部活動の運営状況や活動実績等について、PTA会報や同窓会報に記載し、保護者や同窓生などに向け広く周知する機会を設定する。
- (2)中学生や新入生に対して本事業の取組について説明する機会を設け、部員数を増やし活動の活性化につなげていきたい。

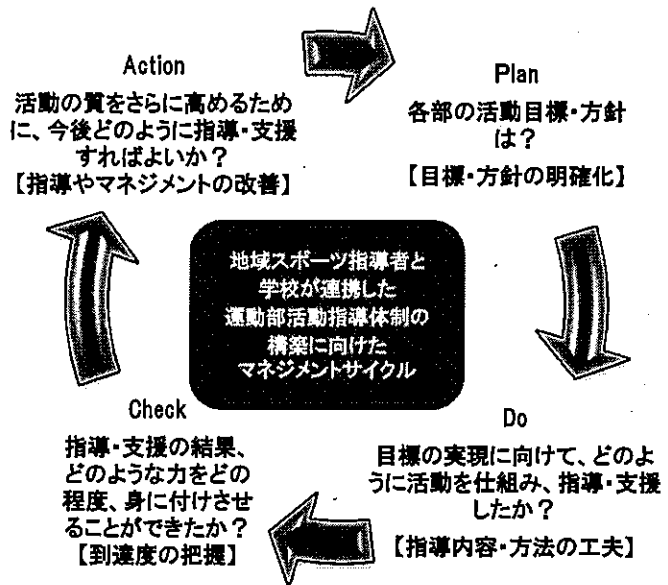
## 事業報告書(様式5)

少人数でもチームワーク重視の運動部活動を目指した実践例

学校名	福島県立新地高等学校
部活動名	女子バレーボール部
部員数	7人(女子7人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0244-62-2009
学校Eメールアドレス:shinchi.h@pref.fukushima.lg.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? [指導内容・方法の工夫]**

(1)地区大会3位と県大会出場を目標に設定し、そのために何をすべきかを考えさせながらチームワークづくりに取り組んだ。  
 (2)部員数が少ないので、各個人の役割や長所・短所をみんなで理解し合いながら指導支援をした。  
 (3)3年生が引退してからは、部員が2人になったため、小高商業高校と相馬東高校と相馬農業高校と4チームで合同チームを組んだ。外部指導者には総合的な助言・指導をもらった。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? [到達度の把握]**

(1)5月の地区大会では、ケガと体調不良の部員が多く、練習が計画的に進まず、目標達成できなかった。しかし、6月の3年生最後の地区大会では、ケガ人・体調不良者はまだいたものの、全員で励まし合い3位になり、県大会へ出場することができた。  
 (2)合同チームでは総合アドバイザーとしてフォーメーションのアドバイスや精神的なアドバイスをもらった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? [指導やマネジメントの改善]**

(1)常にチーム全体の目標を確認する必要がある。  
 (2)これからは合同チームを常に視野に入れなければならないので、お互いの学校に迷惑をかけないように、アタック・レシーブ・トス・サーブといった基本技術を身に付け、どのポジションにも対応できるように練習していく。  
 (3)気持ちに余裕を持つには自分に自信をつけることなので、少人数でも毎日練習を続けることによって継続性を身に付けさせ、自信を持たせたい。

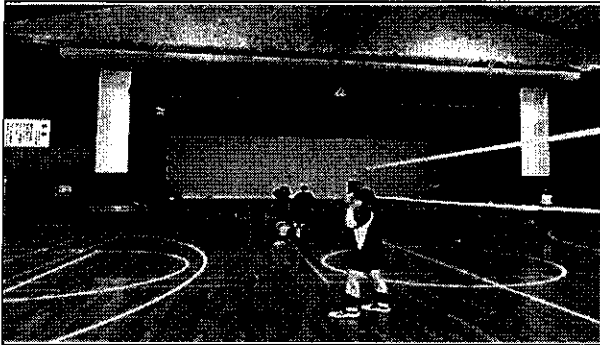
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)練習前後に体調を確認している。痛みが続いている部位があれば、少しの間その部位を使わない練習メニューを行うように心がけた。また、練習後にマッサージとアイシングをするように指示している。  
 (2)部員が少ないので、どうしても技術が高い部員への試合中の負担が大きくなってしまっている。月曜日と木曜日の軽い練習時にはマッサージをし、その他の曜日は練習後に肩と腰を中心にストレッチを実施した。  
 (3)練習試合などでも夢中になってゲームをしてケガをするので、声かけを忘れないようにした。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)電話でもこまめに連絡したり、生徒の状況を知らせるなどして、顧問と外部指導者と生徒に認識のずれが生じないように配慮した。これにより、外部指導者が指導に来る日に効率的に練習を行うことができた。  
 (2)顧問、生徒、外部指導者と意見が食い違ふときには、納得するまで話し合いをした。昨年に引き続き新人大会が合同チームになったので、他の高校の監督とポジションについての意見が分かれてしまったときは、状況を話して理解してもらい、総合アドバイザーとして指導・助言をもらった。

【合同チームの技術観察】  
初めての合同チーム練習で技術レベルの確認



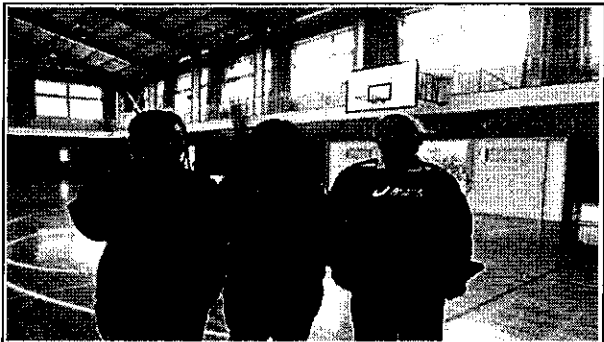
【他校の監督へのアドバイス】  
他校の様子について情報交換



【合同チームへのアドバイス】  
複数の高校の生徒と一緒にアドバイス



【3年生がサーブマシン】  
引退した3年生に協力を受けサーブマシンに



【近年の新地高校女子の部員数】  
昨年より女子の母体数自体は倍増したが、女子部員は増えず

運動部名	1年生女子入部活動数 ( )内は1年生全女子数						
	H21(31名)	H22(22名)	H23(36名)	H24(35名)	H25(28名)	H26(14名)	H27(28名)
バレーボール部	2	4	1	3	2	1	1
バドミントン部	1	5	0	2	3	4	4
ソフトテニス部	0	0	2	3	3	2	3
バスケットボール部	0	1	0	1	0	募集なし	募集なし
弓道部	募集なし	0	0	0	0	2	1
卓球部	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	10	3	9	8	9	9

【女子の運動部の活性化について】  
運動部加入率は上昇。しかし、人数は減っている。

昨年度は、運動部の加入対策を施し、1年生女子の加入率は50%を超えたが、今年度は昨年同様の対策を取ったものの、女子の運動部加入率は32%にとどまり、加入実人数はたったの9人である。また、中学校から継続して同じ部活動に加入している女子生徒は2人であり、部活動を活性化するためには、中学校からの継続が今後の大きな課題である。バレーボール部へは経験者が1人入部したが、南相馬から電車とバスを乗り継いで登校しており、思うように練習できない状態である。中学校との連携の重要性を感じているが、今年度はこちらから練習や練習試合を頼める状況ではなく、対策を考えていかねばならない。この現状は本校だけでなく相双地区全体の問題で、男女ともに新人チームを組めたのは8チーム中1チームであり、中学校・バレーボール協会を巻き込んだ対策が必要と感じられる。中学校の先生方でも危機感を抱いており、「今年度50人いる中学3年バレーボール部員を、いかに高校で続けさせるか。」と考えていると聞いたので、ぜひ中高連携して取り組んでいきたい。



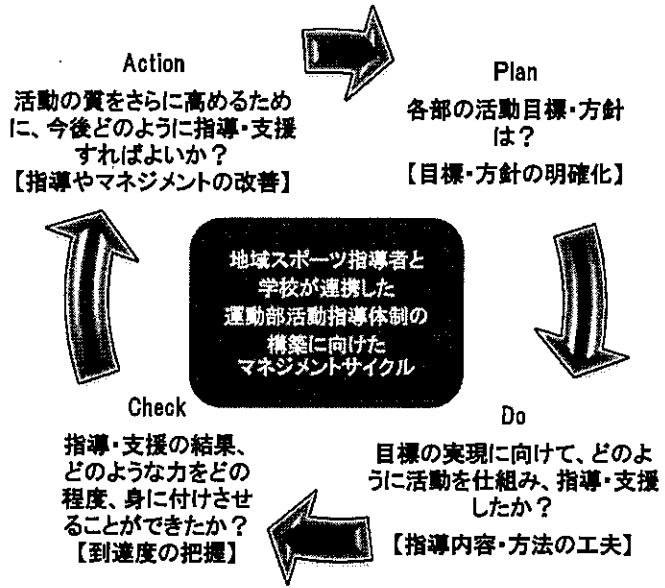
事業報告書(様式5)

剣道の技術指導を通じて育む主体的な人間性

学校名	福島県立いわき総合高等学校
部活動名	剣道部
部員数	7人(男子2人、女子5人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246(26)3505
学校Eメールアドレス:satou.hiroaki@ss37.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? [指導内容・方法の工夫]**

- 剣道初心者の多い本校においては、基本的な技術指導では、まずは指導者が「やってみせる」ことに重点を置き、一つ一つの技や動きを視覚的にとらえさせることで、技術の定着を図った。
- 技術の向上に向けた指導だけでなく、防具の置き方、道場への入り方といった、武道ならではの伝統的礼儀作法等を教え、礼節の整った人間性の形成を目指した。
- 剣道の経験のある保護者を招いての稽古会を実施し、外部指導者と実際に剣を交えていただくことで、本校の取組を理解してもらえるよう配慮した。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? [到達度の把握]**

- 顧問の細かい指示がなくとも、生徒だけで練習の流れを考え、お互いに改善すべきところを指摘し合う自主性が身に付いた。
- 剣道歴、技量の異なる生徒たちに対して、個々に適する指導で技術の向上を図った。
- 基礎筋力トレーニングの際に生徒たちが自分の強化すべき箇所を考え、それに合ったメニューを各自で実践する主体性が身についた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? [指導やマネジメントの改善]**

- 外部指導者、剣道部OB稽古会などを通じて上の年代の人たちから指導を受けているが、さらに地域の剣友会と連携することで、より様々な年代の方々と交流を持たせ、「交剣知愛」の精神のもと、豊かな人間性を育ませる。
- 自分たちに不足している能力について考えさせて、数多くあるトレーニングの種類とその意義を理解し、現在の自分たちに必要な練習計画を導き出せるよう、ある程度の方向性を持たせてディスカッションさせる。
- 教員自ら昇段を目指し練習する姿を生徒に見せることで、練習への意識を高め、高校3年間だけでなく生涯スポーツとして剣道を続けたいという信条を持たせる。

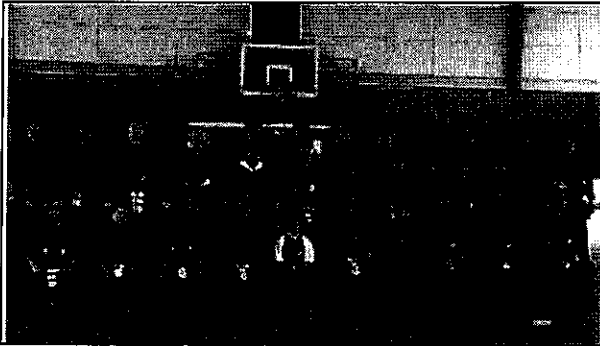
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- 日々の稽古も体調が万全でない場合は、無理はさせず防具などを付けずに、筋トレ・素振りなどを中心に練習に参加させるようにした。
- 剣道という武道の特性上、相手への打突が失敗した際には怪我をさせてしまう恐れがある。そのため、掛り手の技量に応じて、喉元への「突き」ではなく胴上部への「胸突き」や、右脇の「右胴」ではなく元立ちが横向き状態から「前胴」を打たせるなどして、怪我の防止に努めた。
- 考査期間中などの休みが開けた直後の活動では、基礎トレーニングにより身体を慣らす期間を設け、怪我の防止に努めた。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- 顧問と指導者、OBの先生方だけの稽古会を行い、顧問自身の指導技術や知識・体力の向上を図った。
- 指導者の所属する内郷高校剣道部OB会に剣道部顧問として出席し、日々の練習の方針や指導方法について検討する機会を定期的に設けた。
- 10月以降、格技場の改築工事にあたり、練習場所の確保が困難になった際に、外部指導者の所属する剣友会などで練習の場を設けさせていただいた。

【元旦稽古会】  
外部指導者の呼びかけのもと、内郷高校OB  
いわき総合高校OBを招いての元旦稽古会を開催した。



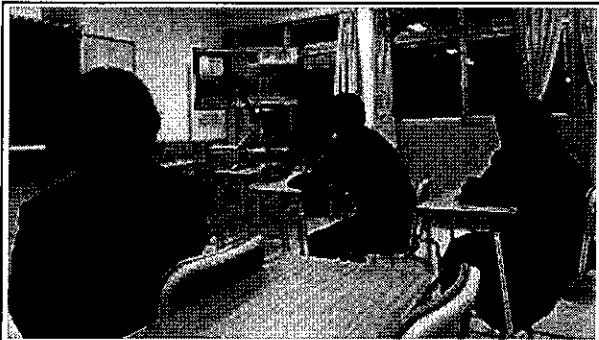
【剣友会での練習】  
10月から格技場の改築工事が入り、練習場所の確保が難しく  
なった際地域の剣友会などで合同で稽古させていただいた。



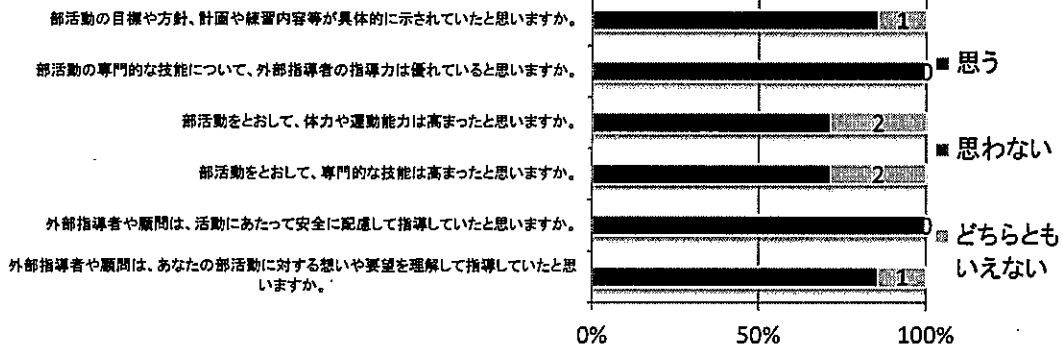
【トレーニングマシンを用いた練習】  
休み明けの練習では、筋力アップと身体の調整も兼ねて  
トレーニングを中心とした練習メニューを取り入れるようにした。



【試合動画をを用いたミーティング】  
試合をビデオで撮影し、その動作を客観的に評価してもらい、  
どのような練習をしなければならないか生徒同士で議論させた。



【地域スポーツ人材の活用実践支援事業のアンケート結果】  
全回答のうち8割近くの肯定的な評価が得られた。



【外部指導者派遣と地域スポーツとの関わり】  
地域の剣友会との協力から見てきた高校部活動の役割

平成27年の10月後半から、耐震工事により本校の剣道場が使えなくなったため、剣道部の練習場所が確保できなくなってしまった。そのため11月からは他校との合同練習や、外部指導者の所属している内郷地区の剣友会などでしか防具を付けての練習ができない状況が続いている。その中で、本校生徒が中学生の時の顧問の先生や、昔から生徒を知っている剣友会の方々などから、様々なお話を聞かせてもらう機会があった。例えばその生徒をより上達させるためにはどうすれば良いかという助言や、また以前にこの生徒はこんなことがあったから目をかけてほしいといった要望など、高校生活だけでは見えてこなかった生徒の個性や性格を改めて知ることによって、今後の指導の参考にすることができた。

今回はたまたま剣道場の工事により、学校以外での練習を行うようになったが、道場が完成した後も地域全体で協力して、そのスポーツに関わる子どもたちを見守り、育てる環境づくりに部活動を通じて携わっていききたい。

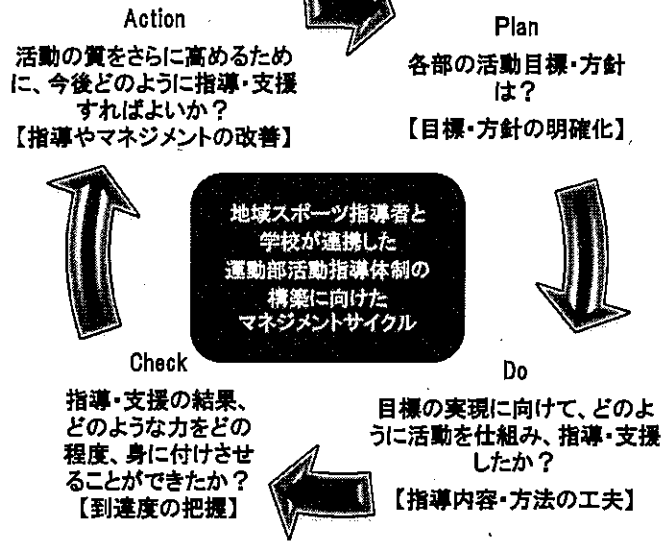
## 事業報告書(様式5)

体力や運動技能の向上を図るとともに、協調性を伸ばし、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うとともに、豊かな人間性を育む基礎である「心技体」を養う。

学校名	福島県立いわき光洋高等学校
部活動名	剣道部
部員数	11人(男子7人、女子4人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246-28-0301
学校Eメールアドレス:school@iwakikoyo-h.fks.ed.jp



### Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか?【指導内容・方法の工夫】

- (1) 年間の目標や方針及び活動内容(練習試合や錬成会)を明確に示すことで、部員が各自の目標や課題をもって活動できるように毎月の練習計画をはじめ大会に向けての目標や課題を個々人に合わせて指導した。
- (2) コーチと部員とのコミュニケーションを図りながら、指導内容や指導法を積極的に活用し、部員の発達段階に応じた心身ともにバランスのとれた成長を促す指導・支援をした。

### Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか?【到達度の把握】

- (1) 基礎技術の鍛錬、気剣体一致を目指した打突の修練をとおして克己の精神を一定培うことができた。
- (2) マンネリ化していた平日の活動内容や練習メニューを、コーチと部員とで話し合う中で、工夫を凝らした練習メニューを考え実践できるようになってきた。
- (3) 県大会入賞という高い目標を持って日々の練習に励み、県高校新人体育大会では県大会に出場できたが、練習の成果を十分発揮した内容ではなかった。しかし、その中で練習に向けた意欲や向上心が生まれてきた。

### Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか?【指導やマネジメントの改善】

- (1) 普段の練習が試合の結果につながることは言うまでもなく、今後も普段の練習を充実したものにすため、部長を中心に各部員が課題を自覚し切磋琢磨できる活動を指導・支援する。
- (2) 県大会で入賞するための課題としては、技術面の向上はもちろんであるが、心技体を基本として気力の養成にも重点をおいて練習に励む必要がある。そのために対外試合などをさらに充実させる指導・支援をしていく。
- (3) 今後とも事故防止のために施設設備の安全点検や、部員の健康管理は徹底して指導支援していきたい。

### 生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと

- (1) 剣道場の施設設備の点検を定期的に行った。とりわけ学校行事等でステージとして使用することが多い床面や防具・木刀などの損傷の有無を部員とともに重点的に注意して点検するように指導した。
- (2) 部員の健康状態は、事前に報告させるとともに観察し懸念のある者は休養させるように指導した。
- (3) 緊急時に備えて、部員にはAEDや救命救急法の校内研修などに参加を促し学習させた。

### 顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと

- (1) 外部指導者へは今後の練習予定や大会日程などの連絡を適宜行い、練習内容や部員の精神面・技術面の課題等について情報交換をし、普段の練習につなげた。
- (2) 外部指導者と部員との信頼関係がよりよく構築できるよう、部員の意識把握を適宜行い改善に努めた。
- (3) 外部指導者とともに、礼儀作法をはじめ練習や試合相手へ敬意など剣道の精神を重点的に指導し、顧問は学校生活や学習状況などの面で部員が剣道の修練に達成感や充実感が持てるように指導・支援した。

**基本練習**  
剣道の基本である打突や動作の練習を重視して行う。

**応用練習**  
実践的な稽古として地稽古や懸り稽古を行う。

部活動の様子がわかる写真①



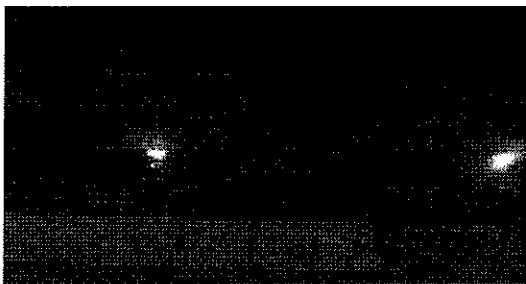
部活動の様子がわかる写真②



**損傷した床面の補修**  
床面に長さ5cm、深さ1cmの損傷がありテープで補修した。

**防具や竹刀等の整理整頓等**  
部室の管理や木刀などの管理を行わせた。

安全確保のために配慮している場面の写真等



工夫した用具や資料の写真等



**部活動アンケート（生徒用）の結果と分析**  
アンケートをもとに生徒の部活動に対する意識を分析してみた。

外部指導者である鈴木順一先生は、十年間継続して本校剣道部の技術面・精神面の両面にわたり指導していただけてきました。本校剣道部には一方ならぬ支援をいただいております。部員のほとんどは中学校時に剣道部に所属していたものの県大会出場もできなかった者で、部員の目標も、県大会で上位に進みたいという部員もいれば、剣道を楽しみたいという部員もおります。以上のことを踏まえて、部活動アンケートの結果を分析してみました。

「質問1」は、外部指導者や顧問が部活動への想いや要望を理解していたと「思う」が10名、「どちらとも言えない」が1名でした。外部指導者と顧問との信頼関係が構築されてきたこともあり、外部指導者とコミュニケーションを十分に図る努力をしてきた結果であると考えられます。

「質問2」は、安全に配慮して指導していたと「思う」が9人で「どちらとも言えない」が2人ですから、部員自身も安全な練習を意識して行動していたと言えます。

「質問3」の専門的技術の向上に関しては、部員自身の目標や意欲によるところが大きく、意欲はありながら納得のいく成果が得られなかった部員もおります。また、2名の部員が退部したことを考えると、活動意欲を継続させるためにも練習内容の充実化が課題と言えます。

「質問4」は、部員の個人差はありますが、ほとんどが高まったと思っています。

「質問5」の「外部指導者の指導力は優れているか」に関しては、中学校時代の顧問（指導者）と比較した場合、外部指導者のことはよく判断できないのではないかと思います。部員のほとんどは、基本的なことは中学校までに中学校の顧問や剣友会の師範に指導されてきたので、その観点で見ると一概に指導力を評価することは困難です。

「質問6」は、外部指導者の態度は指導者として適切であると「思う」がほとんどで外部指導者の実直で誠実な人柄が褒められます。

「質問7」の目標や練習内容などが具体的にであったかについては、顧問として大会はもちろん対外試合や練成会を含めて、部員が心身ともに成長できるよう先を見据えた目標や計画を立てていきたいと考えております。

**本校剣道部の今後の課題**  
易きより難に、簡より繁に導き、心技体の充実化を図る。

今後とも剣道部の活動への指導支援を継続して取り組んでいくとともに、部員一人一人のニーズに合った練習目標や課題を具体化しながら、充実感と達成感の持てる活動を展開していく。

剣道は「剣の道の修練による人間形成」であるという理想を常に意識した上で、心技体の充実が図られなければならない。技術面においては、基本動作の技術向上は言うまでもなく永続的に実施され、ことに技術の偏向の矯正に心がけた稽古が必要である。また、外部指導者がおっしゃっていた「一撃有効打突」や「動から静への動作の連続」「間合い」など意識的な動作によって技術の向上を図るような指導・支援を行ってほしい。部活動を通して自己に適した技術を修得できるように心がけて指導・支援を継続していききたい。

来年度のインターハイ県大会出場を目標に心身両面にわたる充実を図り指導・支援をしていきたい。一方、部活動から離れていく者や学習成績の不振な者もあり、問題は山積している。部員のほとんどは学習と部活動の両立を図りたいと考えており、こうしたニーズを考慮した部活動の在り方、練習内容を今後も模索していきたい。

**事業報告書(様式5)**

高い技術と指導実績を持つ外部指導者と、弓道経験者の顧問が連携して弓道部の指導を行い、部員の技術の向上と人間性の陶冶、試合実績の向上をめざした実践。

**Action**  
活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？  
【指導やマネジメントの改善】

**Plan**  
各部の活動目標・方針は？  
【目標・方針の明確化】

学校名	福島県立湯本高等学校
部活動名	弓道部
部員数	17人(男子7人、女子10人)(除3年)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246(42)2178

学校Eメールアドレス:



**Check**

指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？  
【到達度の把握】

地域スポーツ指導者と学校が連携した運動部活動指導体制の構築に向けたマネジメントサイクル



**Do**

目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？

【指導内容・方法の工夫】

**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1)上級生から下級生への技術指導の徹底 ~ 基本技能の獲得
- (2)外部指導者の招聘 ~ 高度な技術の指導
- (3)部内規律の厳正化 ~ 活動時間の厳守等

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1)本校伝統の礼法、射風の継承が定着してきている。~ 段級審査に受審者全員が合格している。
- (2)全体的な技術水準の向上 ~ 的中率が1、2年共に全体的に向上した。
- (3)球技力の向上 ~ 12月の全国選抜大会(個人)への出場を達成した。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1)上級生から下級生への指導内容の確認と指導法の統一。
- (2)外部指導者との指導内容についての綿密な打ち合わせの実施。
- (3)練習方法の改善と能率化

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1)通常の巻藁の後方に、畳を設置し行射中、巻藁を外しても道場の破損しないように、また部員の安全にも配慮した。
- (2)矢取りの祭には行射中の生徒がいないのを必ず確認させる。
- (3)活動場所が校地外の公共施設のため、練習の祭には顧問が立ち会うようにしている。
- (4)担任や養護教諭と部員について情報交換を行い、健康状態を確認している。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1)指導計画の作成を綿密に行っている。
- (2)事前に十分な打ち合わせを行っている。
- (3)大会や審査の後には、反省点をあげるようにしている。
- (4)射技、体調については外部指導者が、練習試合や合宿等、外部との連絡については顧問が担当している。

日常的な練習風景

矢放をかけるために一斉に行射している。



合宿中の練習風景

指導者が同じ立ちに入り、間合いを指導している。



防矢用畳の使用

本校卒業生の指導の下での巻薬前練習。



離れの理想をめざして

ビニールテープを弦に見たて理想の離れを研究。



顧問・コーチと部員生徒間の信頼関係の推移

生徒の部活動に対するニーズ、安全への配慮、専門的技術の向上についてアンケートを実施した。

アンケート 4月と1月を比較して答えさせた。

Q1 顧問と外部コーチは生徒の皆さんの部活動に対するニーズを理解して指導にあたっていますか。

4月 ア 思う(15) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(2)

1月 ア 思う(16) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(1)

Q2 顧問と外部コーチは活動にあたって安全に配慮して指導していると思いますか。

4月 ア 思う(16) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(1)

1月 ア 思う(17) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(0)

Q3 顧問と外部コーチの指導によって、生徒の専門的な技能は高まったと思いますか。

4月 ア 思う(16) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(1)

1月 ア 思う(17) イ 思わない(0) ウ どちらともいえない(0)

以上の結果から、顧問や外部コーチに対して年度当初から信頼関係があったが、さらにそれ以降の活動をとおして顧問・外部コーチと部員生徒間の信頼関係が緊密なものになったと言うことができる。

今後の部活動指導のあり方

今後の生徒数減少期における部活動のあり方と方向性

◎ 外部指導者に頼らない指導のあり方の研究と校内で指導にあたる顧問の技能、指導力の向上が課題である。

◎ 今後に予想される生徒数の減少、学校の小規模化に伴う部員確保の方法の工夫として練習時間の能率的な配分と練習計画の作成はぜひ取り組まねばならない。

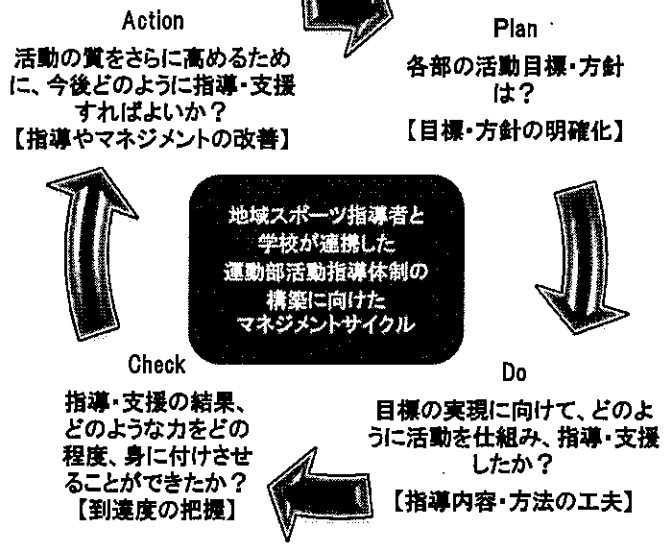
**事業報告書(様式5)**

弓道をとおして精神力と技術力の向上を図る実践例

学校名	福島県立小名浜高等学校
部活動名	弓道部
部員数	8人(男子4人、女子4人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号: 0246-53-3465
学校Eメールアドレス: onahama.h@pref.fukushima.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

(1)現代の弓道は歴史的弓道にスポーツの性格が出てきた。競技性と弓道の神髄を追求する考え方の双方を指導する。  
 (2)技術面は精神面からのスタートと捉え、挨拶・礼儀を指導し、精神面を考えさせる。  
 (3)的に「あてる」気持ちから脱却し、基本体から正しい射を行うことによって結果として「あたる」ことを指導する。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

(1)神殿礼拝から始め、身を引き締めてする射には、精神統一することができた。  
 (2)正しい心得や基本の姿勢や動作の様式(立つ・座る等)を身に付けることができた。  
 (3)精神面からの育成により、正しい射を行うことができ、結果的に多くの「あたり」を得ることとなった。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

(1)弓道教本に書かれていることをすべて理解することは難しい。人伝えで教授されると分かりやすい。  
 (2)一通りの指導だけではなく、他の同競技者の射を見ることで、精神的に成長させることができる。  
 (3)実技のみならず、弓道の成り立ちや倫理性などについて勉強会等を行うと効果的である。

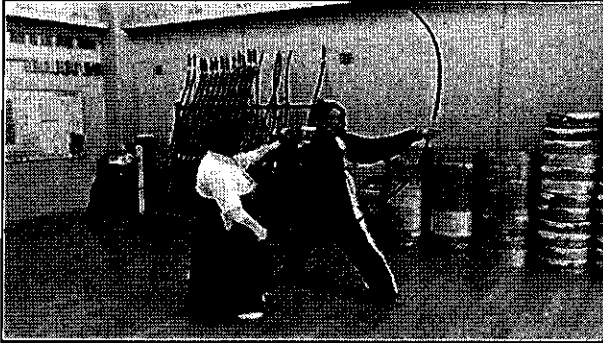
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)毎日の弓具の手入れを怠らず、事故を防止する方策を常に考える。  
 (2)矢取りに行く際には、必ず道場内との連絡を取り了承を得てから向かうこと。  
 (3)巻きわらでの射であっても、気を抜かず、常に安全配慮に気を付ける指導を徹底すること。

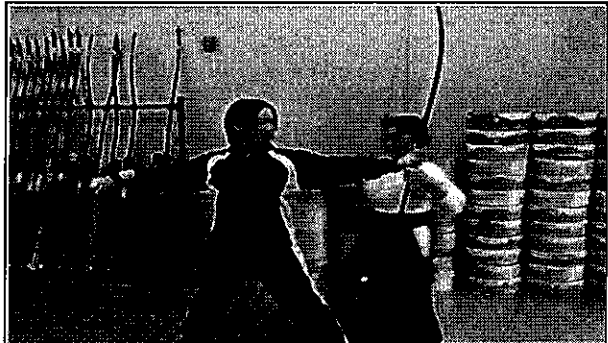
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)月3回程程度の指導なので、日程・時程の調整を密に行い、スケジュールを決めた。  
 (2)安全配慮についても共通理解を持ち、道場での挨拶・立ち振る舞い等の指導を受けた。  
 (3)生徒理解を深めるために、生活環境や精神状態を報告し、射への影響などを考えた。

【正しい射位への指導①】  
射法八節の体現するために指導をしている



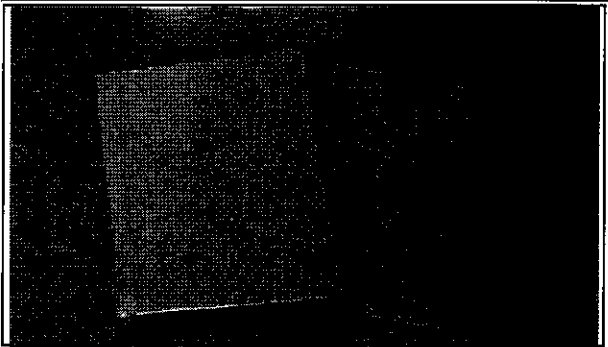
【正しい射位への指導②】  
離れの後、残心の形の修正



【矢を取りに行く際の配置】  
危険防止のため手をたたいて合図をして了解を得て取る



【弓道の基本・弓道教本】  
この本に書いてあることを具現化する



【弓道教本を具現化させるために必要】正しい射法を得るために、直接指導していただけることはいい刺激となる。

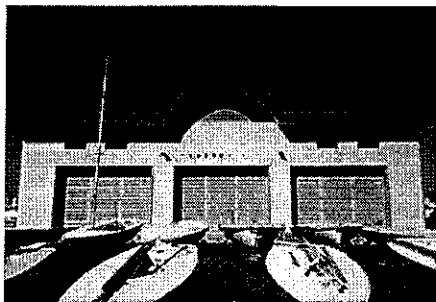
「弓道を行う者の「心得」や「立ち振る舞い」を身に付けている方の言葉は重く、心に響きます。今回のアンケートの結果、「体力・運動能力がついたか？」の質問のみ「どちらともいえない」との回答であったが、その他はすべて「思う」と回答している。  
精神面から技術面まで求められる弓道は日本の伝統であり、礼に始まり礼に終わるけじめのある道である。「弓道教本」により日本の弓の伝統から始まることを、今回の実践事業により行われた。

外部講師は必要不可欠の存在

顧問が未経験である場合、指導が困難である。

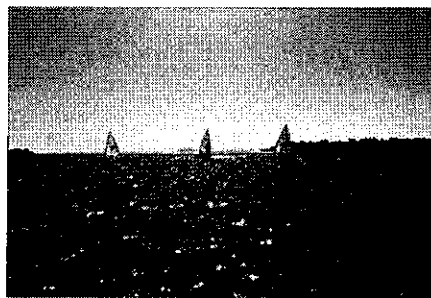
顧問が未経験の場合、生徒への技術的指導が困難である。弓道教本の文字だけでは、教授に限界が生じる。具体的な精神や技術指導には、専門的な技術を持った経験者の指導が必要である。





【いわき海星高校ヨット艇庫 4月艦装確認準備】

昨年より、地元小名浜港で練習再開が可能になった。練習艇の数も増え、新入部員5名が加わり、新体制のスタートとなる。佐藤コーチもトレーニングには、工夫をこらした。陸上でのエアやシュミレーションを丁寧に行ってくれた。



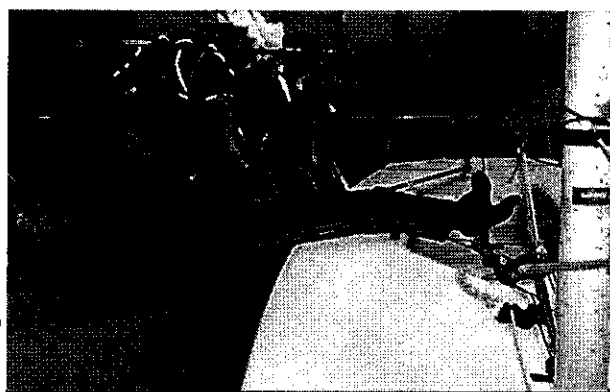
【小名浜港 練習風景】

コートボートから、セーリングの基本動作や風の捉え方など、状況に応じた的確な指示により、強風時でもレベルアップが図られた。



【陸上シュミレーション①】

佐藤純一氏の指導により、落ち着いた状況でシュミレーションを行っていただいた。



【陸上シュミレーション②】

志田浜において、湖特有の平水面で風の振れに集中し、それに対し、次に来る風をどうとらえるか、気持ちの持ち方を教わる



【各種大会 定期戦に参加】

今年は、佐藤氏もいわき海星高校ヨット部を指導する傍ら、自身も各レースに参加し、スキルのアップを図った。ヨットという競技の特性上、一般的に映像としては想像しにくい面があり、実際にやって見せて選手にイメージを湧かせ理解しながら楽しませる事が重要である。

いわきのヨットにおける環境は、少しずつであるが震災後かなり震災前の状況に迫りつつある。外部指導者の起用により、生徒の心身の成長、セーリングスポーツの充実、更に全国の強豪に向かって行くチャレンジ精神を磨き、成長過程の中で個人の個性をいい形で発揮出来るようになってきていると思う。



【旧いわきサンマリーナの復旧】

東日本大震災で私達のホームポートであるいわきサンマリーナは壊滅した。様々な過程を経て、やっと復旧に向かい始めている。

平成7年の国体以来、セーリングスポーツ、又は海洋スポーツ全般の普及、教育に使用されてきたが、現在いわきでは実際に体で感じて体験していく施設は少なくなってきている。また、マリーナに白い帆がいっぱいになることを夢見て、関係者で奮起していきたい。

## 事業報告書(様式5)

外部指導者の活用と他校との連携による運動部活動の指導実践例

学校名	いわき海星高等学校
部活動名	柔道部
部員数	8人(男子6人、女子2人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246-54-3001

学校Eメールアドレス:

Action

活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？  
【指導やマネジメントの改善】

Plan

各部の活動目標・方針は？  
【目標・方針の明確化】



Check

指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？  
【到達度の把握】



Do

目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？  
【指導内容・方法の工夫】

地域スポーツ指導者と学校が連携した運動部活動指導体制の構築に向けたマネジメントサイクル

**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか？【指導内容・方法の工夫】**

- (1) 県大会上位入賞という目標の実現に向けて、柔道六段の段位を持ち、強豪校での指導実績も豊富である外部指導者を、県教育委員会の委嘱により招き、部員の柔道技術の向上に資するようにした。
- (2) 部員数が減少している中でも効果的な練習ができるように、近隣の学校との合同練習、新潟県や山形県等への遠征合宿、大学や中学校との強化練習会等に参加できる機会を設けた。
- (3) 練習を通して、挨拶などの礼儀作法や、集合時間を守ること、練習場の清掃などを指導することにより、規律と公共心を尊ぶ態度や、豊かな人間性を育む基礎を養えるよう支援した。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか？【到達度の把握】**

- (1) 顧問と外部指導者が連携し、その結果、県大会で女子の個人戦で優勝、男女個人での東北大会出場等、前年度と比べても目覚ましい結果を残すことができ、各大会で勝ち抜くことのできる技術を身に付けさせることが出来た。
- (2) 合同練習等で知ることができた練習メニューを積極的に取り入れて、普段の練習に活かすことで、部員の体幹や筋力を効果的に鍛えることが出来るようになった。ベンチプレスを用いたトレーニングでは、これまで持ち上げることの出来なかった荷重にも耐えられるようになり、部員に成就感を与えることができた。
- (3) 他校との交流により、礼儀作法や公共心を尊ぶ態度を醸成し、人間性を育む基礎を養うことができた。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか？【指導やマネジメントの改善】**

- (1) 今年度の、県教育委員会から委嘱された外部指導者の派遣状況は、2時間程度の指導を15回であったが、さらに回数を増やすことで、効果的な指導を継続的に行うことが期待できる。
- (2) 部員数の減少により、効果的な練習をするためには、近隣の学校との合同練習や、遠征練習、合宿等の機会を継続的に確保する必要がある、他校の生徒、顧問と外部指導者が連携し、情報を共有することも必要である。
- (3) 競技に専門的な知識を有していない副顧問等でも、安全に配慮し、部員が怪我をした場合に適切に処置し、怪我に応じた練習メニューを指導・支援できるように、情報を共有し連携を更に強化したい。

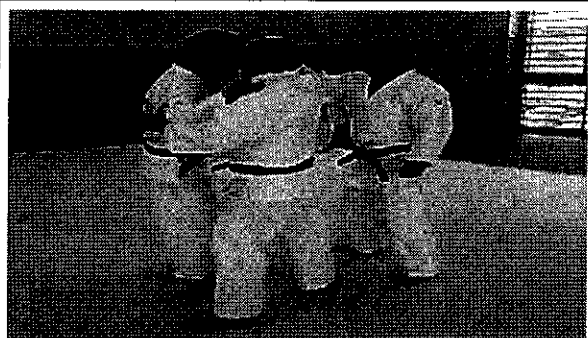
**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

- (1) 顧問、副顧問、外部指導者と複数の目で練習中の生徒を観察し、生徒の健康状態や怪我の有無について確認する体制を構築した。積極的に声かけを行い、生徒の健康状態を把握した。
- (2) 器具を用いた筋力トレーニングでは、特に配慮し、指導者の監督の下、介添えを必ず設けてトレーニングをするよう助言、指導した。柔道場と離れた場所に器具を配置し、空間を確保することでけが防止に配慮した。
- (3) 向上心の強い生徒は、怪我をした状態でも過度な練習をしようとする傾向があるが、怪我の状態に応じたトレーニングメニューを提示し、身体に負担がかからないように配慮、支援した。

**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

- (1) 月ごとに目標を掲げ、それを達成するための練習計画表を作成し、生徒と外部指導者に配布した。練習後には必ずミーティングを行い、必要に応じて外部コーチも交えて情報を共有し、共通理解を図れるようにした。
- (2) 顧問と外部指導者で指導方針に食い違いが起らないように、指導ノートを作成した。寝技、立技の技術指導は顧問が行い、筋力トレーニングは外部指導者が主導するよう役割分担することで、生徒が混乱しないよう配慮した。
- (3) 顧問が出張等で不在で、技術的な指導ができない副顧問が監督する場合に、外部指導者の主導で練習できるように指導体制を構築した。

【寝技の技術指導】  
外部指導者から寝技の技術指導を受ける部員の様子



【立技の技術指導】  
外部指導者から立技の技術指導を受ける部員の様子



【安全に配慮した場面】  
器具を用いたトレーニングで介添えをしている様子



【新しい練習メニュー】  
合同練習で知り得た綱を用いた練習をする部員の様子



【前年度との比較】  
平成26年度と平成27年度の各大会入賞者の比較

### 県大会以上の入賞・出場状況

平成26年度			平成27年度		
県高校体育大会	男子個人100kg超級	第3位	県高校体育大会	男子個人100kg超級	第3位
県高校体育大会	女子個人78kg超級	第3位	県高校体育大会	女子個人78kg超級	第2位
東北高校体育大会	男子個人100kg超級	出場	東北高校体育大会	男子個人100kg超級	出場
県新人体育大会	女子個人78kg超級	優勝	東北高校体育大会	女子個人78kg超級	出場
			県新人体育大会	男子個人73kg級	第3位
			県新人体育大会	女子個人78kg超級	優勝
			高校選手権県大会	女子個人78kg超級	第2位
			高校選手権東北大会	女子個人78kg超級	出場

※前年度と比べ入賞のべ人数も増え、東北大会出場者を出す等、成果を挙げることができた。

【今後の指導体制について】  
外部指導者の活用と他校との連携による指導体制の構築

外部指導者に関する聞き取り調査を行った結果、部員8名(男子6名、女子2名)の全ての生徒から、「指導を受けて良かった」「今後も継続して指導してほしい」という旨の返答があった。また、顧問2名からも外部指導者に今後も指導を継続して欲しいという要望があった。競技の特性上、特に安全配慮が求められる柔道部においては、今後も外部指導者の指導、支援が継続して望まれる。

少子化の影響により、どの運動部活動も部員の減少が著しく、柔道部でも部員の確保が課題である。また、柔道部では、少人数である場合、乱取り等の実践的な練習をすることに困難が生じる場面もある。効果的な練習をするためには、近隣の学校との合同練習や、長期休暇を用いた合宿、強化練習会の参加等、他校の部員たちと触れ合う機会を確保することが必要である。そのため、他校の顧問と連携し、地域ぐるみでの指導体制の構築が望まれる。今年度の成果を踏まえて、来年度以降も、生徒への安全を配慮した上で、積極的に合同練習や合宿を計画する必要があると思われる。他校の生徒との触れ合いを通じて、模範となる部分を積極的に取り入れることで、指導目標としている、規律と公共心を尊ぶ態度や、豊かな人間性を育む基礎を養わせることができるようになると期待される。

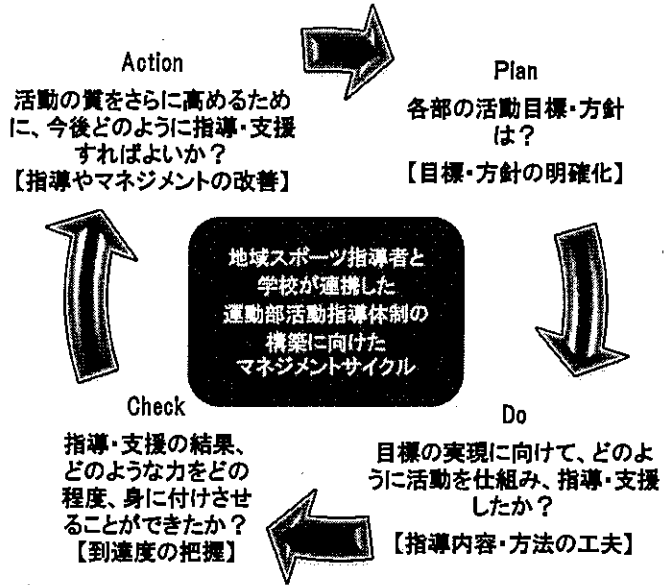
**事業報告書(様式5)**

学校組織を挙げて生徒が輝く運動部活動を目指した実践例

学校名	福島県立好間高等学校
部活動名	柔道部
部員数	7人(男子4人、女子3人)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号:0246-36-2203  
 学校Eメールアドレス:assist@yoshima-h.fks.ed.jp



**Do: 目標の実現に向けて、どのように活動を仕組み、指導・支援したか? 【指導内容・方法の工夫】**

(1)外部コーチと部活動顧問との専門性の違いを活かした指導を実践した。  
 それぞれが得意とする分野を分担して指導することで内容の充実を図った。  
 (2)一般企業人の立場を活かした人間教育を実践した。  
 (3)柔道の指導を通じて実社会が求める力を明確にし、人格の形成を行った。

**Check: 指導・支援の結果、どのような力をどの程度、身に付けさせることができたか? 【到達度の把握】**

(1)個人戦、団体戦での県大会上位入賞と東北、全国大会出場  
 分担して指導を行った結果、個々の生徒の特性に合った技術習得が達成できた。  
 (2)3学年生徒の進路実現と2学年生徒の進路意識の高揚を図れた。  
 (3)柔道の指導を通じ、日頃の学校生活の大切さを再認識させ進路実現へ繋げることが出来た。

**Action: 活動の質をさらに高めるために、今後どのように指導・支援すればよいか? 【指導やマネジメントの改善】**

(1)生徒の自主性をさらに高め、主体的に活動できるよう支援する。  
 (2)個々が具体的な目標を設定し、目標達成のために課題を見つけ克服に努めることが出来るよう支援する。  
 (3)生徒だけのミーティングを充実させ、短期、中期、長期目標や課題設定を明確にさせ自主性を高めさせる。

**生徒の安全を確保するために工夫・配慮したこと**

(1)道場の清掃の徹底を行った。  
 (2)普段の学校生活や部活動において、体調不良等を遠慮なく申し出ることができる雰囲気づくりを行った。また、体調不良や怪我などの生徒は、その症状にあった練習プログラムにより段階に応じた活動ができるように努めた。  
 (3)練習や遠征等の計画を早期に提示し、健康管理やコンディショニングづくりに役立たせた。また、週1日の休養日を設定した。

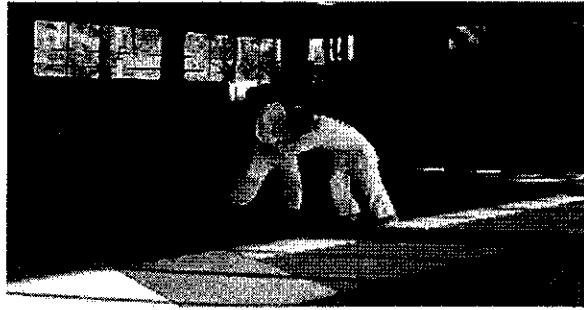
**顧問と外部指導者が連携して指導・支援するために工夫・配慮したこと**

(1)目標の一元化  
 部活動顧問と外部コーチの指導目標が一致するよう、定期的にミーティングを重ね意思統一を図った。  
 (2)生徒の発達段階について共通理解を深めた。  
 (3)外部コーチは週末のみのコーチングとなるため、平日に課題を消化し、新たな課題等についての連絡体制づくりを構築した。

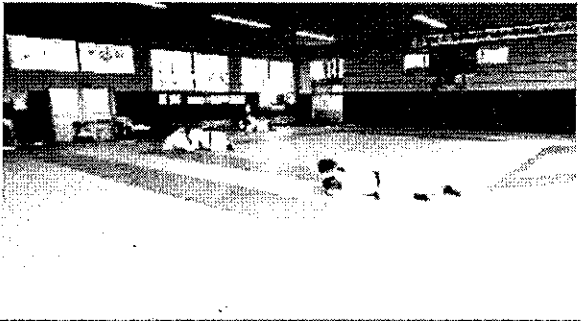
【女子のスキルアップ】  
女子は男子（コーチを含む）と練習することにより  
スキルアップにつなげている。



【男子のスキルアップ】  
日頃の練習相手より高度な技能を持つ者と練習している。



【事故防止策】  
練習時は衝突事故等を防止するスペースを設けている。



【女子選手の強化を目指して】  
全国高校総合体育大会において、女子個人戦の出場を果たす

本柔道部顧問は本校の卒業生であり、母校の活性化への強い思いは計り知れない。近年、女子柔道経験者が多くいることから、女子柔道部員の強化で柔道部の新たな歴史を築くことが学校の活性化と捉えた。その結果、女子団体戦で県大会団体優勝を果たすなど、本校は柔道部の活躍により学校の活性化を図ることができた。

本派遣指導者は、技術指導には定評があり、それ以上に柔道に対する取り組み方や生活全体への指導にも余念がなく、本指導者派遣により県大会の上位入賞、東北大会や全国大会への出場を果たすことができた。今後は、本指導者により培った技能、心構え等を継承し、全国で活躍できる選手育成と今後の指導者となる人材育成に努めたかったが、学級減や市内の私立高校の活躍等が影響し、男子の柔道部経験者の入学者が減少している。また、ここ2年間女子の柔道部経験者の入学者がいない。さらに、柔道の競技人口の減少のため、非常に残念ではあるが平成28年度入学生から柔道部の募集は停止となる。